

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の

効果的な活用に向けた実態調査研究事業

報告書

令和5年3月

株式会社 日本総合研究所

目次

1. 本調査研究の概要	1
1.1. 本調査研究の背景・目的	1
1.2. 本調査研究の進め方・実施事項	1
(1) 検討委員会の設置・運営	1
(2) 先行調査研究等の整理	2
(3) 調査設計	3
(4) アンケート調査の実施	3
(5) ヒアリング調査の実施	3
(6) 効果創出および適切な運用に向けたポイントの検討	3
(7) 報告書の作成	3
2. 先行調査研究等の整理	4
2.1. カメラタイプの見守り機器に関連する先行調査研究	4
2.2. カメラタイプの見守り機器メーカー向けプレヒアリング	5
(1) メーカー向けプレヒアリング調査概要	5
(2) メーカー向けプレヒアリング調査結果	6
3. 調査設計	8
4. アンケート調査結果	9
4.1. アンケート調査設計	9
4.2. アンケート調査結果	10
(1) アンケート調査結果概要	10
(2) アンケート調査結果	11
5. ヒアリング調査結果	66
5.1. ヒアリング調査設計	66
5.2. ヒアリング調査結果	68
(1) ヒアリング調査結果概要	68
(2) ヒアリング調査結果	69
6. アンケート調査及びヒアリング調査結果を踏まえた示唆	73
7. 効果創出および適切な運用に向けたポイントの検討	74
7.1. 効果的な活用に向けたポイント	74
7.2. 効果的な活用に向けた啓発のためのポイント集の作成	75
8. 本調査のまとめ	77
8.1. 本調査の結論	77
8.2. 今後の課題	79
9. 参考資料(アンケート調査票・ヒアリング調査票)	81

1. 本調査研究の概要

1.1. 本調査研究の背景・目的

本調査研究の背景

介護施設等におけるケアの質向上及び生産性向上を目的としたテクノロジーの開発・普及が、国、自治体、関連団体で促進されており、近年、特に見守り機器の導入が進んでいる。「令和3年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和4年度調査)」によると、入所・泊まり・居住系の介護施設・事業所の3割が見守り機器を導入していることが示されている。

介護施設等において活用されている見守り機器には、床マットタイプ、ベッドセンサータイプ、カメラタイプ、といったさまざまな種類がある。その中でも、カメラタイプの見守り機器については、効果的な利活用により、転倒・転落事故の早期発見や居室で発生した事故の検証、夜間の訪室業務の負担軽減等の効果が期待される一方、居室状況等の映像確認や、動画データとしての保存も可能であることから、高齢者本人や職員等の個人情報の保護や、プライバシーへの配慮等が必要となる可能性がある。

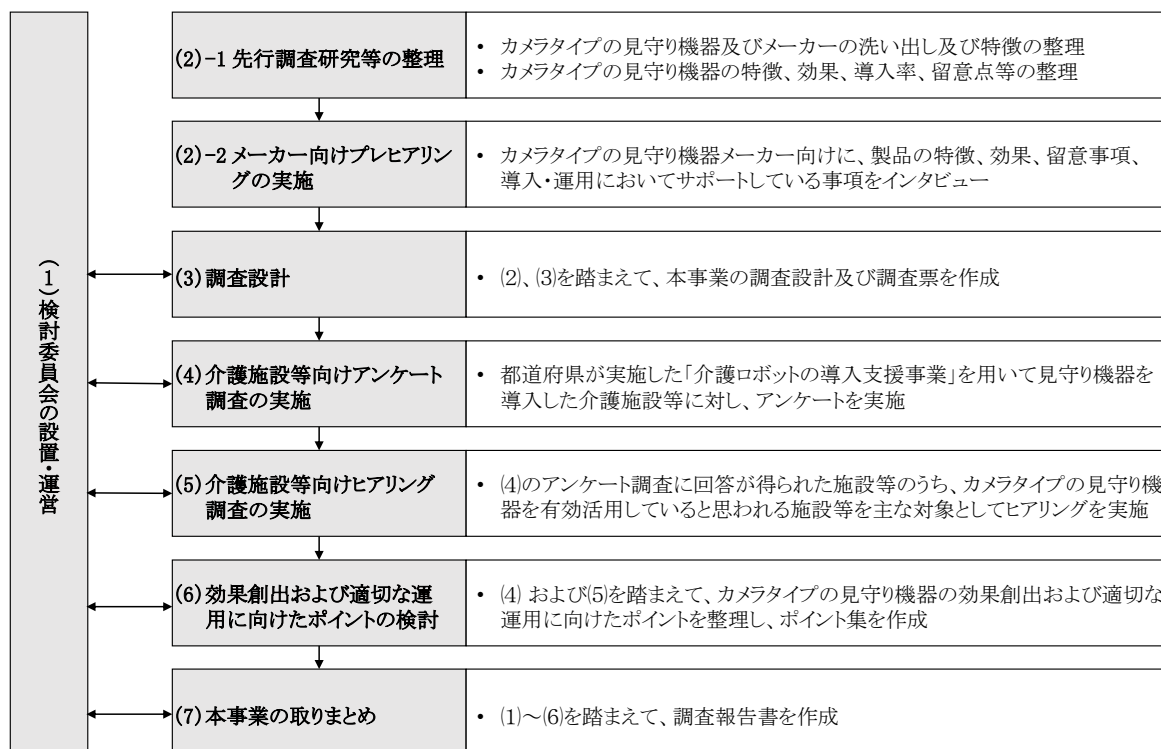
本事業の実施目的

上記の背景を踏まえ、本事業においては、介護施設等に導入されているカメラタイプの見守り機器について、導入施設等への実態調査を実施し、カメラタイプの見守り機器の導入実態や導入効果、効果創出や適切な運用に向けたポイント等を整理し、カメラタイプの効果的な活用に向けた介護施設等向けのポイント集を作成することを目的とした。

1.2. 本調査研究の進め方・実施事項

前述の背景・目的を踏まえ、本研究は以下の内容にて検討・整理を進めた。

図表 1 本調査研究の進め方・実施事項



(1) 検討委員会の設置・運営

本調査事業を実施していく上で、効果的に見守り機器を活用している介護現場を代表する有識者、虐待などの権利擁護・個人情報・プライバシー、介護等に知見を有する弁護士等による検討委員会を設置し、調査やその整理、取りまとめにおいて助言を得た。委員構成は図表 2 に示すとおりである。なお、委員会は計4回実施し、各回の主な議題については図表 3 にて示す。

図表 2 委員構成

氏名 (50音順・敬称略)	所属先・役職名
◇栄藤 稔	大阪大学 先導的学際研究機構 教授
黒澤 佳代子	埼玉県福祉部地域包括ケア課認知症・虐待防止担当
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部長

鳥海 房枝	特定非営利活動法人メイアイヘルプユー 事務局長
◎福井 小紀子	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 在宅・緩和ケア看護学分野 教授
舟田 伸司	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事
本田 幸夫	東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター 特任研究員
八杖 友一	日本弁護士連合会 東京八丁堀法律事務所 弁護士
山田 一久	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT 推進委員会 副委員長

※ ◎印:委員長 ◇印:外部委員

図表 3 委員会各回における主な議題

回	実施日	主な議題
第1回	2022年10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施概要の説明 ・ メーカーヒアリング結果の報告 ・ アンケート調査設計の検討
第2回	2023年1月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査結果(単純集計)の報告 ・ ヒアリング調査に向けた検討 ・ ポイント集の骨子・内容案の検討
第3回	2023年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査の追加分析結果(クロス集計)の報告 ・ ヒアリング調査結果の報告 ・ ポイント集素案の検討
第4回	2023年3月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポイント集(案)の検討 ・ 調査結果を踏まえた考察及び今後の課題の確認

(2) 先行調査研究等の整理

カメラタイプの見守り機器の特徴、効果を整理し、アンケート調査及びヒアリング調査設計の基礎情報とすることを目的に、公開情報から、介護ロボットや ICT 機器、介護施設における見守り機器、高齢者本人の意思決定支援等に関する先行研究を調査した。

加えて、国内のカメラタイプの見守り機器を開発・販売している主要メーカー8社(通常映像型5社、シルエット型3社)に対しヒアリングを行い、製品の特徴や機能、サポート体制、導入済み施設の特徴、今後の課題や展望について調査した。

(3) 調査設計

(2)で実施した先行研究及びカメラタイプの見守り機器開発メーカーへのヒアリング調査結果をもとに、施設向けアンケート調査及びヒアリング調査の調査設計を行った。

(4) アンケート調査の実施

カメラタイプの見守り機器の導入状況、運用状況、導入効果、導入・活用時の課題等について定量的に把握することを目的にアンケート調査を実施した。調査対象は都道府県で実施した「介護ロボットの導入支援事業」(地域医療介護総合確保基金)を用いて見守り機器を導入した介護施設等とした。

(5) ヒアリング調査の実施

アンケート調査を踏まえて、カメラタイプの見守り機器を運用し、介護現場及び入所者に対して、好影響をもたらしている事例と課題があった事例を抽出し、深堀のためのヒアリング調査を行った。

(6) 効果創出および適切な運用に向けたポイントの検討

アンケート調査及びヒアリング調査から得られた結果をもとに、導入効果、効果創出に向けた取組、及び適切な運用に向けた取組に向けたポイントを取りまとめ、「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けたポイント集」を作成した。

(7) 報告書の作成

一連の調査研究の内容・結果について、本報告書に取りまとめた。

2. 先行調査研究等の整理

2.1. カメラタイプの見守り機器に関連する先行調査研究

先行調査として、カメラタイプの見守り機器の特徴、効果を整理し、アンケート調査及びヒアリング調査設計の基礎情報とすることを目的に、公開情報から介護ロボット・ICT 機器、介護施設における見守り機器に関する先行研究を調査した。

図表 4 関連する先行調査研究

カテゴリ	先行調査研究	調査研究概要
介護ロボット・ICT	介護ロボット等の効果測定事業報告書(厚生労働省)	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所に対する介護ロボットの導入効果の実証を検証結果が整理された報告書。 見守り機器の導入によって、利用者の状況を必要な時に確認できることによって、夜勤職員の業務が効率化され、身体的・心理的な負担の軽減につながったことが示されている。
介護ロボット・ICT	令和3年介護労働実態調査(公益財団法人介護労働安定センター)	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所や職員に関する実態調査。 特別養護老人ホームの17.3%が、見守り・コミュニケーション機器を導入していることが示されている。
介護ロボット・ICT	全国老協協版介護ICT導入ガイドライン及び報告書(全国老人福祉施設協議会)	<ul style="list-style-type: none"> 全国8ブロックから選定した実証モデル施設において実際に介護ロボット・ICT機器の導入を行い、その成果を検証することを通じて、機器選定・導入・活用のため実践的な知見を整理したガイドライン。 カメラタイプの見守り機器の効果として、転倒転落早期発見、効果的な事故検証、夜間訪室最適化、入居者の睡眠の質改善等が挙げられている。
介護ロボット・ICT	ヘルスケア産業ニーズ・マーケティング調査(富山県)	<ul style="list-style-type: none"> 富山県内の介護事業所における介護ロボット・ICT等の導入状況やニーズ・課題に関する調査結果をまとめた報告書。 15%の施設が、居室内の行動状況をセンサーやカメラで把握し、転倒の早期発見や駆けつけにつながる機器・システムを導入していることが示されている。
生産性向上	介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン(厚生労働省)	<ul style="list-style-type: none"> 介護施設等における生産性向上、業務改善の取組のポイントや事例が整理されているガイドライン。 生産性向上のポイントとして、業務全体の流れの再構築、テクノロジーの活用、手順書の作成等が挙げられている。

個人情報保護	民間事業者向け個人情報保護法ハンドブック(個人情報保護委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法や、守るべき基本ルールについて解説されている民間事業者向けハンドブック。 個人データの適正を取り扱うために、組織体制の整備や従業員の教育、アクセス制御等が重要であることが示されている。
意思決定支援	認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(厚生労働省)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の意思が適切に反映された生活が送れるよう、認知症の人の意思決定を支援する標準的なプロセスや留意点を記載したガイドライン。 意思決定支援の基本原則として、本人の意思の尊重、本人の意思決定能力への配慮、チームによる早期からの継続的支援が挙げられている。
虐待防止	高齢者施設における「ICT技術」の導入に関する考察:施設内虐待の防止に焦点を当てて(評論・社会科学)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設で起こる虐待を予防するための ICT 技術の導入に関する調査研究。 高齢者施設における ICT 技術導入は、職員負担軽減、介護業務支援に役に立つが、問題点として利用者・職員プライバシー侵害の危険性を指摘している。

2.2. カメラタイプの見守り機器メーカー向けプレヒアリング

(1) メーカー向けプレヒアリング調査概要

国内のカメラタイプの見守り機器を開発・販売している主要メーカーに対しヒアリングを行い、製品の特徴や機能、サポート体制、導入済み施設の特徴、今後の課題や展望について調査した。

図表 5 メーカー向けプレヒアリング調査実施概要

調査目的	カメラタイプの見守り機器の特徴・効果、機能、サポート体制、導入済み施設の特徴、開発・導入にあたっての今後の課題や展望等を整理すること。
調査方法	ヒアリング調査
調査対象	カメラタイプの見守り機器を開発・販売している国内主要メーカー8社 (通常映像型5社、シルエット型3社)
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 製品(カメラタイプの見守り機器)について <ul style="list-style-type: none"> ✓ 仕様や特徴について ✓ 導入時・導入後の対応について ✓ 導入効果について 導入済みの施設の特徴について

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 導入している施設の特徴 ✓ 施設の抱える課題・導入方針 ✓ プライバシーへの配慮等に対する施設側の考え・対応 ・ 今後の課題及び今後取り組みたいこと ✓ 施設向けサポート、設計・開発、他社製品との差別化 等
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) メーカー向けプレヒアリング調査結果

メーカー向けプレヒアリング調査を通して、通常カメラ型とシルエット型で、カメラタイプには違いがみられるが「映像視聴方法・録画方法は共通していること」、どちらのタイプも「業務負担軽減への期待を感じる職員が多く、プライバシーへの懸念はデモ機のお試し後に解消されるケースが多いこと」等が明らかとなった。

図表 6 メーカー向けプレヒアリング調査結果

			通常カメラ型	シルエット型	
仕様 や 特徴	撮影	カメラタイプ	通常のネットワークカメラ	赤外線センサー (距離を測定しシルエットとして表現)	
		表示	通常画像(ぼかし調節可)	シルエット画像	
		リアルタイムでの映像視聴方法	2タイプから選択可能 ①通知・発報起点:ベッドセンサーの通知/ナースコール発報に連動して映像を視聴できる ②任意:任意のタイミングで映像を視聴できる	2タイプから選択可能 ①通知起点:センサーによる起き上がり・転倒等の検知に連動して映像を視聴できる ②任意:任意のタイミングで映像を視聴できる	
	録画	録画タイミング	2タイプから選択可能(①通知・検知・発報前後の映像を録画 ②常時録画)		
		データ管理期間	①通知・発報前後の映像は1年程度 ②常時録画は3~5日程度	検知前後の映像は 1 週間~3 カ月	

	データ	管理場所	施設内 PC の専用 HDD、もしくはカメラ内の SD カード	
		持ち出し	カメラ内の SD カードは持ち出し可 スマホまたは PC にダウンロードできる製品もある	
	音声通話機能		無し (ナースコール付属型はあり)	無し (音声通知機能がある製品はあり)
	価格		比較的低価格 (数万円/カメラ1台)	高価格 (数十万円/カメラ1台)
導入施設	導入施設の特徴	施設類型	ベッドセンサーと比較すると老健施設が多い	特養が半数程度
		主な導入目的	夜間業務の負担軽減、事故発生後の事故状況検証	
	機器導入時	導入時の職員の反応	業務負担軽減への期待を感じる職員が多い (プライバシーへの懸念は画質や視聴タイミング等を調整し保護することを説明することで理解される)	
		同意取得	メーカーから施設側に同意取得を推奨する、 もしくは(推奨せずとも、先んじて)施設が独自に同意取得している	
今後の開発課題		カメラには見えない外観となるような工夫 音声録画機能、音声通話機能の実装	低価格化	
		高齢者本人等が映った画像を出力せずとも、室内状況を把握し、 画像ではなくアイコンで知らせるような機能を持つ見守り機器の開発		

3. 調査設計

先行研究及びカメラタイプの見守り機器開発メーカーへのヒアリング調査結果をもとに、施設向けアンケート調査及びヒアリング調査の調査設計を行った。図表 7 に調査設計の全体像を示す。

図表 7 施設向けアンケート調査及びヒアリング調査の調査設計

	施設向け アンケート調査	施設向け ヒアリング調査
目的	カメラタイプの見守り機器の導入状況、運用状況、導入効果、導入・活用時の課題等について定量的に把握すること	アンケート調査の深堀調査として、特に好事例抽出を図ること
調査対象	都道府県で実施した「介護ロボットの導入支援事業」(地域医療介護総合確保基金)を活用して見守り機器を導入した介護施設等	アンケート調査に回答いただいた施設に対して、①導入効果、②プライバシー配慮の観点で好事例と考えられる施設
主な調査内容	<p><カメラタイプを導入している施設></p> <ul style="list-style-type: none"> 導入のきっかけ、目的、導入理由 導入効果や導入後の課題 運用ルール・研修体制 プライバシー配慮における方法 運用・データ取り扱いルール など <p><カメラタイプを導入していない施設></p> <ul style="list-style-type: none"> 導入している見守り機器 カメラタイプの見守り機器の検討状況、導入しなかった理由 今後の導入意向 など 	<ul style="list-style-type: none"> 導入検討プロセス(課題整理の方法、導入効果の判断基準等) 主な現場の変化と導入効果(具体的な生産性向上や質の向上) 導入時の説明及び同意の手順・方法 機器設置位置や入居者への配慮、録画データ管理等の留意事項など その他、効果的な利活用に向けた具体的な実施事項 など

4. アンケート調査結果

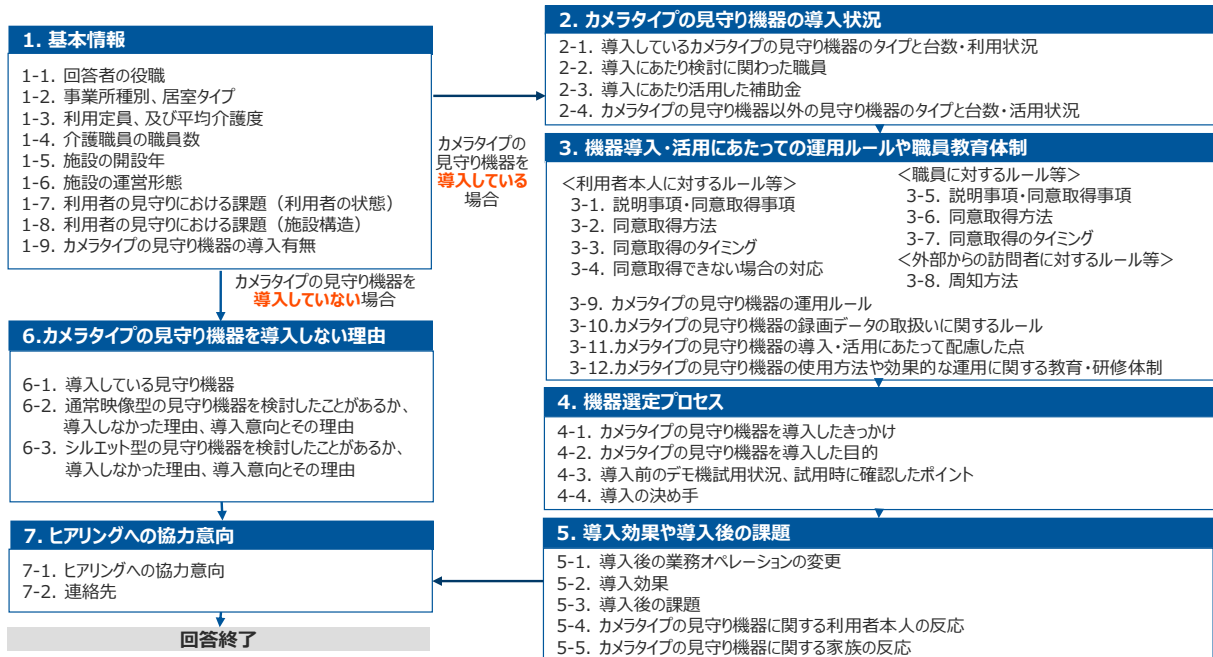
4.1. アンケート調査設計

介護保険施設等に対して以下のとおりアンケート調査を実施した。

図表 8 アンケート調査実施概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・ カメラタイプの見守り機器の導入状況、運用ルールや職員への教育体制、導入効果、導入・活用時の課題等の実態の把握・ カメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた留意事項等の抽出
調査実施日	2022年11月24日～2022年12月21日
調査方法	郵送・メール配布、Web 回答 ※各都道府県担当者に、都道府県で実施した「介護ロボットの導入支援事業」（地域医療介護総合確保基金、令和元年度から令和3年度）を活用して見守り機器を導入した介護施設等に対して、「アンケート調査依頼状（アンケート調査 QRコード付き）」の送付を依頼し、郵送・メールにて配布
調査対象	全国の介護施設等のうち、各都道府県で実施した「介護ロボットの導入支援事業」（地域医療介護総合確保基金、令和元年度から令和3年度）を活用して見守り機器を導入した介護施設等
配布数	2,872 施設
回答施設数	998 施設（回収率 34.7%）
主な調査内容	<カメラタイプの見守り機器を導入している場合> カメラタイプの見守り機器の導入状況・運用ルール・教育体制、選定プロセス、導入効果や導入後の課題 など <カメラタイプの見守り機器を導入していない場合> 導入している見守り機器、カメラタイプの見守り機器の検討状況、導入しなかった理由、今後の導入意向 ※調査設問の流れは、図表9のとおり

図表 9 調査設問の流れ



4.2. アンケート調査結果

(1) アンケート調査結果概要

アンケート調査結果の概要は、以下のとおり。

図表 10 アンケート調査結果概要

項目	概要
1. 基本情報	<ul style="list-style-type: none"> 回答施設・事業所(地域医療介護総合確保基金を活用して見守り機器を導入した介護施設等)のうち、半数が特養、2割が老健、1割がグループホームである。 回答施設・事業所のうち、カメラタイプの見守り機器の導入割合は3割である。 事業所種別で比較すると、施設(特養・特定施設・GH等)が約3割、ショートステイが約4割、老健・介護医療院が約2割である。
2. カメラタイプの見守り機器の導入状況	<ul style="list-style-type: none"> カメラタイプの導入施設のうち、半数強が「通常映像型」を導入し、半数弱が「シルエット型」を導入している。 通常映像型を導入している施設等において、導入検討時に「シルエット型」について知らなかった割合は2割である。

3. 機器導入・活用にあたっての運用ルールや職員教育体制	<ul style="list-style-type: none"> • 不必要なタイミングでは撮影映像を見ないというルールを定めている施設等は約半数である。 • 映像画質調整や、録画データを閲覧できる職員の範囲の限定というルールを定めている施設等は約 1/4 である。 • メーカー主催の説明会や研修に参加している施設等は約 4 割である。
4. 機器選定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> • 導入目的について、転倒転落防止・早期発見が 9 割、訪室業務負担軽減が 7 割である。 • 導入の決め手について、補助金対象であることが 6 割、録画できることが 5 割弱、画質を調整等できることが 4 割である。
5. 導入効果や導入後の課題	<ul style="list-style-type: none"> • 機器導入による大きな効果として、事故検証が 5 割強、転倒転落防止が 4 割である。 • 「利用方法を把握していない職員がいる」が 4 割、「プライバシーへの配慮が困難」が 3 割である。
6. カメラタイプの見守り機器を導入しない理由	<ul style="list-style-type: none"> • 導入しない理由について、通常映像型は「利用者のプライバシーの観点からの懸念」、シルエット型は「高額な費用」が多い。 • 今後の導入意向について「あり」と答えた割合は、通常映像型が 2 割、シルエット型が 1 割である。

(2) アンケート調査結果

① 回答者情報

■ 回答者の役職

- 回答者の役職は、「施設長等の管理者クラス」が 49.2%、「事務職」が 24.4%、「介護リーダー等のリーダークラス」が 9.9%であった。

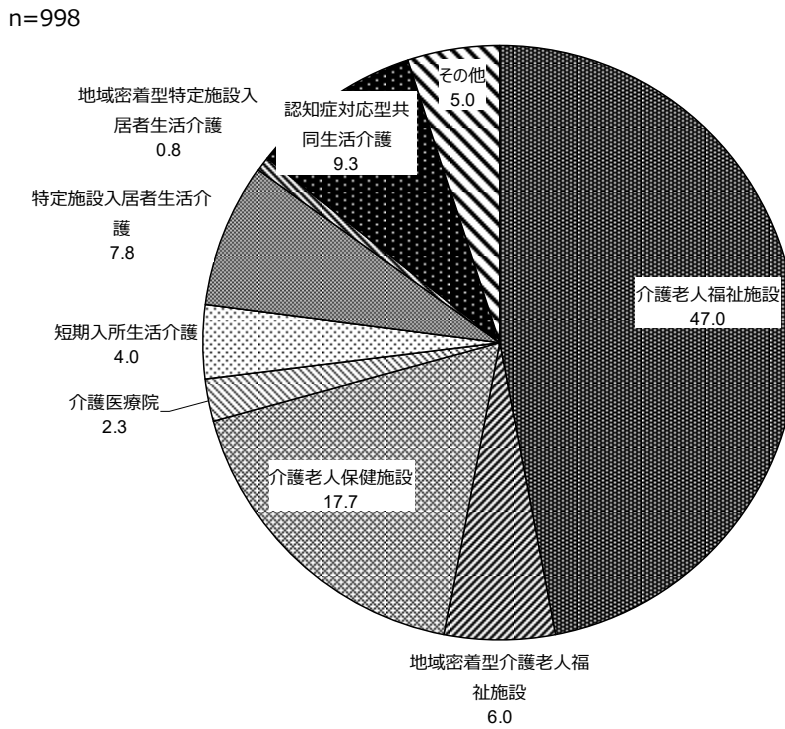
図表 11 回答者の役職

	単位 (%)				
	全体 (n=998)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=708)	老健・介護医療院 (n=200)	ショートステイ (n=40)	その他 (n=50)
法人理事長・理事	4.5	4.5	3.0	12.5	4.0
施設長等の管理者クラス	49.2	53.1	32.0	55.0	58.0
介護リーダー等のリーダークラス	9.9	11.2	6.5	12.5	4.0
一般の介護職員	0.7	0.8	0.0	0.0	2.0
看護職員	0.3	0.1	1.0	0.0	0.0
ITに関する専門職	0.3	0.3	0.5	0.0	0.0
その他専門職	8.5	9.3	8.0	0.0	6.0
事務職	24.4	18.4	48.5	15.0	22.0
その他	2.1	2.3	0.5	5.0	4.0

■ 施設種別

- 施設種別は「介護老人福祉施設」が47.0%と最も多く、「介護老人保健施設」が17.7%、「認知症対応型共同生活介護」が9.3%、「特定施設入居者生活介護」が7.8%であった。

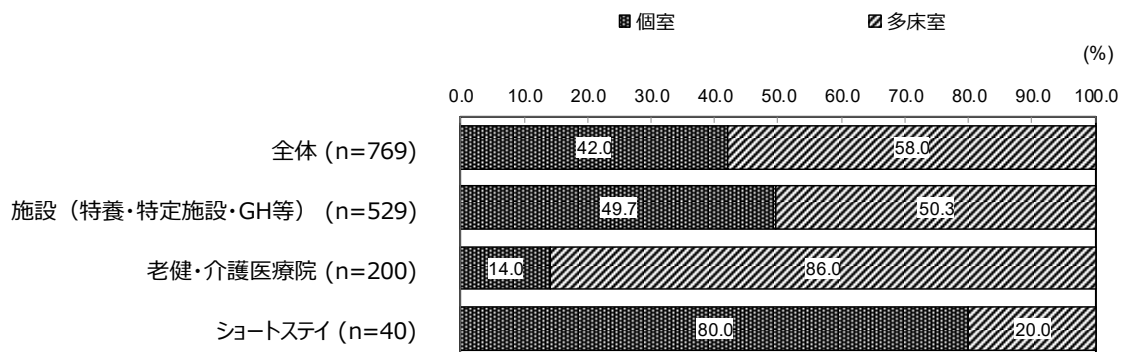
図表 12 施設種別



■ 居室タイプ

- 居室タイプに関しては、「多床室」が58.0%、「個室」が42.0%であった。

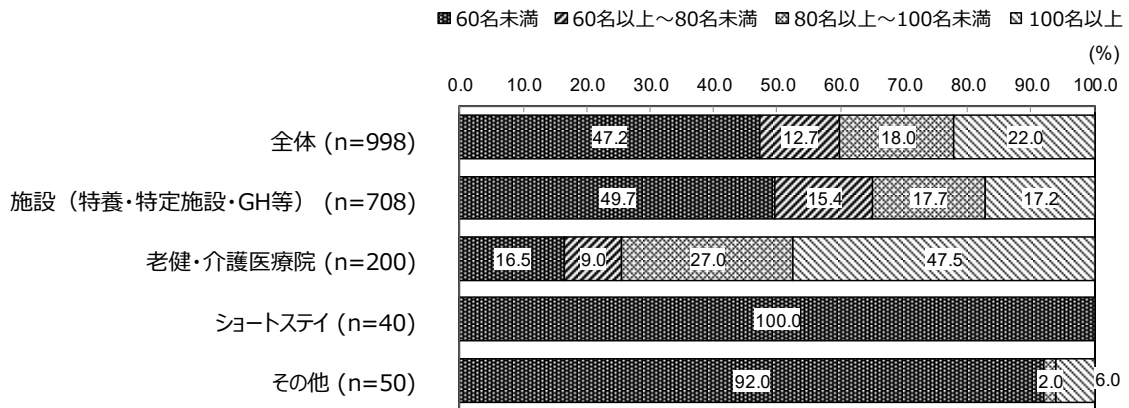
図表 13 居室タイプ



■ 利用定員数

- ・ 利用定員数に関しては、「60名未満」が47.2%、「60名以上～80名未満」が12.7%、「80名以上～100名未満」が18.0%、「100名以上」が22.0%であった。

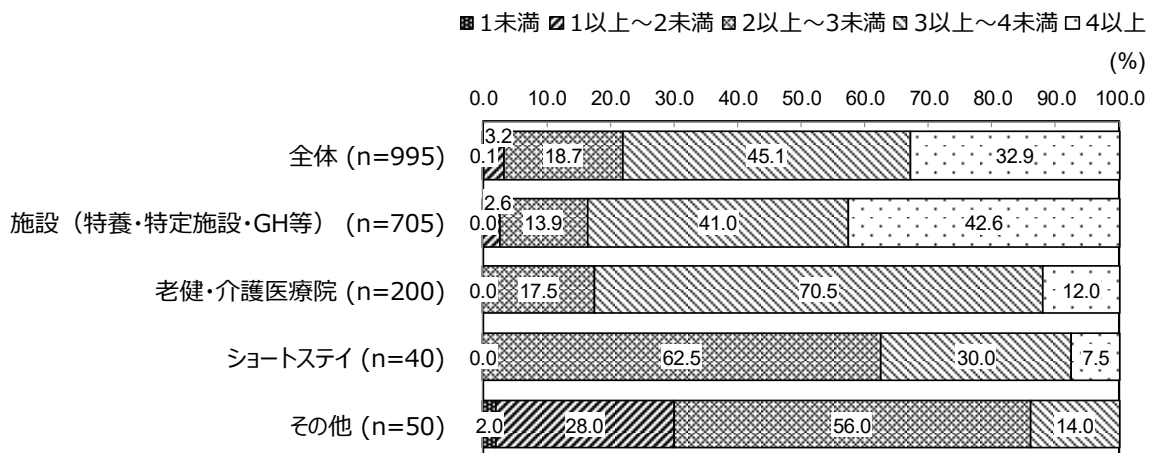
図表 14 利用定員数



■ 平均介護度

- ・ 平均介護度に関しては、「3以上4未満」が45.1%、「4以上」が32.9%、「1以上～2未満」が18.7%であった。

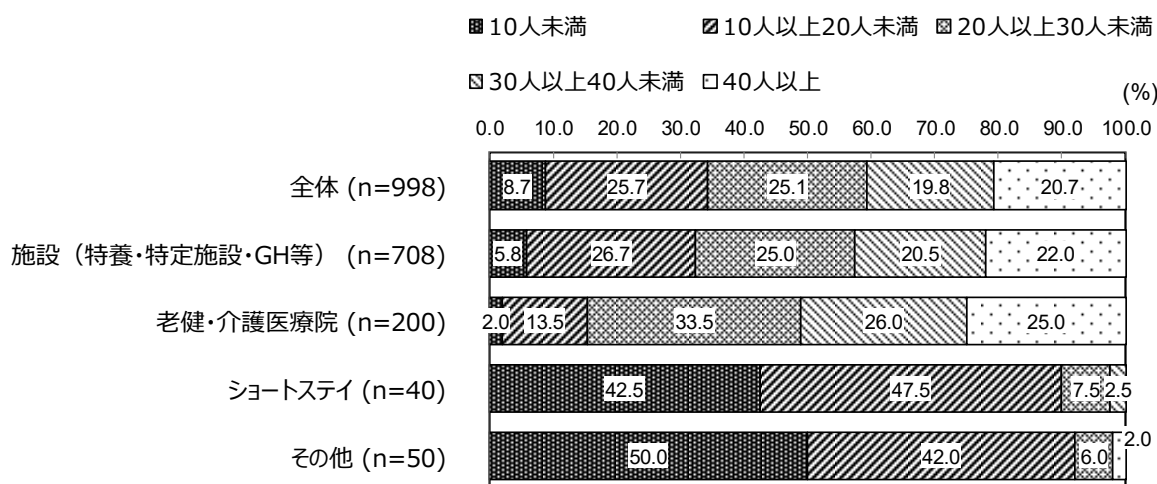
図表 15 平均介護度



■ 介護職員数(常勤換算数)

- ・ 介護職員数(常勤換算数)に関しては、「10人以上20人未満」が25.7%、「20人以上30人未満」が25.1%、「40人以上」が20.7%であった。

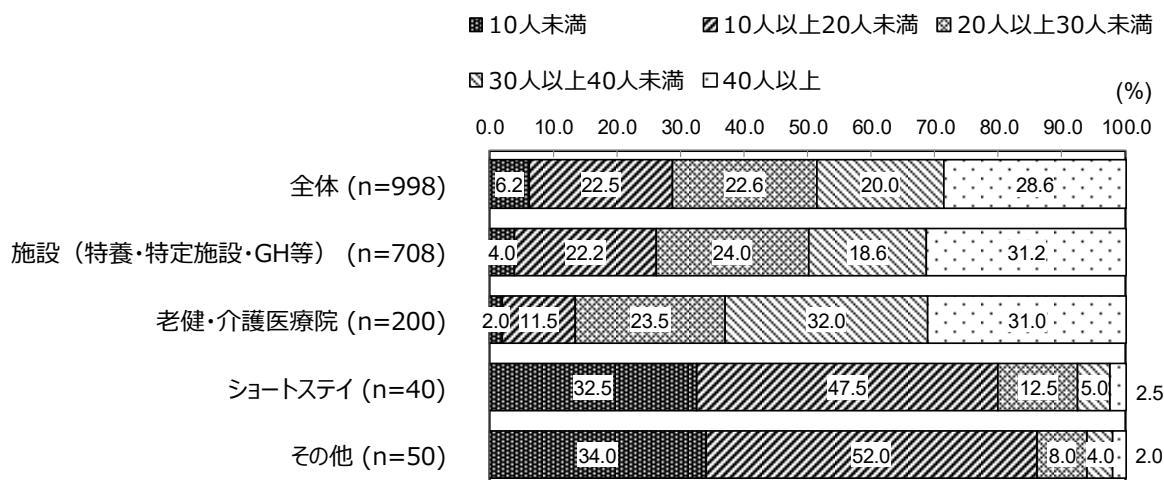
図表 16 介護職員数(常勤換算数)



■ 介護職員数(実人数)

- ・ 介護職員数(実人数)に関しては、「40人以上」が28.6%、「20人以上30人未満」が22.6%、「10人以上20人未満」が22.5%であった。

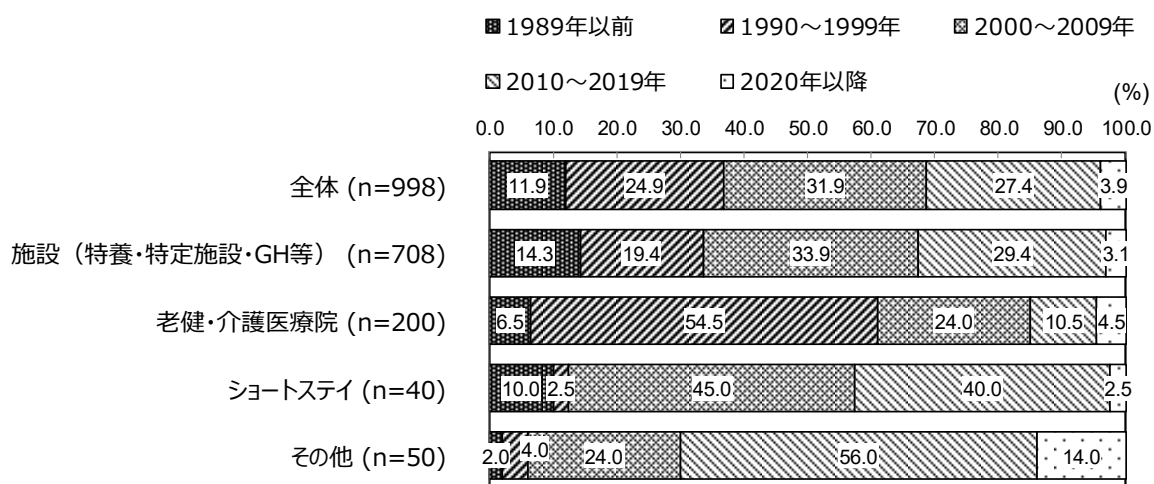
図表 17 介護職員数(実人数)



■ 施設開設年

- 施設開設年に関しては、「2000～2009年」が31.9%、「2010～2019年」が27.4%、「1990～1999年」が24.9%であった。

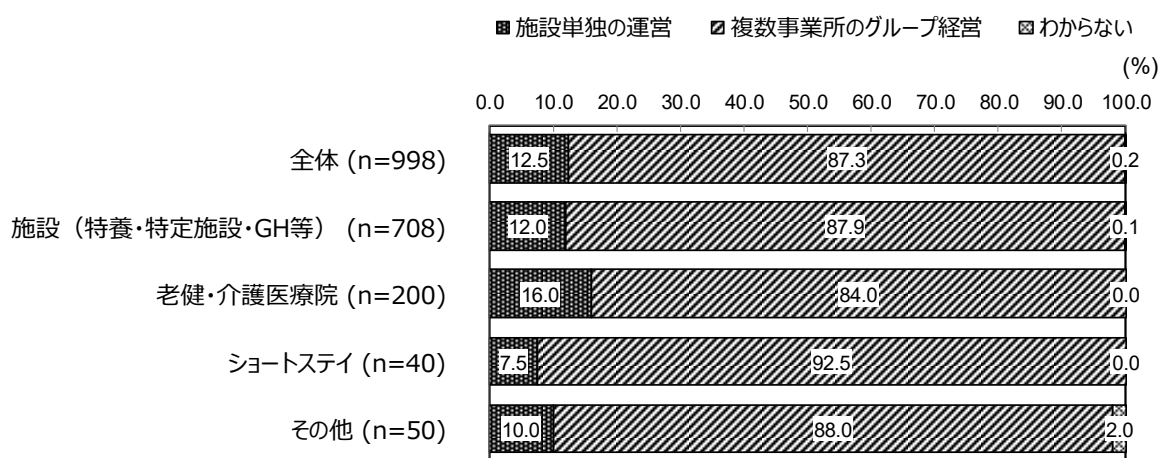
図表 18 施設開設年



■ 施設・事業所の運営形態

- 施設・事業所の運営形態に関しては、「複数事業所のグループ経営」が87.3%、「施設単独の運営」が12.5%であった。

図表 19 施設・事業所の運営形態



② 単純集計

■ 施設の利用者の状態に関連する課題

- 施設の利用者の状態に関連する課題に関しては、「転倒リスクの高い利用者が多い」が 87.2%、「ベッドからの転落リスクの高い利用者が多い」が 66.4%、「認知症の行動・心理症状(幻覚・妄想など)を有する利用者が多い」が 55.9%であった。

図表 20 施設の利用者の状態に関連する課題

	単位 (%)				
	全体 (n=998)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=708)	老健・介護医療院 (n=200)	ショートステイ (n=40)	その他 (n=50)
転倒リスクの高い利用者が多い	87.2	87.4	90.0	87.5	72.0
ベッドからの転落リスクの高い利用者が多い	66.4	67.1	73.5	55.0	38.0
夜間に徘徊する利用者が多い	25.1	23.3	30.0	37.5	20.0
認知症の行動・心理症状(幻覚・妄想など)を有する利用者が多い	55.9	56.4	58.5	40.0	52.0
夜間にオムツ外しをする利用者が多い	16.8	16.0	21.5	17.5	10.0
睡眠不良(昼夜逆転など)の利用者が多い	32.4	33.8	31.0	37.5	14.0
夜間に、排泄等のため覚醒する利用者が多い	47.0	46.8	49.0	55.0	36.0
その他	1.7	1.1	3.0	2.5	4.0
利用者の状態による課題は特いない	2.9	2.8	1.5	5.0	8.0

■ 施設の施設構造に関連する課題

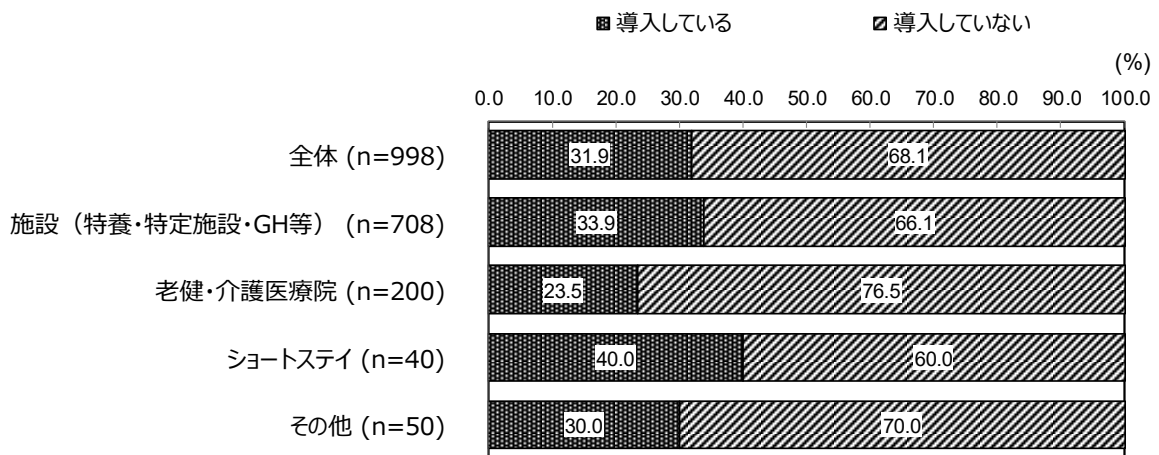
- 施設の施設構造に関連する課題に関しては、「スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れている居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる」が 60.8%、「居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる」が 58.7%、「居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる」が 60.8%、「居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる」が 58.7%であった。

図表 21 施設の施設構造に関連する課題

	単位 (%)				
	全体 (n=998)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=708)	老健・介護医療院 (n=200)	ショートステイ (n=40)	その他 (n=50)
居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる	58.7	59.6	67.0	52.5	18.0
スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れている居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる	60.8	59.3	75.0	47.5	36.0
居室が複数棟に分かれており、各棟の職員間の連携が難しい	16.0	18.4	11.0	7.5	10.0
居室が複数階に分かれており、各階の職員間の連携が難しい	24.6	25.1	29.0	12.5	10.0
その他	3.5	3.5	2.5	5.0	6.0
施設構造の課題は特いない	13.2	13.3	4.5	17.5	44.0

- 居室におけるカメラタイプ見守り機器の導入状況
 - ・ 居室におけるカメラタイプ見守り機器の導入状況に関しては、「導入していない」が 68.1%、「導入している」が 31.9%であった。
 - ・ 全体と比較して、ショートステイの導入率が高く(40.0%)、老健・介護医療院の導入率が低い(23.5%)。

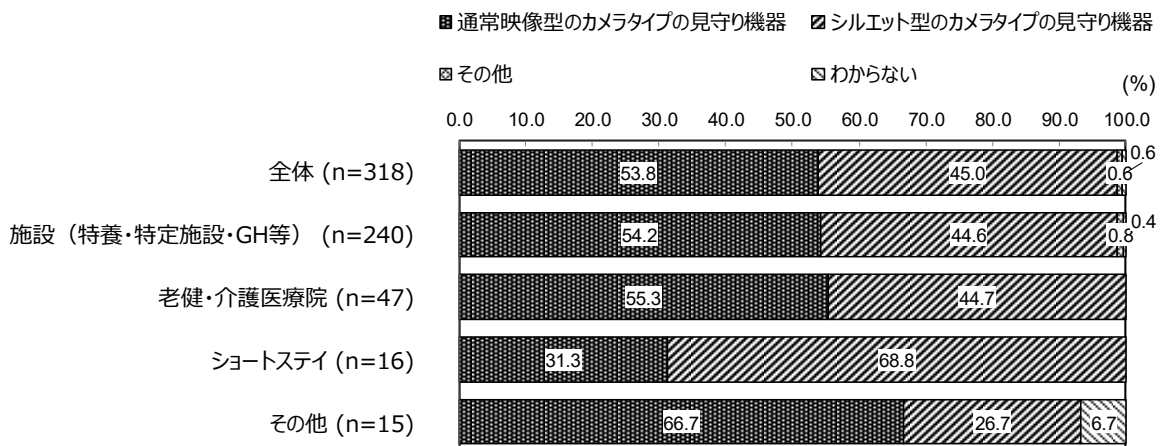
図表 22 居室におけるカメラタイプ見守り機器の導入状況



(1) カメラタイプの見守り機器の導入状況

- 導入しているカメラタイプ見守り機器のタイプ
 - ・ 導入しているカメラタイプ見守り機器のタイプに関しては、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器」が 53.8%、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器」が 45.0%であった。
 - ・ N 数が小さいため参考値ではあるが、ショートステイでは、全体と比較して、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器」を導入している割合が大きい。

図表 23 導入しているカメラタイプ見守り機器のタイプ



■ 導入している機器の台数

- ・ 導入している機器の台数に関しては、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器」が 18.3 台、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器」が 11.0 台、「その他」が 13.0 台であった。

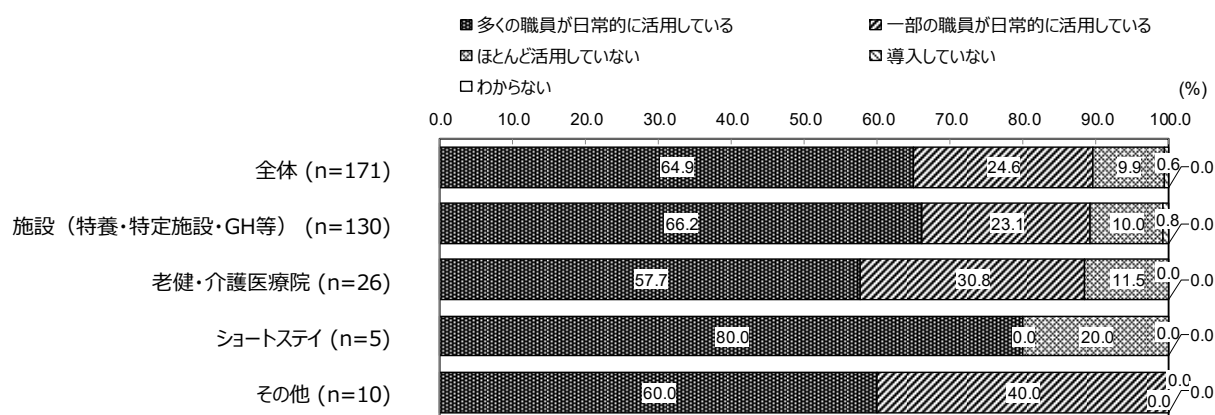
図表 24 導入している機器の台数

平均値	単位：台				
	全体 (n数は以下) ①171、②143、③2	施設（特養・特定施設・GH等） (n数は以下) ①130、②107、③2	老健・介護医療院 (n数は以下) ①26、②21、③0	ショートステイ (n数は以下) ①5、②11、③0	その他 (n数は以下) ①10、②4、③0
①通常映像型のカメラタイプの見守り機器	18.3	20.3	13.7	12.2	6.5
②シルエット型のカメラタイプの見守り機器	11.0	11.4	13.3	5.3	3.3
③その他	13.0	13.0	-	-	-

■ 導入している機器の利用頻度 通常映像型のカメラタイプの見守り機器

- ・ 通常映像型のカメラタイプの見守り機器の利用頻度に関しては、「多くの職員が日常的に活用している」が 64.9%、「一部の職員が日常的に活用している」が 24.6%、「ほとんど活用していない」が 9.9%であった。

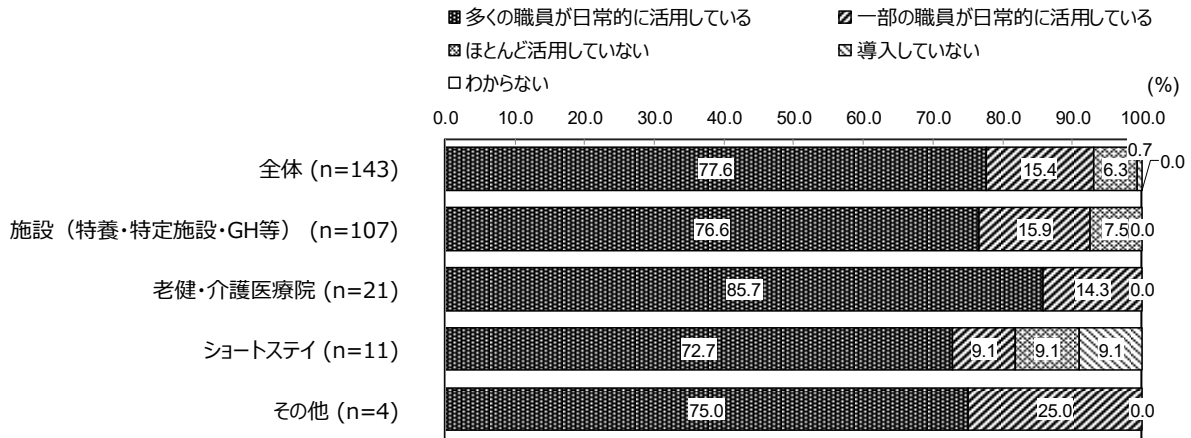
図表 25 導入している機器の利用頻度 通常映像型のカメラタイプの見守り機器



■ 導入している機器の利用頻度 シルエット型のカメラタイプの見守り機器

- ・ シルエット型のカメラタイプの見守り機器の利用頻度に関しては、「多くの職員が日常的に活用している」が 77.6%、「一部の職員が日常的に活用している」が 15.4%、「ほとんど活用していない」が 6.3%であった。

図表 26 導入している機器の利用頻度 シルエット型のカメラタイプの見守り機器



■ (シルエット型導入施設)通常映像型の導入検討状況

- ・ シルエット型導入施設における、通常映像型のカメラタイプ見守り機器の導入検討状況に関しては、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」が 36.6%、「導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある」が 21.4%、「導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない」が 20.7%であった。
- ・ N数が小さいため参考値ではあるが、老健・介護医療院では、全体と比較して、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」割合が大きい。

図表 27 (シルエット型導入施設)通常映像型の導入検討状況

	全体 (n=145)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=109)	老健・介護医療院 (n=21)	ショートステイ (n=11)	その他 (n=4)
導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある	21.4	22.0	23.8	9.1	25.0
導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない	20.7	21.1	9.5	36.4	25.0
通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない	36.6	32.1	57.1	36.4	50.0
通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった	9.0	10.1	0.0	18.2	0.0
その他	3.4	3.7	4.8	0.0	0.0
わからない	9.0	11.0	4.8	0.0	0.0

■ (通常映像型導入施設)シルエット型の導入検討状況

- ・ 通常映像型導入施設における、シルエット型のカメラタイプ見守り機器の導入検討状況に関しては、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」が 43.9%、「導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない」が 15.0%、「導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある」が 11.0%であった。
- ・ N数が小さいため参考値ではあるが、老健・介護医療院では、全体と比較して、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」割合が小さい。

図表 28 (通常映像型導入施設)シルエット型の導入検討状況

	単位 (%)				
	全体 (n=173)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=132)	老健・介護医療院 (n=26)	ショートステイ (n=5)	その他 (n=10)
導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある	11.0	10.6	19.2	0.0	0.0
導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない	15.0	15.2	15.4	0.0	20.0
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない	43.9	45.5	34.6	60.0	40.0
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった	17.9	15.9	23.1	20.0	30.0
その他	2.9	3.8	0.0	0.0	0.0
わからない	9.2	9.1	7.7	20.0	10.0

■ 導入検討に関わった職員

- ・ 導入検討に関わった職員に関しては、「施設長等の管理者クラス」が 88.7%、「介護リーダー等のリーダークラス」が 78.6%、「一般の介護職員」が 42.1%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、概ねすべての職員で関わっている割合が大きい。

図表 29 導入検討に関わった職員

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
法人理事長・理事	36.5	34.6	42.6	43.8	40.0
施設長等の管理者クラス	88.7	89.6	83.0	93.8	86.7
介護リーダー等のリーダークラス	78.6	79.6	93.6	56.3	40.0
一般の介護職員	42.1	43.3	51.1	18.8	20.0
看護職員	29.9	27.1	55.3	6.3	20.0
ITに関する専門職	11.6	10.8	23.4	0.0	0.0
その他専門職	14.8	17.5	10.6	0.0	0.0
事務職	28.9	24.6	57.4	12.5	26.7
その他	3.5	2.5	4.3	12.5	6.7

■ 導入検討に関わった職員(主たる責任者)

- ・ 導入検討に関わった職員のうち、主たる責任者に関しては、「施設長等の管理者クラス」が 49.7%、「介護リーダー等のリーダークラス」が 26.4%、「法人理事長・理事」が 11.6%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「介護リーダー等のリーダークラス」が責任者となっている割合が大きい。

図表 30 導入検討に関わった職員(主たる責任者)

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設(特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
法人理事長・理事	11.6	10.8	8.5	25.0	20.0
施設長等の管理者クラス	49.7	51.7	36.2	43.8	66.7
介護リーダー等のリーダークラス	26.4	27.1	34.0	6.3	13.3
一般の介護職員	0.6	0.4	0.0	6.3	0.0
看護職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ITに関する専門職	0.9	1.3	0.0	0.0	0.0
その他専門職	3.8	5.0	0.0	0.0	0.0
事務職	5.0	2.9	17.0	6.3	0.0
その他	1.9	0.8	4.3	12.5	0.0

■ 導入検討に関わった職員(決定者)

- ・ 導入検討に関わった職員のうち、決定者に関しては、「施設長等の管理者クラス」が 58.8%、「法人理事長・理事」が 26.4%、「介護リーダー等のリーダークラス」が 8.5%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「法人理事長・理事」及び「介護リーダー等のリーダークラス」が決定者となっている割合が大きい。

図表 31 導入検討に関わった職員(決定者)

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設(特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
法人理事長・理事	26.4	25.0	29.8	31.3	33.3
施設長等の管理者クラス	58.8	60.0	51.1	56.3	66.7
介護リーダー等のリーダークラス	8.5	8.8	12.8	0.0	0.0
一般の介護職員	1.3	0.8	2.1	6.3	0.0
看護職員	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0
ITに関する専門職	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他専門職	1.3	1.7	0.0	0.0	0.0
事務職	2.2	2.1	2.1	6.3	0.0
その他	1.3	1.3	2.1	0.0	0.0

■ 活用した補助金

- ・ 活用した補助金に関しては、「介護ロボット導入支援事業(地域医療介護総合確保基金)」が73.3%、「都道府県独自の補助事業」が16.4%、「補助金は利用していない」が6.9%であった。

図表 32 活用した補助金

単位 (%)

	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
介護ロボット導入支援事業 (地域医療介護総合確保基金)	73.3	74.2	83.0	50.0	53.3
都道府県独自の補助事業	16.4	17.5	12.8	18.8	6.7
市区町村独自の補助事業	2.5	2.5	2.1	0.0	6.7
その他	1.9	2.5	0.0	0.0	0.0
補助金は利用していない	6.9	5.4	8.5	12.5	20.0
わからない	5.7	5.0	0.0	25.0	13.3

■ カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器

- ・ カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器に関しては、「床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー」が58.5%、「ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー」が50.3%、「起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド」が21.4%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー」の割合が大きい。

図表 33 カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器

単位 (%)

	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー	50.3	51.7	44.7	50.0	46.7
床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー	58.5	57.1	74.5	50.0	40.0
起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド	21.4	20.8	31.9	12.5	6.7
その他	9.4	10.0	6.4	12.5	6.7
カメラタイプ以外の見守り機器を導入していない	11.0	11.3	8.5	6.3	20.0
わからない	1.9	2.1	2.1	0.0	0.0

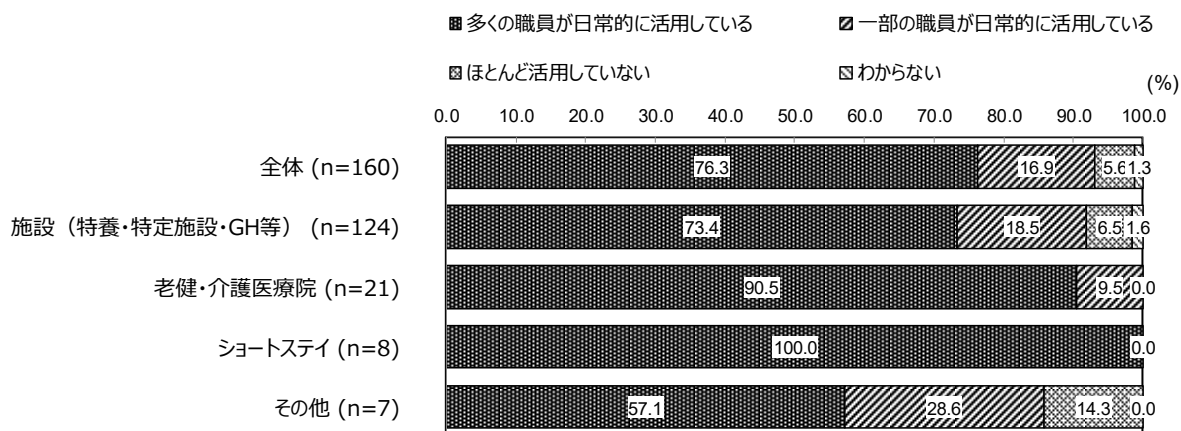
- カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の台数
- ・ カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の台数に関しては、「ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー」が 20.9 台、「床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー」が 11.1 台、「起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド」が 14.8 台であった。

図表 34 カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の台数

平均値	単位：台				
	全体 (n数は以下) ①160、②186、 ③68、④30	施設(特養・特定 施設・GH等) (n数は以下) ①124、②137、 ③50、④24	老健・介護医療院 (n数は以下) ①21、②35、 ③15、④3	ショートステイ (n数は以下) ①8、②8、 ③2、④2	その他 (n数は以下) ①7、②6、 ③1、④1
①ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー	20.9	23.0	16.2	12.5	6.6
②床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー	11.1	11.0	14.5	4.5	2.2
③起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド	14.8	14.4	18.1	6.5	1.0
④その他	12.1	12.3	7.7	22.0	1.0

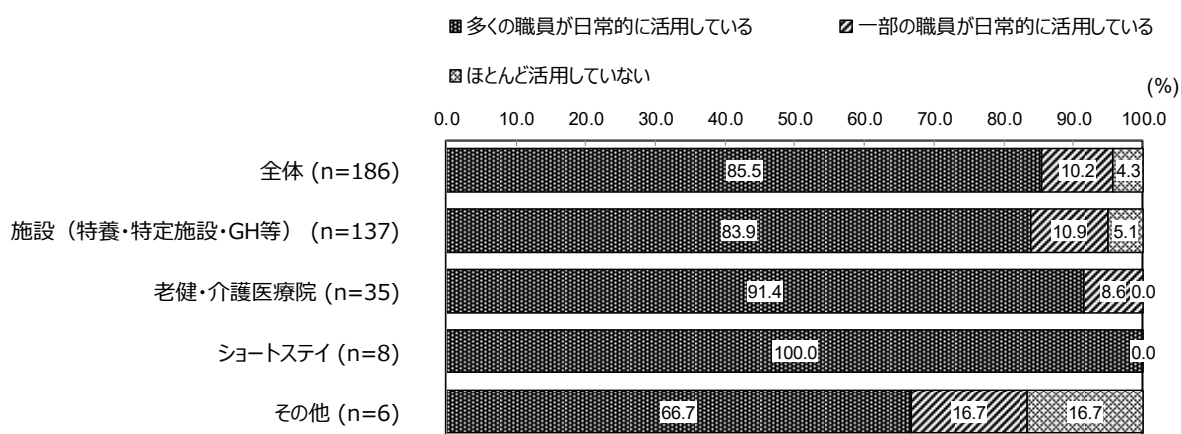
- カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度(ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー)
- ・ ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサーの利用頻度に関しては、「多くの職員が日常的に活用している」が 76.3%、「一部の職員が日常的に活用している」が 16.9%、「ほとんど活用していない」が 5.6%であった。

図表 35 カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度
ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー



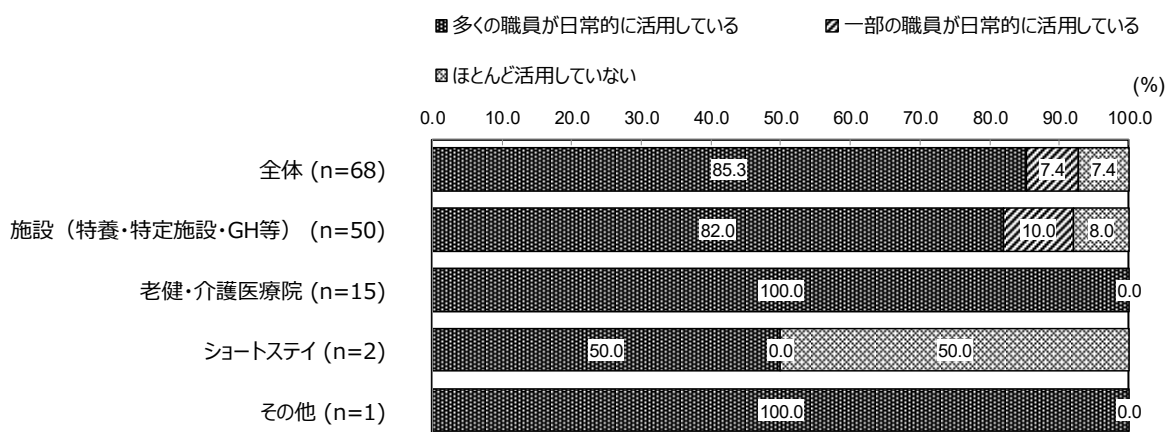
- カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度 (床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー)
- ・ 床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサーの利用頻度に関しては、「多くの職員が日常的に活用している」が 85.5%、「一部の職員が日常的に活用している」が 10.2%、「ほとんど活用していない」が 4.3%であった。

**図表 36 カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度
床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー**



- カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度 (起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド)
- ・ 起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッドの利用頻度に関しては、「多くの職員が日常的に活用している」が 85.3%、「一部の職員が日常的に活用している」が 7.4%、「ほとんど活用していない」が 7.4%であった。

**図表 37 カメラタイプ見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度
起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド**



(2) 機器導入・活用に当たっての運用ルールや職員教育体制

■ 利用者本人への説明事項・同意取得事項 利用者本人への説明事項

- ・ 利用者本人への説明事項に関しては、「カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的」が 66.0%、「カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること」が 64.8%、「撮影映像を施設職員が確認すること」が 56.9%であった。

図表 38 利用者本人への説明事項・同意取得事項 利用者本人への説明事項

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	66.0	66.3	66.0	62.5	66.7
カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること	64.8	64.6	68.1	56.3	66.7
家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること	24.5	27.9	17.0	6.3	13.3
撮影映像を施設職員が確認すること	56.9	57.9	51.1	50.0	66.7
撮影した映像を録画データとして保存すること	38.4	41.3	31.9	25.0	26.7
録画データの保管方法や保管期間	18.6	19.2	21.3	6.3	13.3
録画データの閲覧可能者の範囲	21.4	22.5	21.3	6.3	20.0
上記のいずれも当てはまらない	26.7	28.3	25.5	6.3	26.7
わからない	22.0	22.5	25.5	6.3	20.0
録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き	17.6	17.5	17.0	25.0	13.3
録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き	6.6	6.7	6.4	6.3	6.7

■ 利用者本人への説明事項・同意取得事項 利用者本人への同意事項

- ・ 利用者本人への同意事項に関しては、「カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的」が 61.3%、「カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること」が 60.4%、「撮影映像を施設職員が確認すること」が 52.8%であった。

図表 39 利用者本人への説明事項・同意取得事項 利用者本人への同意事項

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	61.3	61.3	63.8	62.5	53.3
カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること	60.4	60.0	66.0	56.3	53.3
家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること	22.0	24.6	17.0	6.3	13.3
撮影映像を施設職員が確認すること	52.8	53.3	53.2	50.0	46.7
撮影した映像を録画データとして保存すること	36.2	38.3	31.9	25.0	26.7
録画データの保管方法や保管期間	17.9	18.3	21.3	6.3	13.3
録画データの閲覧可能者の範囲	20.1	21.3	21.3	6.3	13.3
上記のいずれも当てはまらない	23.3	24.2	25.5	6.3	20.0
わからない	19.2	19.2	25.5	6.3	13.3
録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き	20.8	20.8	17.0	25.0	26.7
録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き	6.9	6.7	8.5	6.3	6.7

■ 利用者本人への同意取得の方法

- ・ 利用者本人への同意取得の方法に関しては、「口頭で説明・同意取得している」が 45.6%、「書面で同意取得を行っている」が 34.9%、「入所時の個人情報取り扱い等への同意書にて代用している」が 19.8%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「入所時の個人情報取り扱い等への同意書にて代用している」の割合が大きい。

図表 40 利用者本人への同意取得の方法

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
書面で同意取得を行っている	34.9	36.3	31.9	43.8	13.3
入所時の個人情報取り扱い等への同意書にて代用している	19.8	17.5	29.8	25.0	20.0
口頭で説明・同意取得している	45.6	46.3	44.7	31.3	53.3
上記のいずれも当てはまらない	14.2	13.8	12.8	18.8	20.0
その他	6.3	7.1	6.4	0.0	0.0
わからない	4.4	4.6	4.3	0.0	6.7

■ 利用者本人への同意取得のタイミング

- ・ 利用者本人への同意取得のタイミングに関しては、「カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している」が 43.1%、「入所時に同意を取得している」が 53.8%、「上記のいずれもあてはまらない」が 16.0%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「入所時に同意を取得している」の割合が大きい。

図表 41 利用者本人への同意取得のタイミング

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
入所時に同意を取得している	43.1	40.4	55.3	50.0	40.0
カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している	53.8	57.9	53.2	31.3	13.3
初回の同意取得後も、定期的に活用継続の同意を取得している	4.4	4.2	6.4	0.0	6.7
上記のいずれも当てはまらない	16.0	16.7	12.8	12.5	20.0
その他	7.9	7.5	2.1	25.0	13.3
わからない	4.4	4.6	4.3	0.0	6.7

■ 利用者本人から同意を得られない場合の対応方法

- ・ 利用者本人から同意を得られない場合の対応方法に関しては、「家族・成年後見人等が施設を訪問した際に、家族・成年後見人等から同意を取得している」が 40.6%、「家族・成年後見人等に対し、電話等で口頭説明し、同意を取得している」が 32.1%、「上記のいずれもあてはまらない」が 16.0%であった。
 - ・ 老健・介護医療院及びショートステイでは、全体と比較して、「利用者本人から同意を得られない場合はカメラタイプの見守り機器の設置を行っていない」の割合が大きい。
- ※ただし、ショートステイについては N 数が少ないため、参考値である。

図表 42 利用者本人から同意を得られない場合の対応方法

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
家族・成年後見人等が施設を訪問した際に、家族・成年後見人等から同意を取得している	40.6	40.8	46.8	18.8	40.0
家族・成年後見人等に対し、説明書・同意書を送付(郵送・FAX・メール等)し、同意書を返送してもらっている	19.5	20.8	17.0	12.5	13.3
家族・成年後見人等に対し、電話等で口頭説明し、同意を取得している	32.1	32.9	27.7	25.0	40.0
利用者本人から同意を得られない場合は、カメラタイプの見守り機器の設置を行っていない	12.6	9.6	21.3	31.3	13.3
上記のいずれも当てはまらない	16.0	15.4	25.5	12.5	0.0
その他	5.3	5.4	4.3	6.3	6.7
わからない	6.6	6.7	4.3	12.5	6.7

■ 職員への説明事項・同意取得事項(職員への説明事項)

- 職員への説明事項に関しては、「カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的」が 81.8%、「撮影した映像を施設職員が確認すること」が 71.4%、「職員本人が撮影映像に映り込む可能性があること」が 56.6%であった。

図表 43 職員への説明事項・同意取得事項 職員への説明事項

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設(特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	81.8	81.7	85.1	68.8	86.7
職員本人が撮影映像に映り込む可能性があること	56.6	57.5	61.7	43.8	40.0
撮影した映像を施設職員が確認すること	71.4	71.3	74.5	56.3	80.0
撮影した映像を録画データとして保存すること	53.8	54.6	55.3	37.5	53.3
録画データの保管方法や保管期間	35.2	38.8	25.5	25.0	20.0
録画データの閲覧可能者の範囲	33.0	35.8	29.8	18.8	13.3
録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き	34.3	36.7	31.9	6.3	33.3
録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き	26.4	28.3	23.4	6.3	26.7
上記のいずれも当てはまらない	7.2	7.9	4.3	12.5	0.0
わからない	6.3	5.8	8.5	12.5	0.0

■ 職員への説明事項・同意取得事項(職員への同意事項)

- 職員への同意事項に関しては、「カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的」が 62.3%、「撮影した映像を施設職員が確認すること」が 54.1%、「職員本人が撮影映像に映り込む可能性があること」が 42.8%であった。

図表 44 職員への説明事項・同意取得事項 職員への同意事項

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設(特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	62.3	61.7	61.7	62.5	73.3
職員本人が撮影映像に映り込む可能性があること	42.8	42.5	44.7	43.8	40.0
撮影した映像を施設職員が確認すること	54.1	53.3	53.2	56.3	66.7
撮影した映像を録画データとして保存すること	39.9	39.6	42.6	37.5	40.0
録画データの保管方法や保管期間	24.5	26.3	19.1	25.0	13.3
録画データの閲覧可能者の範囲	24.5	26.3	21.3	18.8	13.3
録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き	26.1	27.5	23.4	6.3	33.3
録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き	20.1	21.3	17.0	6.3	26.7
上記のいずれも当てはまらない	23.0	24.6	19.1	18.8	13.3
わからない	9.1	8.3	14.9	12.5	0.0

■ 職員への同意取得の方法

- 職員への同意取得の方法に関しては、「職員に対して全体説明会を実施している」が 51.9%、「職員毎に個別説明を行っている」が 25.2%、「上記のいずれも当てはまらない」が 20.4%であった。

図表 45 職員への同意取得の方法

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
書面で同意取得を行っている	4.7	5.8	2.1	0.0	0.0
職員毎に個別説明を行っている	25.2	26.7	19.1	18.8	26.7
職員に対して全体説明会を実施している	51.9	50.8	51.1	56.3	66.7
上記のいずれも当てはまらない	20.4	18.8	29.8	25.0	13.3
その他	5.0	6.3	2.1	0.0	0.0
わからない	5.0	4.2	8.5	12.5	0.0

■ 職員への同意取得のタイミング

- 職員への同意取得のタイミングに関しては、「カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している」が 45.6%、「上記のいずれも当てはまらない」が 34.0%、「入職時に同意を取得している」が 21.1%であった。
- 老健・介護医療院では、全体と比較して、「入職時に同意を取得している」及び「カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している」の割合が小さい。

図表 46 職員への同意取得のタイミング

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
入職時に同意を取得している	21.1	22.1	17.0	25.0	13.3
カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している	45.6	47.1	36.2	37.5	60.0
初回の同意取得後も、定期的に活用継続の同意を取得している	4.7	3.8	12.8	0.0	0.0
上記のいずれも当てはまらない	34.0	34.6	38.3	18.8	26.7
その他	0.9	0.8	0.0	6.3	0.0
わからない	7.5	5.4	17.0	12.5	6.7

■ 外部からの訪問者(利用者家族、医師や訪問看護師等)に対する周知方法

- ・ 外部からの訪問者(利用者家族、医師や訪問看護師等)に対する周知方法に関しては、「上記のいずれも当てはまらない」が 70.8%、「訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について説明を行っている」が 10.7%、「施設・事業所の入口等に、カメラタイプの見守り機器の使用に関する掲示を行っている」が 5.3%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について説明を行っている」の割合が大きい。

図表 47 外部からの訪問者(利用者家族、医師や訪問看護師等)に対する周知方法

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設(特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
施設・事業所の入口等に、カメラタイプの見守り機器の使用に関する掲示を行っている	5.3	5.0	8.5	0.0	6.7
施設ウェブサイト、カメラタイプの見守り機器の使用に関する説明を掲載している	2.5	3.3	0.0	0.0	0.0
訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について説明を行っている	10.7	10.4	17.0	6.3	0.0
訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について同意を取得している	2.8	2.9	4.3	0.0	0.0
上記のいずれも当てはまらない	70.8	72.1	55.3	81.3	86.7
その他	4.7	4.2	8.5	6.3	0.0
わからない	6.3	5.8	8.5	6.3	6.7

■ 運用ルール

- ・ 運用ルールに関しては、「通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている」が 51.3%、「特に運用に関するルールは定めていない」が 26.1%、「利用者の表情等がクリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している(モザイク処理等)」が 24.5%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている」の割合が大きい。

図表 48 運用ルール

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
利用者の表情等がクリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している (モザイク処理等)	24.5	24.6	27.7	31.3	6.7
通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている	51.3	51.7	61.7	6.3	60.0
家族や外部からの訪問者が訪室する際はカメラをオフにしている	6.9	5.8	12.8	6.3	6.7
排泄介助を行う際はカメラをオフにしている	8.2	7.5	14.9	0.0	6.7
更衣介助を行う際はカメラをオフにしている	7.5	7.5	10.6	0.0	6.7
清拭介助を行う際はカメラをオフにしている	7.9	7.5	12.8	0.0	6.7
その他	7.9	8.8	8.5	0.0	0.0
特に運用に関するルールは定めていない	26.1	27.1	19.1	50.0	6.7
わからない	4.1	3.3	2.1	6.3	20.0

■ 録画データの取扱いルール

- 録画データの取扱いルールに関しては、「録画データを一定期間後に破棄している」が 38.1%、「録画データの目的外利用を制限している」が 29.9%、「録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している」が 23.9%であった。

図表 49 録画データの取扱いルール

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
録画データを一定期間後に破棄している	38.1	40.0	34.0	43.8	13.3
録画データをクラウドに保管している	8.5	9.2	2.1	6.3	20.0
録画データを保管している施設内のストレージにウイルス対策をしている	13.5	14.2	14.9	12.5	0.0
録画データにパスワードを設定している	9.7	9.6	17.0	0.0	0.0
録画データの施設外への持ち出しに申請・承認が必要としている	6.3	5.8	12.8	0.0	0.0
録画データの管理責任者を置いている	17.3	18.3	21.3	6.3	0.0
録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している	23.9	25.0	25.5	12.5	13.3
録画データの目的外利用を制限している	29.9	31.7	29.8	12.5	20.0
録画データの第三者提供の手続きを明確化している	6.9	7.5	4.3	0.0	13.3
その他	8.2	9.2	4.3	0.0	13.3
特に録画データの取扱いに関するルールは定めていない	18.6	17.1	27.7	25.0	6.7
わからない	7.2	6.3	6.4	12.5	20.0

■ 録画データの取扱いルールの書面化状況

- 録画データの取扱いルールの書面化状況に関しては、「ルールを書面化していない」が 64.4%、「個人情報取扱い規程の個人情報に、録画データ等を含める旨を規定している」が 15.3%、「見守り機器に関する機器運用や録画データ等の管理のルールについて、マニュアルを作成している」が 14.0%であった。
- 老健・介護医療院では、全体と比較して、「見守り機器に関する機器運用や録画データ等の管理のルールについて、マニュアルを作成している」の割合が大きい。

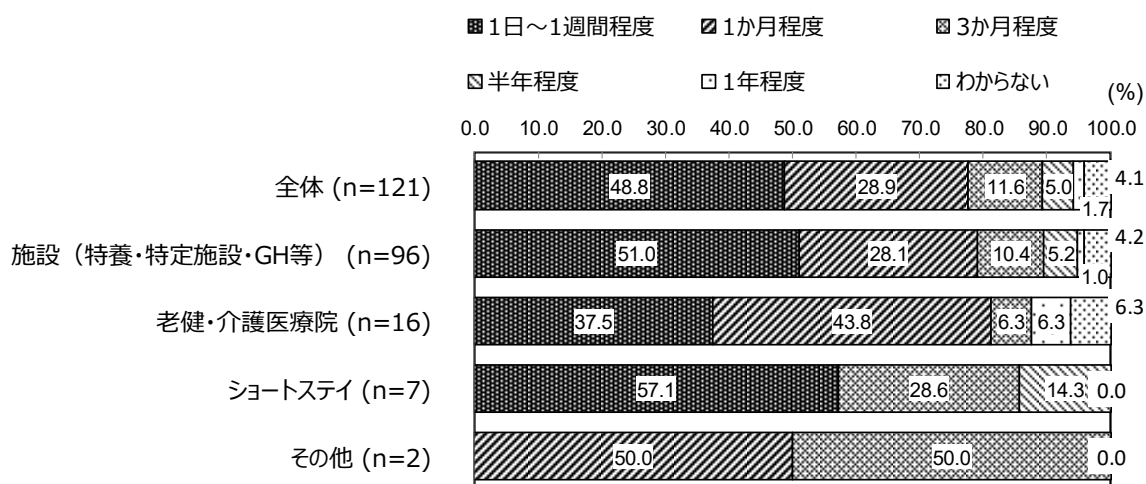
図表 50 録画データの取扱いルールの書面化状況

	単位 (%)				
	全体 (n=236)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=184)	老健・介護医療院 (n=31)	ショートステイ (n=10)	その他 (n=11)
見守り機器に関する取扱規程を作成、整備している	12.3	12.0	12.9	30.0	0.0
個人情報取扱い規程の個人情報に、録画データ等を含める旨を規定している	15.3	16.8	16.1	0.0	0.0
見守り機器に関する機器運用や録画データ等の管理のルールについて、マニュアルを作成している	14.0	14.1	22.6	0.0	0.0
その他	5.5	5.4	6.5	0.0	9.1
ルールを書面化していない	64.4	63.6	58.1	70.0	90.9

■ 録画データの保管期間

- ・ 録画データの保管期間に関しては、「1日～1週間程度」が48.8%、「1か月程度」が28.9%、「3か月程度」が11.6%であった。

図表 51 録画データの保管期間



■ 機器の導入・活用にあたって配慮した点

- ・ 機器の導入・活用にあたって配慮した点に関しては、以下のような意見が挙げられた。

【職員への教育・運用体制の検討】

- ・ PC のモニターに常に表示されないよう設定。映像データ設定、操作は限られた職員のみ使用方法を伝達している。
- ・ 録画した映像を視聴できるのはリーダー以上とする制限をしている。
- ・ 職員が監視されていると感じることのないように、アンケートを取ったり、説明会を繰り返した。
- ・ 職員全員が使用できるように、指導内容を理解度に応じて対応して行った。
- ・ 設置前にミニカンファレンスを実施している。
- ・ 導入前より、明確な活用方針や方法を伝承できるよう現場指導者に対し、中期的な教育期間を設けた。介護ロボットに抵抗がある職員が多数いる事も想定してポジティブに活用できるように教育方法を考慮した。

【プライバシーに配慮した機器選定】

- ・ プライバシーの問題からシルエット型を選択し、事故防止の観点から予測型に重点を置いた。
- ・ プライバシーを侵さないように入居者や家族へ事前にカメラへの説明をした。
- ・ 画質が必要以上に鮮明になりすぎないこと。
- ・ ベッドからの転落防止が最大の目的だったので、個人のプライバシー保護のため、シルエット画像の機器にした。

【利用者・家族への説明・同意取得】

- ・ 機器を導入する際に、撮影された映像の使用には同意が必要だとは思いますが、日々の見守りを行うことでの同意は必要なのか迷った。毎回、巡視していることと、カメラでの見守りに違いがあるものなのか議論した結果、撮影の説明同意を口頭でいただいた。
- ・ 状態の変化が生じた際に、ご家族様へ説明し了解を得てから仕様している。(夜間が主)
- ・ 配置室入居者への説明と家族への対面説明。(同意書面作成)

【限定的な対象者・シーンでの利用】

- ・ 利用者様の事故以外は確認しないようにしている。
- ・ あくまで事故の原因究明、職員の負担軽減として使用する。監視や、事故が起きないという考え方では使用しない。
- ・ シルエット型のものを夜間、離床センサーと併用して活用しており、転倒のリスク用のみでの使用としている。センサーが鳴って、急いでかけつけた方が良いかの判断材料としてのみ使用している。
- ・ 居室の見守りカメラに関しては、看取り時のみ設置。
- ・ 見守りが必要な方のみ限定して設置しており、全利用には設置していない。
- ・ 見守り機器の使用は、夜間から早朝までの時間のみとして制限している。

【設置場所・対象者の調整】

- ・ Wi-Fiトラブルの可能性が低い居室の選定。入居者の移動。
- ・ 認知症の方がコード等を引っ張ってしまう恐れがあるのでコードの設置方法の検討。
- ・ 常に監視の対象となっていることにより利用者への精神的負担が身体拘束に繋がってはいけないため、出来る限り圧迫のあるような設置にならない、機器にならないように留意した。また、職員への周知に関しても声掛けや対応の変化で身体拘束に該当することがあることを十分に理解したうえでケアを行ってもらいたいと研修を行った。
- ・ 多床室の場合その方のみ見えるようにしている。
- ・ 利用者様が見えやすい角度になるようにベッド位置やカメラの配置の調整。
- ・ 出入口から他の利用者が映らないような設置をする。

■ 使用方法や効果的な運用に関する教育・研修体制

- ・ 使用方法や効果的な運用に関する教育・研修体制に関しては、「メーカー主催の説明会や研修に参加している」が 40.3%、「施設内研修を開催している」が 33.6%、「特に教育や研修は行っていない」が 23.0%であった。
- ・ 老健・介護医療院では、全体と比較して、「使用方法や効果的な運用に関して、指針・マニュアル等に明記している」の割合が大きい。

図表 52 使用方法や効果的な運用に関する教育・研修体制

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
施設内研修を開催している	33.6	32.9	34.0	37.5	40.0
メーカー主催の説明会や研修に参加している	40.3	41.3	46.8	43.8	0.0
使用方法や効果的な運用に関して、指針・マニュアル等に明記している	15.7	14.6	27.7	6.3	6.7
使用方法や効果的な運用に関する委員会やプロジェクトチームを立ち上げた	16.0	16.3	21.3	0.0	13.3
既存の委員会やプロジェクトチームを活用して、使用方法や効果的な運用に関して議論している	19.5	22.1	10.6	18.8	6.7
その他	6.3	6.7	4.3	6.3	6.7
特に教育や研修は行っていない	23.0	22.9	17.0	31.3	33.3
わからない	3.1	2.9	2.1	0.0	13.3

■ 研修内容

- ・ 研修内容に関しては、「カメラタイプの見守り機器の使用方法」が 90.5%、「カメラタイプの見守り機器の導入効果やメリット」が 73.2%、「カメラタイプの見守り機器を活用した業務ルール」が 44.7%であった。

図表 53 研修内容

	単位 (%)				
	全体 (n=179)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=135)	老健・介護医療院 (n=29)	ショートステイ (n=9)	その他 (n=6)
カメラタイプの見守り機器の使用方法	90.5	92.6	82.8	100.0	66.7
カメラタイプの見守り機器の導入効果やメリット	73.2	74.1	69.0	77.8	66.7
カメラタイプの見守り機器を活用した業務ルール	44.7	46.7	41.4	44.4	16.7
プライバシーや個人情報に関する権利擁護	39.1	40.0	44.8	22.2	16.7
録画データの取り扱いにあたってのルール	16.2	18.5	10.3	11.1	0.0
その他	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0
わからない	1.7	1.5	3.4	0.0	0.0

(3) 機器選定プロセス

■ 導入したきっかけ

- ・ 導入したきっかけに関しては、「施設長・管理者等、管理職からの提案」が 53.1%、「機器メーカーからの営業・提案」が 32.7%、「導入に対する自治体等からの助成・補助」が 32.4%であった。

図表 54 導入したきっかけ

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
理事長等、法人幹部からの提案	26.4	26.3	25.5	25.0	33.3
施設長・管理者等、管理職からの提案	53.1	55.4	46.8	37.5	53.3
介護職等、現場職員からの提案	28.3	27.9	38.3	6.3	26.7
導入に対する自治体等からの助成・補助	32.4	33.8	40.4	18.8	0.0
機器メーカーからの営業・提案	32.7	33.3	40.4	25.0	6.7
展示会等での機器メーカーからの説明	14.5	14.2	14.9	25.0	6.7
他の施設・事業所からの推薦・口コミ	5.3	5.8	4.3	6.3	0.0
利用者本人からの要望	0.6	0.4	0.0	0.0	6.7
利用者の家族からの要望	1.3	1.3	2.1	0.0	0.0
その他	2.2	2.1	0.0	0.0	13.3
わからない	3.1	2.5	2.1	12.5	6.7

■ 導入目的

- ・ 導入目的に関しては、「転倒・転落事故の防止や早期発見のため」が 90.6%、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」が 74.2%、「夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため」が 67.0%であった。

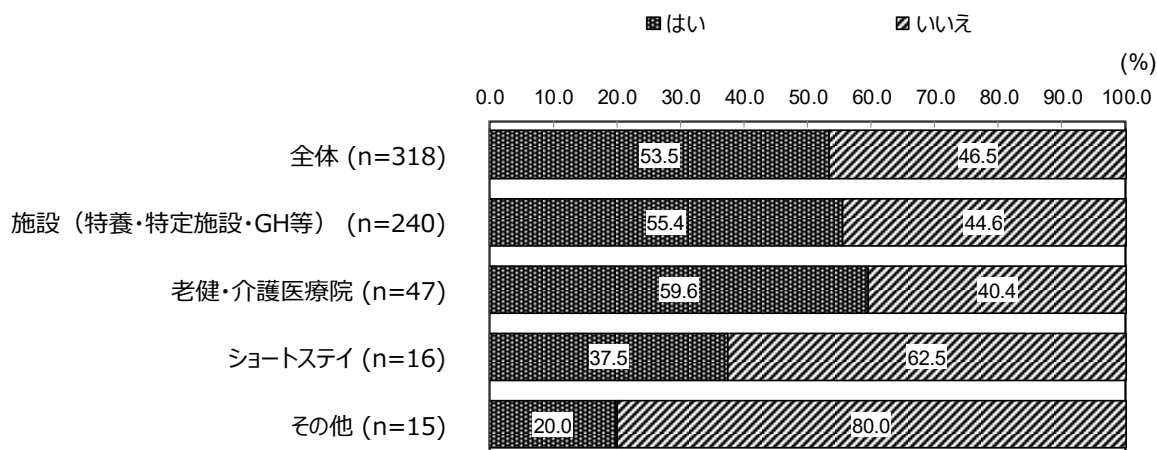
図表 55 導入目的

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため	67.0	68.3	72.3	56.3	40.0
夜間の訪室業務の負担を軽減するため	74.2	76.3	76.6	62.5	46.7
夜間の人員配置を削減するため	11.9	13.3	8.5	12.5	0.0
転倒・転落事故の防止や早期発見のため	90.6	90.8	91.5	87.5	86.7
居室で発生した事故の検証を行うため	66.7	70.4	55.3	56.3	53.3
録画データ確認によるケア改善に活用するため	30.8	32.1	23.4	37.5	26.7
職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため	20.4	21.3	21.3	12.5	13.3
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) を防止するため	23.3	25.0	17.0	12.5	26.7
職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため	13.5	14.6	10.6	12.5	6.7
その他	2.2	2.5	0.0	0.0	6.7
わからない	1.6	0.8	2.1	6.3	6.7

■ 導入前のデモ機による試用有無

- ・ 導入前のデモ機による試用有無については、「はい」が 53.5%であった。
- ・ ショートステイでは「いいえ」が 62.5%であった。

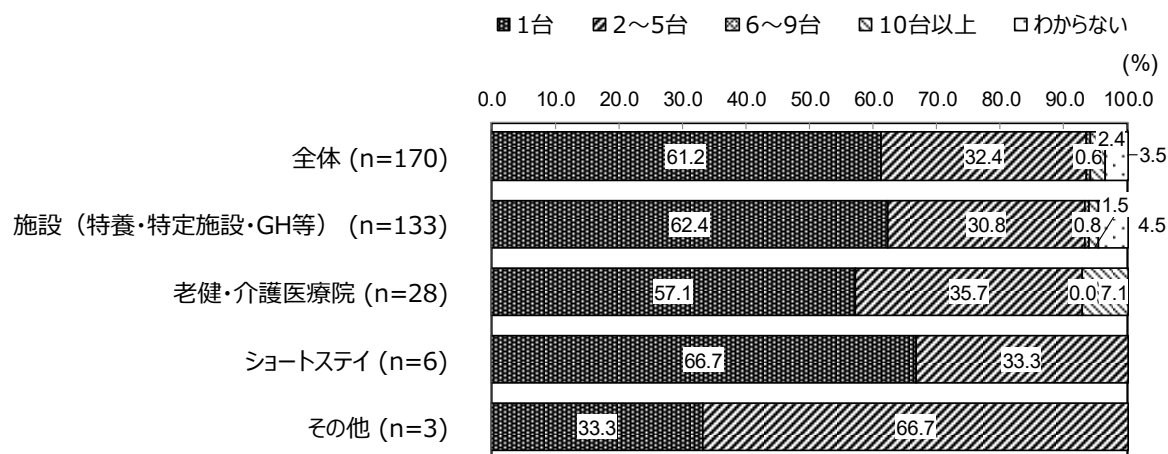
図表 56 導入前のデモ機による試用有無



■ 導入前のデモ機による試用台数

- ・ 導入前のデモ機による試用台数に関しては、「1台」が61.2%、「2～5台」が32.4%であった。

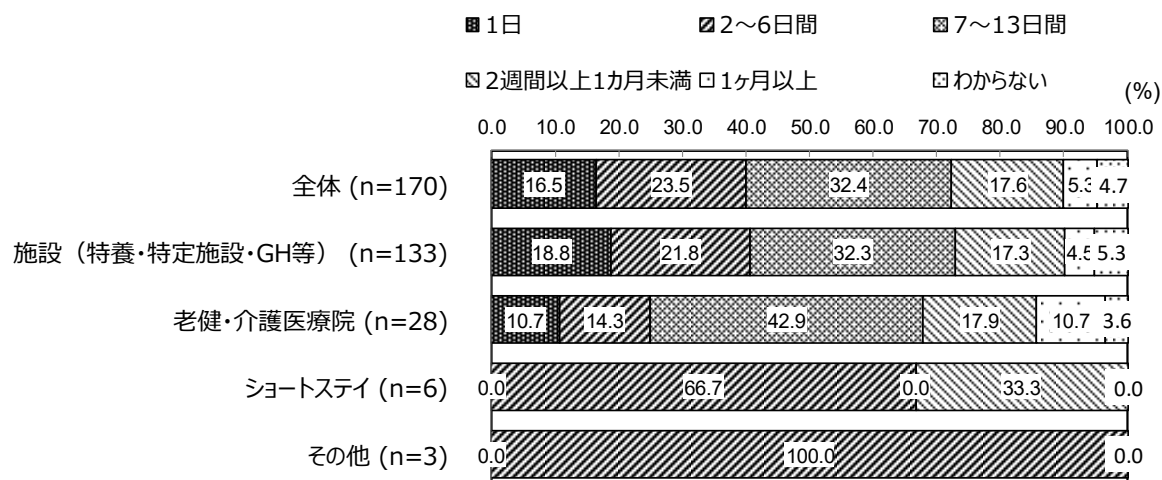
図表 57 導入前のデモ機による試用台数



■ 導入前のデモ機による試用期間

- ・ 導入前のデモ機による試用期間に関しては、「7～13日間」が32.4%、「2～6日間」が23.5%、「2週間以上1か月未満」が17.6%であった。
- ・ ショートステイでは「2～6日間」が66.7%であった。

図表 58 回答者の役職



■ 試用期間中に確認した点

- ・ デモ機の試用期間中に確認したポイントに関しては、「起き上がりや離床の検知精度」が 77.6%、「ネットワーク接続の安定性」が 56.5%、「転倒・転落事故の防止や早期発見の実現度合い」が 52.4%であった。

図表 59 試用期間中に確認した点

単位 (%)

	全体 (n=170)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=133)	老健・介護医療院 (n=28)	ショートステイ (n=6)	その他 (n=3)
撮影映像の画質の調整度合	49.4	51.1	53.6	16.7	0.0
撮影映像の画質の鮮明度	51.2	51.1	50.0	33.3	100.0
撮影のタイミング	30.0	30.8	32.1	16.7	0.0
録画データの管理	21.2	23.3	17.9	0.0	0.0
起き上がりや離床の検知精度	77.6	75.2	89.3	83.3	66.7
ネットワーク接続の安定性	56.5	56.4	60.7	66.7	0.0
施設で導入している他の機器との連携	22.4	21.8	28.6	16.7	0.0
転倒・転落事故の防止や早期発見の実現度合い	52.4	50.4	53.6	66.7	100.0
夜間業務における職員負担の軽減度合い	48.2	48.9	50.0	50.0	0.0
カメラタイプの見守り機器に対する利用者の反応	20.6	21.1	21.4	16.7	0.0
カメラタイプの見守り機器に対する家族の反応	6.5	8.3	0.0	0.0	0.0
カメラタイプの見守り機器に対する職員の反応	36.5	39.8	21.4	33.3	33.3
その他	1.2	1.5	0.0	0.0	0.0
特に確認したポイントはない	1.2	1.5	0.0	0.0	0.0
わからない	2.4	3.0	0.0	0.0	0.0

■ 導入の決め手

- ・ 導入の決め手に関しては、「補助金の対象機器であったため」が 65.4%、「撮影映像を録画できるため」が 45.9%、「撮影映像の画質を調整できる、またはモザイク画像やシルエット画像等にできるため」が 39.6%であった。

図表 60 導入の決め手

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
撮影映像の画質を調整できる、またはモザイク画像やシルエット画像等にできるため	39.6	40.8	40.4	37.5	20.0
撮影映像がクリアであるため	21.1	20.0	23.4	6.3	46.7
撮影映像を録画できるため	45.9	46.7	48.9	25.0	46.7
録画のタイミングが起き上がりや離床、立ち上がり時のみであるため	27.0	28.3	29.8	0.0	26.7
録画データがセキュリティに配慮されているため	12.3	12.5	14.9	12.5	0.0
他の施設からの評判が高かったため	9.1	10.4	8.5	0.0	0.0
他の施設が導入しているため	12.3	13.3	10.6	6.3	6.7
職員からの反応が最も良かったため	31.4	32.5	38.3	6.3	20.0
操作が簡便で使いやすいため	34.0	30.8	51.1	25.0	40.0
施設で導入している他の見守り機器と連携できるため	16.7	17.5	12.8	12.5	20.0
施設で導入している介護記録ソフトと連携できるため	15.7	16.7	12.8	25.0	0.0
施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できるため	39.9	40.4	34.0	31.3	60.0
施設で導入しているナースコールやインカムと連携できるため	13.5	13.3	17.0	18.8	0.0
導入費用が安価であるため	10.4	9.6	12.8	6.3	20.0
補助金の対象機器であったため	65.4	68.8	61.7	50.0	40.0
機器や機器メーカーにブランド力があるため	6.9	8.8	2.1	0.0	0.0
メーカーによる導入後サポートが充実しているため	17.6	19.6	14.9	0.0	13.3
その他	4.1	3.3	6.4	12.5	0.0
わからない	3.1	3.3	0.0	12.5	0.0

(4) 導入効果や導入後の課題

■ 機器導入後に変更した業務

- ・ 機器導入後の業務変更に関しては、「転倒・転落リスクの高い利用者に対しては、必要に応じて撮影映像を確認することにした」が67.6%、「転倒・転落事故があった場合に、事故状況の確認や検証を目的として、録画データを確認することにした」が56.3%であった。

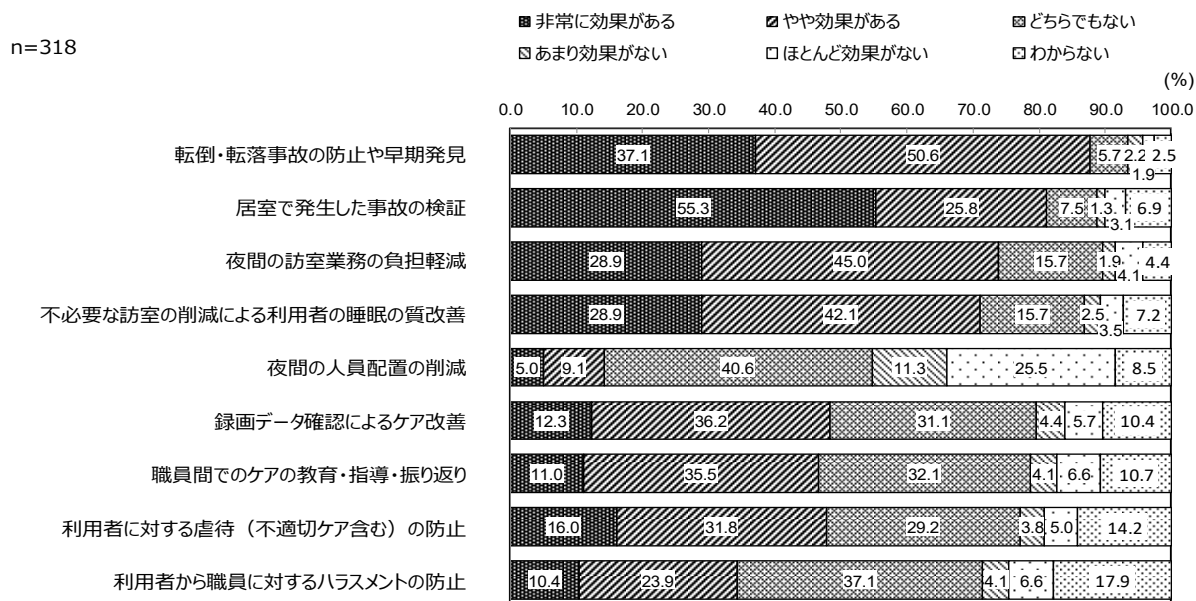
図表 61 機器導入後に変更した業務

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
夜間の定期巡回を廃止した	3.5	3.8	0.0	12.5	0.0
夜間の定期巡回の回数・頻度を減らした	35.8	37.1	34.0	25.0	33.3
ナースコール・通知が鳴ったあと、すぐ訪室するのではなく、まずは撮影映像を確認することにした	49.4	48.3	63.8	43.8	26.7
転倒・転落リスクの高い利用者に対しては、必要に応じて撮影映像を確認することにした	67.6	68.3	68.1	43.8	80.0
録画データを確認し、ケア改善のPDCAを回している	17.0	18.3	14.9	12.5	6.7
録画データを確認し、職員間でのケアの教育・指導・振り返りを行っている	18.6	18.8	21.3	12.5	13.3
転倒・転落事故があった場合に、事故状況の確認や検証を目的として、録画データを確認することにした	56.3	56.3	63.8	43.8	46.7
利用者に対する虐待（不適切ケア含む）の申し出があった場合に、録画データを確認することにした	10.4	10.0	17.0	0.0	6.7
利用者から職員に対するハラスメントの申し出があった場合に、録画データを確認することにした	7.9	8.8	6.4	0.0	6.7
その他	1.6	2.1	0.0	0.0	0.0
特に業務オペレーションは変更していない	6.6	6.3	6.4	18.8	0.0
わからない	1.6	1.7	0.0	0.0	6.7

■ 機器導入により効果を感じられた内容(全体)

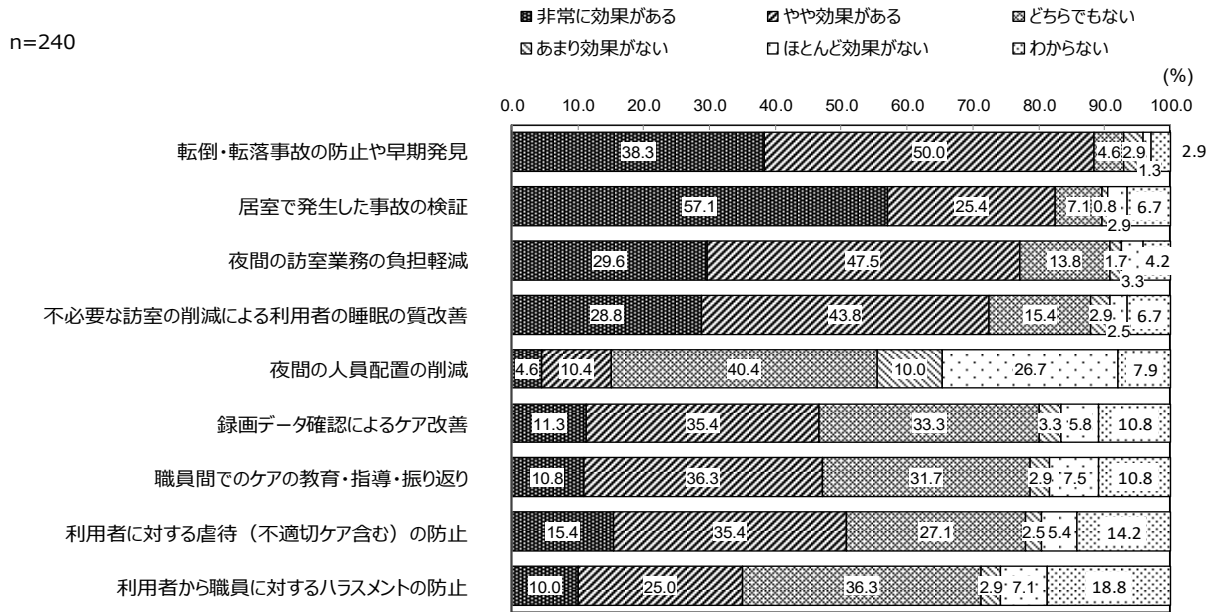
- ・ 機器導入により効果を感じられた内容に関しては、「居室で発生した事故の検証」が 55.3%、「転倒・転落事故の防止や早期発見」が 37.1%、「夜間の訪室業務の負担軽減」「不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善」が 28.9%で「非常に効果がある」という回答が得られた。

図表 62 機器導入により効果を感じられた内容(全体)



- 機器導入により効果を感じられた内容（施設（特養・特定施設・GH等））
 - ・ 機器導入により効果を感じられた内容に関しては、「居室で発生した事故の検証」が57.1%、「転倒・転落事故の防止や早期発見」が38.3%、「夜間の訪室業務の負担軽減」が29.6%で「非常に効果がある」という回答が得られた。

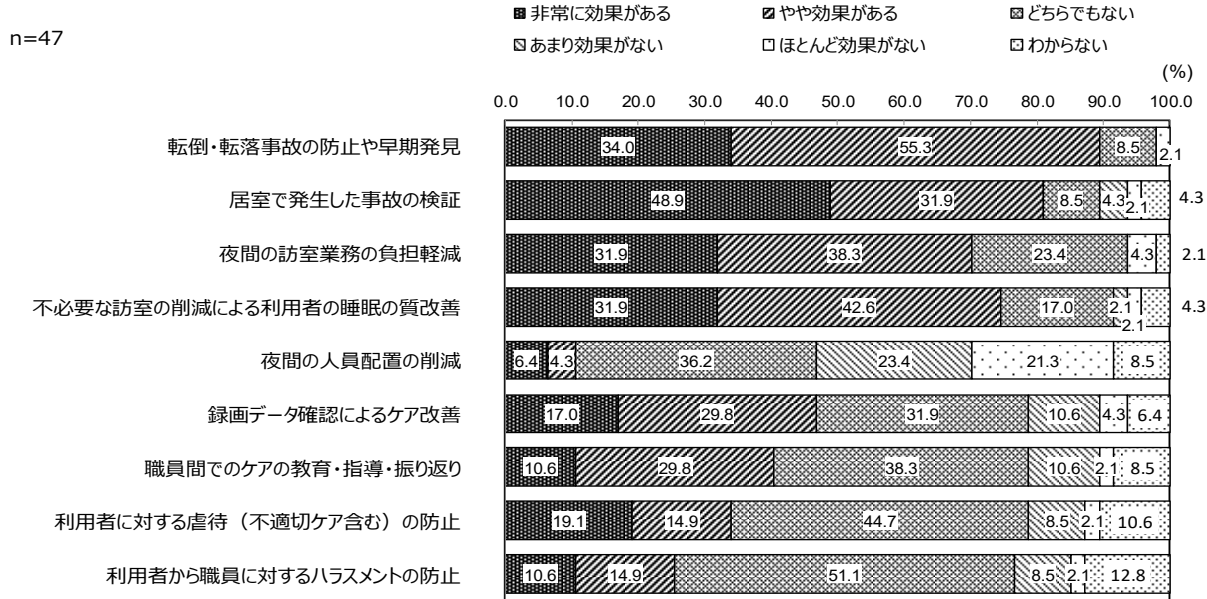
図表 63 回答者の役職



■ 機器導入により効果を感じられた内容(老健・介護医療院)

- ・ 機器導入により効果を感じられた内容に関しては、「居室で発生した事故の検証」が 48.9%、「転倒・転落事故の防止や早期発見」が 34.0%、「夜間の訪室業務の負担軽減」「不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善」が 31.9%で「非常に効果がある」という回答が得られた。

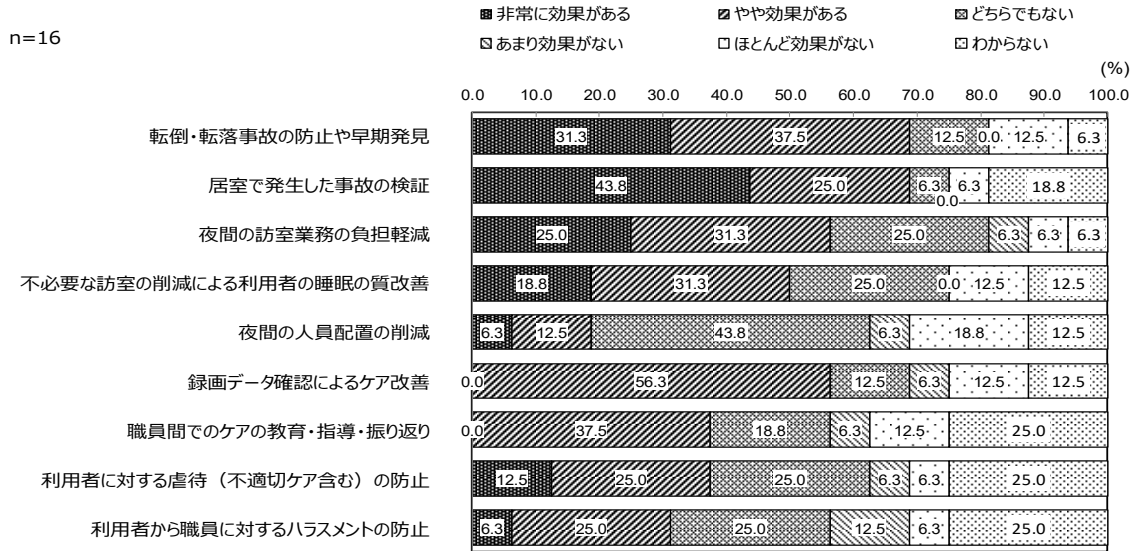
図表 64 機器導入により効果を感じられた内容(老健・介護医療院)



■ 機器導入により効果を感じられた内容(ショートステイ)

- ・ 機器導入により効果を感じられた内容に関しては、「居室で発生した事故の検証」が 43.8%、「転倒・転落事故の防止や早期発見」が 31.3%、「夜間の訪室業務の負担軽減」が 25.0%で「非常に効果がある」という回答が得られた。

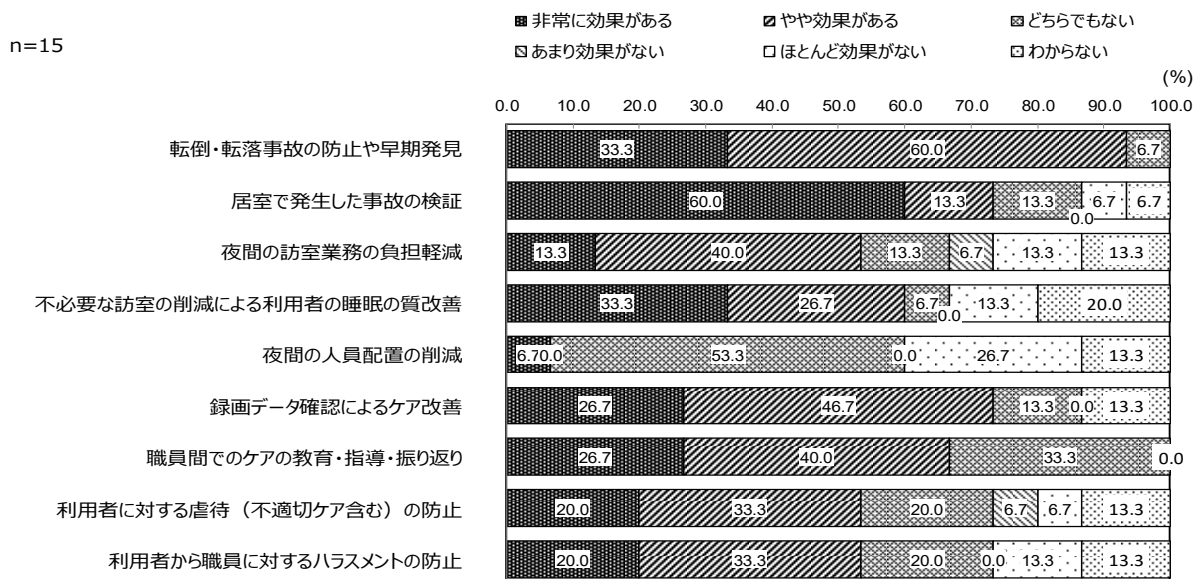
図表 65 機器導入により効果を感じられた内容(ショートステイ)



■ 機器導入により効果を感じられた内容(その他)

- ・ 機器導入により効果を感じられた内容に関しては、「居室で発生した事故の検証」が 60.0%、「転倒・転落の防止や早期発見」「不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善」が 33.3%で「非常に効果がある」という回答が得られた。

図表 66 機器導入により効果を感じられた内容(その他)



■ 機器導入後に感じた課題

- ・ 導入後に感じた課題に関しては、「機器の利活用方法を把握できていない職員がみられる」が43.7%、「運用に当たり、プライバシーへの配慮が困難な場面がみられる」が28.3%、「導入前の想定よりも、夜間の訪室業務の負担が軽減していない」が21.1%であった。

図表 67 機器導入後に感じた課題

	単位 (%)				
	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
利用者のプライバシーに対する懸念を示す 利用者がみられる	11.3	11.3	4.3	31.3	13.3
利用者のプライバシーに対する懸念を示す 家族がみられる	10.7	10.8	10.6	6.3	13.3
利用者のプライバシーに対する懸念を示す 職員がみられる	13.2	14.2	12.8	12.5	0.0
運用に当たり、プライバシーへの配慮が 困難な場面がみられる	28.3	28.8	29.8	25.0	20.0
自身の業務が撮影されていることに心理的負担を 感じる職員がみられる	12.3	12.5	14.9	6.3	6.7
プライバシーや個人情報に関する権利擁護について、 職員が無関心になっている	14.5	14.2	14.9	18.8	13.3
導入前の想定よりも、不必要な訪室の削減による 利用者の睡眠の質改善ができていない	8.5	9.2	6.4	12.5	0.0
導入前の想定よりも、転倒・転落事故の防止や 早期発見ができていない	10.1	8.8	19.1	12.5	0.0
導入前の想定よりも、夜間の訪室業務の 負担が軽減していない	21.1	20.4	25.5	6.3	33.3
導入前の想定よりも、利用者に対する虐待 (不適切ケア含む)を防止できていない	2.2	1.7	4.3	0.0	6.7
導入前の想定よりも、職員に対する利用者等からの ハラスメントを防止できていない	4.1	4.6	0.0	6.3	6.7
機器の設定が複雑で使いこなせない	17.0	15.8	25.5	18.8	6.7
機器の利活用方法を把握できていない職員がみられる	43.7	42.9	51.1	43.8	33.3
導入により、職員負担が増えている	5.0	5.0	4.3	6.3	6.7
ランニングコストがかかる	14.5	16.3	8.5	6.3	13.3
その他	8.8	9.6	4.3	12.5	6.7
特に課題はない	11.3	10.8	10.6	6.3	26.7
わからない	2.8	3.3	2.1	0.0	0.0

■ 利用者本人からの反応

- ・ 利用者本人の反応に関しては、「利用者からの反応は特にない」が 72.0%、「転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い」が 12.3%であった。

図表 68 利用者本人からの反応

単位 (%)

	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	12.3	12.5	6.4	0.0	40.0
unnecessary 訪室の削減による利用者の睡眠の質改善という観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	4.4	5.0	4.3	0.0	0.0
居室で発生した事故の検証の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	6.6	7.5	4.3	0.0	6.7
録画データを活用したケア改善の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	1.9	1.3	2.1	0.0	13.3
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) 防止の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	1.9	2.1	2.1	0.0	0.0
職員の負担軽減の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い	2.2	2.1	2.1	0.0	6.7
自身のプライバシーに関して懸念を示す利用者が多い	2.5	2.5	2.1	0.0	6.7
その他	1.6	2.1	0.0	0.0	0.0
利用者からの反応は特にない	72.0	71.7	78.7	87.5	40.0
わからない	9.1	8.8	6.4	12.5	20.0

■ 家族からの反応

- ・ 家族からの反応に関しては、「家族からの反応は特にない」が 43.4%、「転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い」が 37.1%、「居室で発生した事故の検証の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い」が 20.8%であった。

図表 69 家族からの反応

単位 (%)

	全体 (n=318)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=240)	老健・介護医療院 (n=47)	ショートステイ (n=16)	その他 (n=15)
転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	37.1	38.3	31.9	25.0	46.7
unnecessary 訪室の削減による利用者の睡眠の質改善という観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	12.9	14.2	12.8	0.0	6.7
居室で発生した事故の検証の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	20.8	23.3	14.9	6.3	13.3
録画データを活用したケア改善の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	11.0	11.7	10.6	0.0	13.3
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) 防止の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	8.5	8.3	12.8	0.0	6.7
職員の負担軽減の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い	5.3	5.4	6.4	0.0	6.7
利用者のプライバシーに関して懸念を示す家族が多い	2.8	2.5	4.3	6.3	0.0
その他	3.1	2.5	6.4	6.3	0.0
家族からの反応は特にない	43.4	44.2	40.4	43.8	40.0
わからない	10.7	9.6	14.9	12.5	13.3

(5) カメラタイプの見守り機器を導入しない理由

■ (カメラタイプを導入していない施設) 導入している見守り機器

- ・ 導入している見守り機器に関しては、「床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー」が 59.1%、「ベッドに敷く対イプのシート型見守り機器」が 49.7%、「起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド」が 40.0%であった。

図表 70 (カメラタイプを導入していない施設) 導入している見守り機器

	単位 (%)				
	全体 (n=680)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=468)	老健・介護医療院 (n=153)	ショートステイ (n=24)	その他 (n=35)
ベッドに敷くタイプのシート型見守り機器	49.7	53.2	39.9	62.5	37.1
床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー	59.1	60.0	62.7	66.7	25.7
起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド	40.0	41.9	43.8	29.2	5.7
その他	7.2	7.9	4.6	8.3	8.6
導入していない	12.6	11.1	13.7	4.2	34.3
わからない	1.2	1.3	0.7	0.0	2.9

■ (カメラタイプを導入していない施設) カメラタイプの導入検討有無

- ・ 通常映像型の導入検討状況に関しては、「通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」が 31.8%、「導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない」が 27.9%であった。
- ・ シルエット型の導入検討状況に関しては、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない」が 40.0%、「シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった」が 25.6%であった。

図表 71 (カメラタイプを導入していない施設) カメラタイプの導入検討有無
通常映像型の導入検討状況

	単位 (%)				
	全体 (n=680)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=468)	老健・介護医療院 (n=153)	ショートステイ (n=24)	その他 (n=35)
導入を検討し、今後、導入予定がある	9.3	9.4	10.5	4.2	5.7
導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある	9.6	10.9	7.2	8.3	2.9
導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない	27.9	26.9	31.4	37.5	20.0
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない	31.8	32.7	30.1	29.2	28.6
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった	12.6	11.3	15.0	12.5	20.0
その他	8.8	8.8	5.9	8.3	22.9

図表 72 (カメラタイプを導入していない施設)カメラタイプの導入検討有無
シルエット型の導入検討状況

	単位 (%)				
	全体 (n=680)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=468)	老健・介護医療院 (n=153)	ショートステイ (n=24)	その他 (n=35)
導入を検討し、今後、導入予定がある	5.1	5.3	4.6	4.2	5.7
導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある	6.3	7.5	3.9	4.2	2.9
導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない	17.4	18.6	13.1	20.8	17.1
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない	40.0	39.5	43.1	37.5	34.3
シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった	25.6	23.5	32.7	20.8	25.7
その他	5.6	5.6	2.6	12.5	14.3

- (カメラタイプを導入していない施設)通常映像型見守り機器の導入目的
 - ・ 「導入を検討し、今後、導入予定がある」と回答した施設等について、通常映像型見守り機器の導入目的に関しては、「転倒・転落事故の防止や早期発見のため」が 85.7%、「居室で発生した事故の検証を行うため」が 84.1%、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」が 79.4%であった。

図表 73 (カメラタイプを導入していない施設)通常映像型見守り機器の導入目的

	単位 (%)				
	全体 (n=63)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=44)	老健・介護医療院 (n=16)	ショートステイ (n=1)	その他 (n=2)
夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため	77.8	81.8	62.5	100.0	100.0
夜間の訪室業務の負担を軽減するため	79.4	77.3	81.3	100.0	100.0
夜間の人員配置を削減するため	23.8	22.7	25.0	0.0	50.0
転倒・転落事故の防止や早期発見のため	85.7	86.4	81.3	100.0	100.0
居室で発生した事故の検証を行うため	84.1	86.4	75.0	100.0	100.0
録画データ確認によるケア改善に活用するため	55.6	59.1	43.8	100.0	50.0
職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため	42.9	50.0	25.0	0.0	50.0
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) を防止するため	46.0	52.3	31.3	0.0	50.0
職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため	42.9	43.2	43.8	0.0	50.0
その他	1.6	0.0	6.3	0.0	0.0
わからない	1.6	2.3	0.0	0.0	0.0

- (カメラタイプを導入していない施設)シルエット型見守り機器の導入目的
 - ・ 「導入を検討し、今後、導入予定がある」と回答した施設等について、シルエット型見守り機器の導入目的に関しては、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」「転倒・転落事故の防止や早期発見のため」「居室で発生した事故の検証を行うため」が 82.9%であった。

図表 74 (カメラタイプを導入していない施設)シルエット型見守り機器の導入目的

	単位 (%)				
	全体 (n=35)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=25)	老健・介護医療院 (n=7)	ショートステイ (n=1)	その他 (n=2)
夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため	71.4	72.0	71.4	0.0	100.0
夜間の訪室業務の負担を軽減するため	82.9	76.0	100.0	100.0	100.0
夜間の人員配置を削減するため	22.9	20.0	28.6	0.0	50.0
転倒・転落事故の防止や早期発見のため	82.9	80.0	85.7	100.0	100.0
居室で発生した事故の検証を行うため	82.9	80.0	85.7	100.0	100.0
録画データ確認によるケア改善に活用するため	57.1	60.0	42.9	0.0	100.0
職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため	48.6	52.0	42.9	0.0	50.0
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) を防止するため	48.6	52.0	42.9	0.0	50.0
職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため	48.6	44.0	71.4	0.0	50.0

■ (カメラタイプを導入していない施設)通常映像型を導入しなかった理由

- ・ 通常映像型見守り機器を導入しなかった理由に関しては、「利用者のプライバシーの観点で懸念があるため」「導入費用が高価であるため」が 63.3%であった。

図表 75 (カメラタイプを導入していない施設)通常映像型を導入しなかった理由

	単位 (%)				
	全体 (n=531)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=371)	老健・介護医療院 (n=114)	ショートステイ (n=20)	その他 (n=26)
利用者のプライバシーの観点で懸念があるため	63.3	65.5	57.9	55.0	61.5
職員の心理的負担となる可能性があるため	19.2	20.5	13.2	25.0	23.1
利用対象としていた利用者が拒否したため	3.4	3.2	3.5	0.0	7.7
利用対象としていた利用者の家族が拒否したため	2.1	1.1	5.3	0.0	3.8
職員が導入を拒否したため	5.5	5.1	7.0	5.0	3.8
法人・施設の方針としてカメラタイプの見守り機器を導入しない意向であるため	20.7	20.2	22.8	15.0	23.1
カメラタイプの見守り機器以外の機器で、夜間の訪室回数削減効果を得ることができているため	19.0	20.2	18.4	20.0	3.8
カメラタイプの見守り機器以外の機器で、転倒・転落事故の防止や早期発見ができているため	23.7	23.5	26.3	10.0	26.9
利用者の状況把握を映像に頼った結果、ケアマネジメントが疎かになる可能性があるため	4.1	3.2	7.9	0.0	3.8
施設で導入している他の見守り機器と連携できないため	14.5	14.3	16.7	10.0	11.5
施設で導入している介護記録ソフトと連携できないため	14.7	15.6	14.9	0.0	11.5
施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できないため	8.1	8.1	9.6	0.0	7.7
施設で導入しているナースコールと連携できないため	18.3	18.1	21.9	10.0	11.5
施設で導入しているインカムと連携できないため	4.3	4.0	5.3	0.0	7.7
導入費用が高価であるため	63.3	61.7	70.2	65.0	53.8
導入後のサポートが不十分であるため	5.3	4.9	5.3	10.0	7.7
その他	7.5	8.4	3.5	10.0	11.5
わからない	3.6	2.4	5.3	5.0	11.5

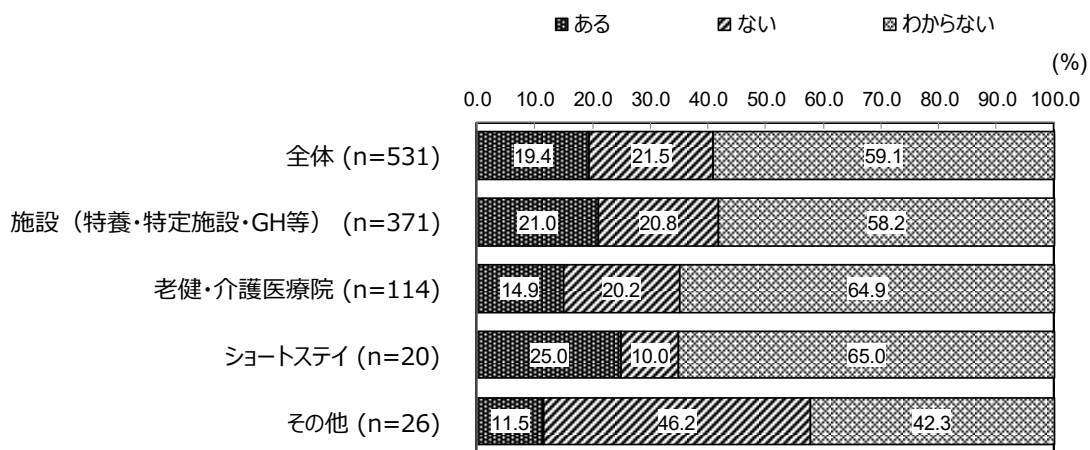
- (カメラタイプを導入していない施設)シルエット型を導入しなかった理由
 - ・ シルエット型見守り機器を導入しなかった理由に関しては、「導入費用が高価であるため」が58.0%、「利用者のプライバシーの観点で懸念があるため」が45.6%であった。

図表 76 (カメラタイプを導入していない施設)シルエット型を導入しなかった理由

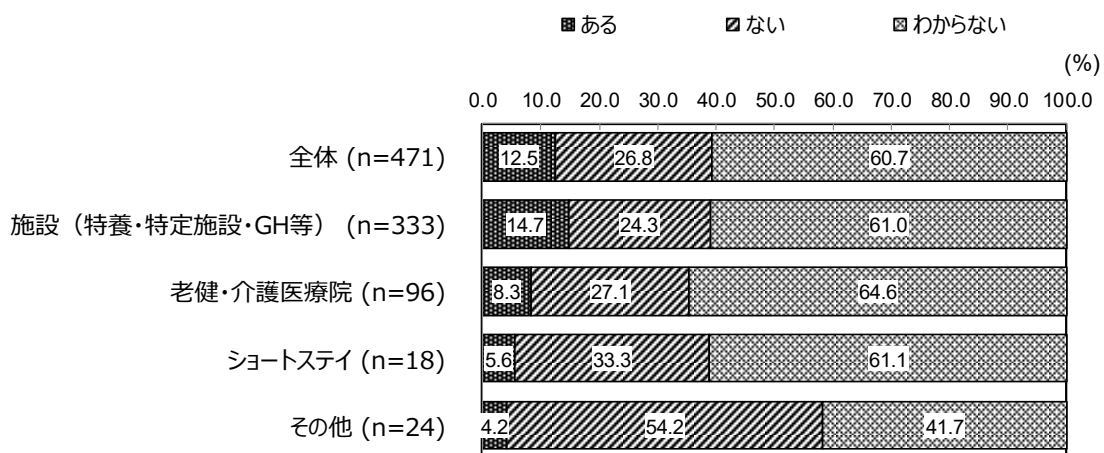
	単位 (%)				
	全体 (n=471)	施設 (特養・特定施設・GH等) (n=333)	老健・介護医療院 (n=96)	ショートステイ (n=18)	その他 (n=24)
利用者のプライバシーの観点で懸念があるため	45.6	46.2	45.8	44.4	37.5
職員の心理的負担となる可能性があるため	15.1	16.5	10.4	22.2	8.3
利用対象としていた利用者が拒否したため	2.5	2.7	2.1	0.0	4.2
利用対象としていた利用者の家族が拒否したため	2.5	2.1	3.1	0.0	8.3
職員が導入を拒否したため	4.2	4.8	3.1	5.6	0.0
法人・施設の方針としてカメラタイプの見守り機器を導入しない意向であるため	15.9	15.6	18.8	11.1	12.5
カメラタイプの見守り機器以外の機器で、夜間の訪室回数削減効果を得ることができているため	17.2	16.8	18.8	22.2	12.5
カメラタイプの見守り機器以外の機器で、転倒・転落事故の防止や早期発見ができているため	20.2	20.4	24.0	5.6	12.5
利用者の状況把握を映像に頼った結果、ケアマネジメントが疎かになる可能性があるため	4.0	3.0	8.3	0.0	4.2
施設で導入している他の見守り機器と連携できないため	15.9	15.3	17.7	5.6	25.0
施設で導入している介護記録ソフトと連携できないため	15.7	15.3	18.8	5.6	16.7
施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できないため	8.7	8.7	9.4	0.0	12.5
施設で導入しているナースコールと連携できないため	17.2	16.8	19.8	11.1	16.7
施設で導入しているインカムと連携できないため	4.2	4.2	4.2	0.0	8.3
導入費用が高価であるため	58.0	55.0	69.8	55.6	54.2
導入後のサポートが不十分であるため	4.7	3.6	6.3	11.1	8.3
その他	10.4	11.4	6.3	11.1	12.5
わからない	6.2	5.1	8.3	0.0	16.7

- (カメラタイプを導入していない施設)カメラタイプの導入意向
 - ・ 通常映像型見守り機器の導入意向に関しては、全体で「ある」が 19.4%、「ない」が 21.5%であった。
 - ・ シルエット型見守り機器の導入意向に関しては、全体で「ある」が 12.5%、「ない」が 26.8%であった。

**図表 77 (カメラタイプを導入していない施設)カメラタイプの導入意向
通常映像型見守り機器の導入意向**



**図表 78 (カメラタイプを導入していない施設)カメラタイプの導入意向
シルエット型見守り機器の導入意向**



③ クロス集計

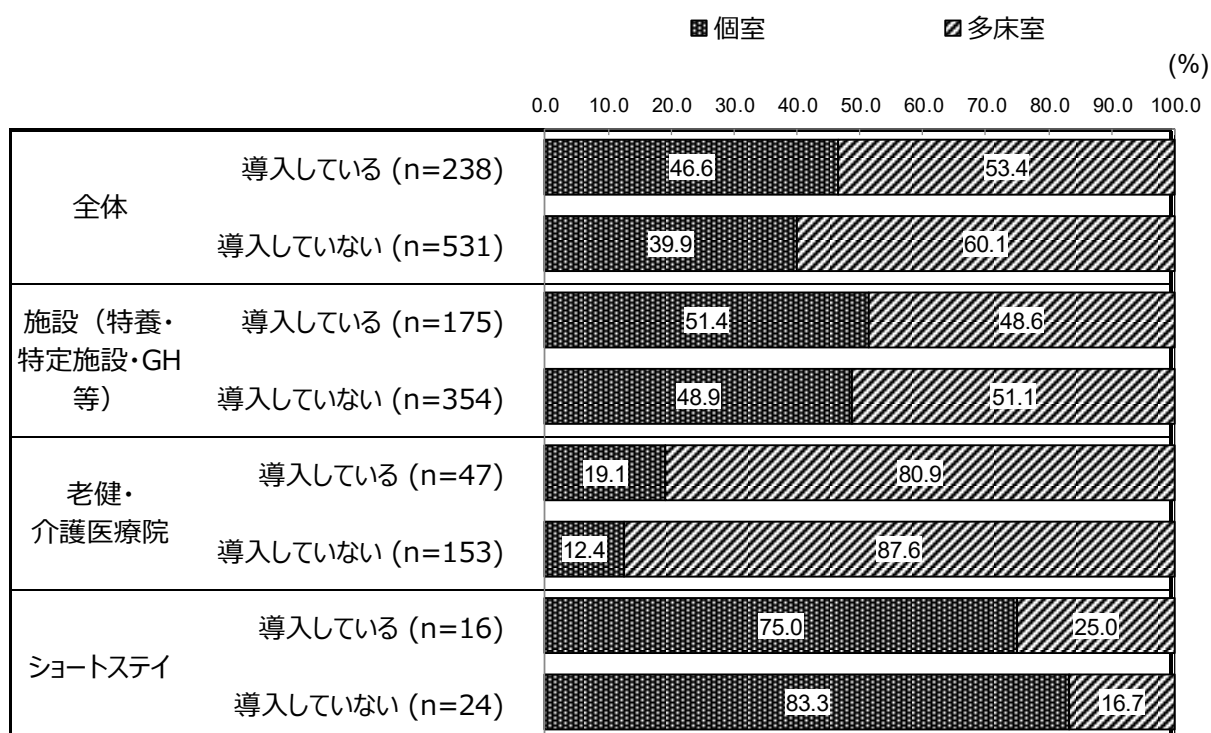
カメラタイプの見守り機器を導入している施設の特徴を把握することを目的として、「カメラタイプの見守り機器の導入状況」と「居室タイプ」・「利用定員数」・「施設開設年」・「施設・事業所の運営形態」に関するクロス集計を行った。

また、通常映像型・シルエット型ごとの導入目的や導入効果、課題などを把握することを目的として、「導入しているカメラタイプの見守り機器の種類」と「利用者の状態に関連する課題」・「施設構造に関連する課題」・「運用ルール」・「録画データの取扱いルール」・「導入目的」・「導入の決め手となった事項」・「機器導入により効果が感じられた内容」・「機器導入後に感じた課題」に関するクロス集計を行った。一部項目にてカメラタイプによる差を確認すべくカイ二乗検定を行った。検定の対象は施設種別「全体」とし、有意水準は5%とした。

■ カメラタイプの見守り機器の導入状況×居室タイプ

- カメラタイプの見守り機器の導入状況と居室タイプをクロス集計した結果、導入している施設の居室タイプは、施設(特養・特定施設・GH等)では「個室」が51.4%、老健・介護医療院では「多床室」が80.9%、ショートステイでは「個室」が75.0%であった。
- 導入していない施設の居室タイプは、施設(特養・特定施設・GH等)では「多床室」が51.1%、老健・介護医療院では「多床室」が87.6%、ショートステイでは「個室」が83.3%であった。

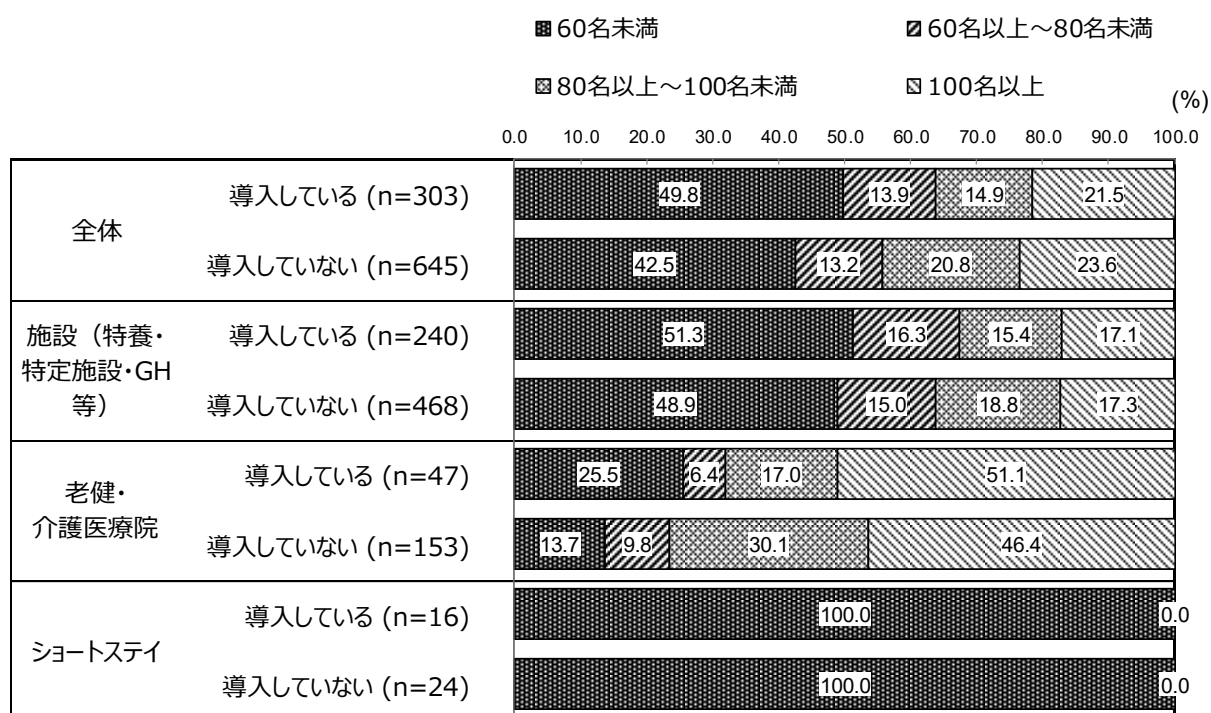
図表 79 カメラタイプ見守り機器の導入状況 × 居室タイプ



■ カメラタイプ見守り機器の導入状況×利用定員数

- ・ 導入している施設の利用定員数は、施設(特養・特定施設・GH等)では「60名未満」が51.3%、老健・介護医療院では「100名以上」が51.1%、ショートステイでは「60名未満」が100.0%であった。
- ・ 導入していない施設の利用定員数は、施設(特養・特定施設・GH等)では「60名未満」が48.9%、老健・介護医療院では「100名以上」が46.4%、ショートステイでは「60名未満」が100.0%であった。

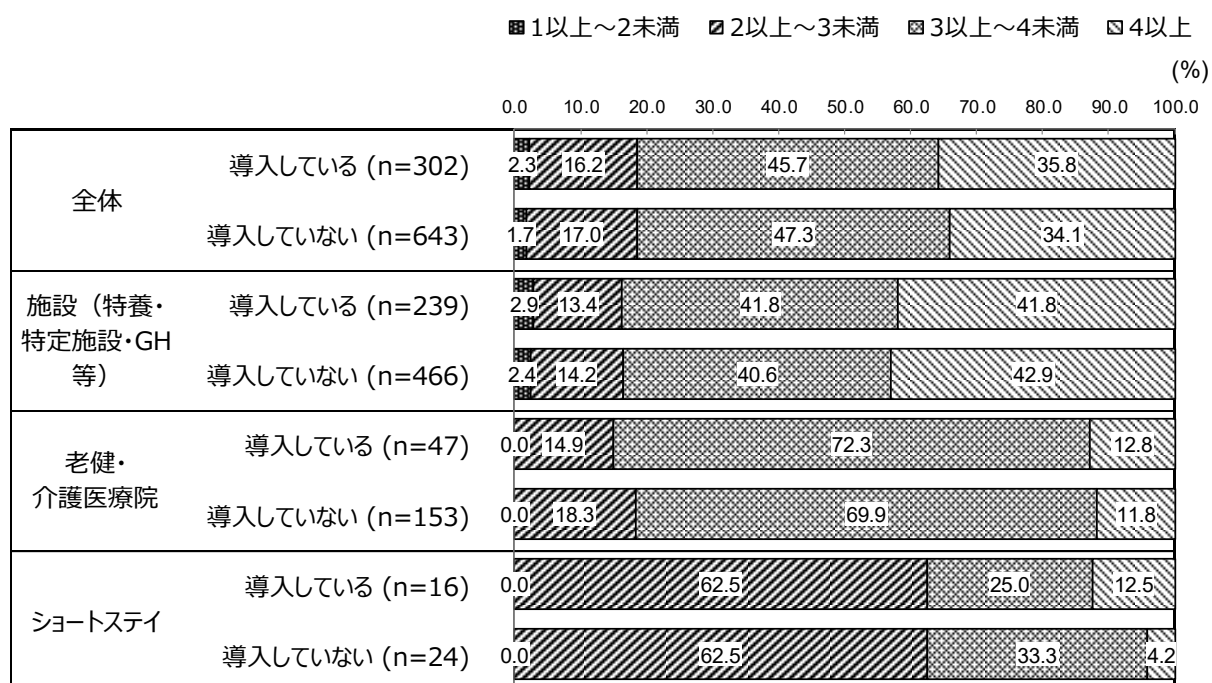
図表 80 カメラタイプ見守り機器の導入状況 × 利用定員数



■ カメラタイプ見守り機器の導入状況×平均介護度

- ・ 導入している施設の平均介護度は、施設(特養・特定施設・GH等)では「3以上～4未満」と「4以上」がそれぞれ41.8%、老健・介護医療院では「3以上～4未満」が72.3%、ショートステイでは「2以上～3未満」が62.5%であった。
- ・ 導入していない施設の平均介護度は、施設(特養・特定施設・GH等)では「4以上」が42.9%、老健・介護医療院では「3以上～4未満」が69.9%、ショートステイでは「2以上～3未満」が62.5%であった。

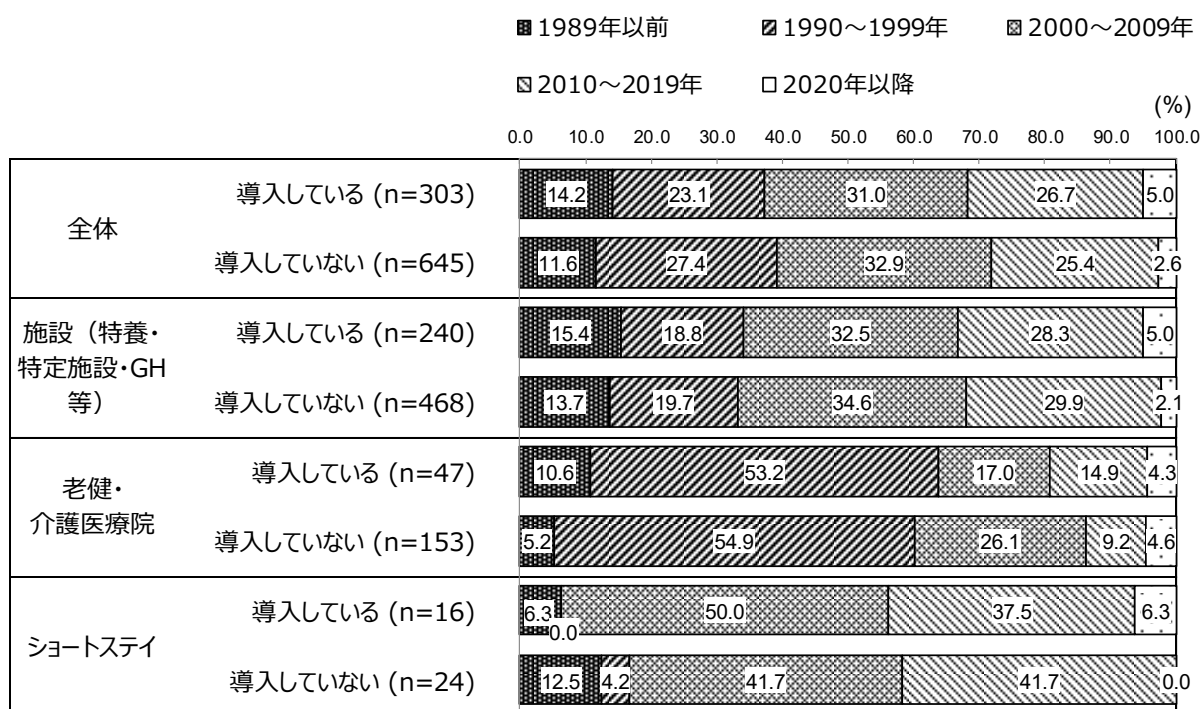
図表 81 カメラタイプ見守り機器の導入状況 × 平均介護度



■ カメラタイプ見守り機器の導入状況×施設開設年

- ・ 導入している施設の開設年は、施設（特養・特定施設・GH等）では「2000～2009年」が32.5%、老健・介護医療院では「1990～1999年」が53.2%、ショートステイでは「2000～2009年」が50.0%であった。
- ・ 導入していない施設の開設年は、施設（特養・特定施設・GH等）では「2000～2009年」が34.6%、老健・介護医療院では「1990～1999年」が54.9%、ショートステイでは「2000～2009年」及び「2010～2019年」がそれぞれ41.7%であった。

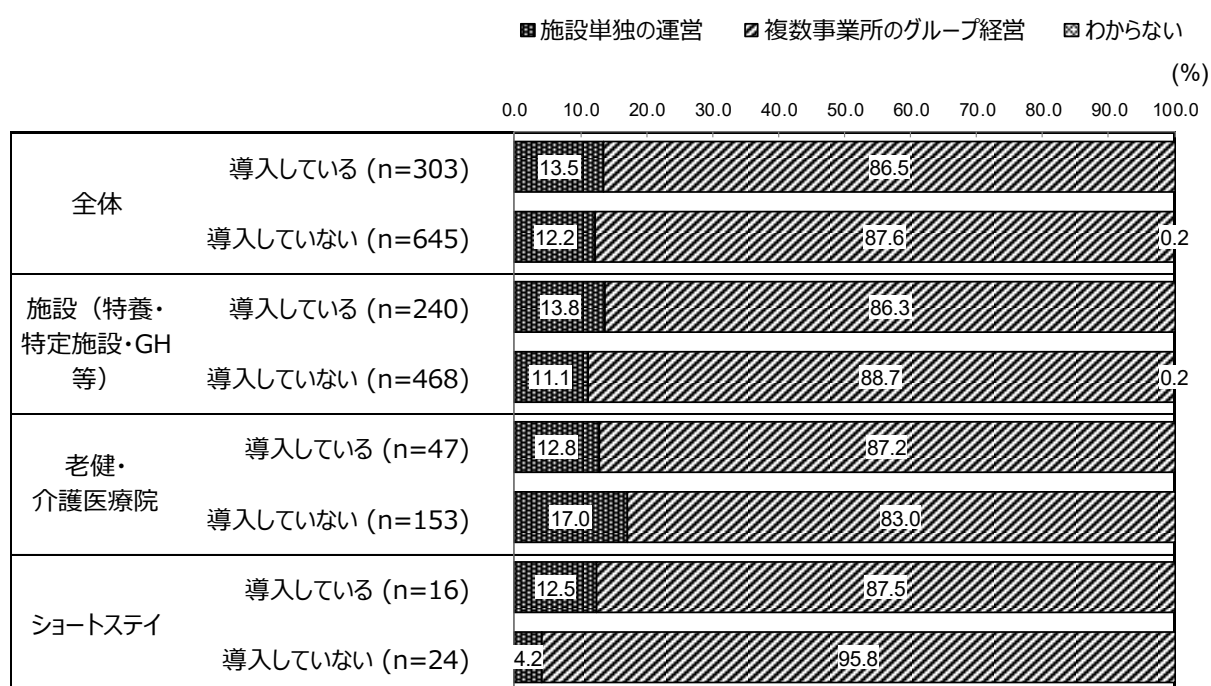
図表 82 カメラタイプ見守り機器の導入状況 × 施設開設年



■ カメラタイプ見守り機器の導入状況×施設・事業所の運営形態

- ・ 導入している施設の施設・事業所の運営形態として「複数事業所のグループ経営」と回答したのは、施設(特養・特定施設・GH等)では86.3%、老健・介護医療院では87.2%、ショートステイでは87.5%であった。
- ・ 導入していない施設の施設・事業所の運営形態として「複数事業所のグループ経営」と回答したのは、施設(特養・特定施設・GH等)では88.7%、老健・介護医療院では83.0%、ショートステイでは95.8%であった。

図表 83 カメラタイプ見守り機器の導入状況 × 施設・事業所の運営形態



■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×施設の利用者の状態に関連する課題

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「施設の利用者の状態に関連する課題」として、「転倒リスクの高い利用者が多い」と回答したのは全体で87.7%、「ベッドからの転倒リスクの高い利用者が多い」と回答したのは、全体で63.2%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「施設の利用者の状態に関連する課題」として、「転倒リスクの高い利用者が多い」と回答したのは全体で91.6%、「ベッドからの転倒リスクの高い利用者が多い」と回答したのは、全体で72.0%であった。
- ・ なお、通常映像型とシルエット型の導入施設を比較すると、「夜間に徘徊する利用者が多い」の項目では、シルエット型が有意に高い。

図表 84 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 施設の利用者の状態に関連する課題

単位 (%)

	全体		施設（特養・特定施設・GH等）		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
転倒リスクの高い利用者が多い	87.7	91.6	86.9	91.6	92.3	95.2	80.0	100.0	90.0	50.0
ベッドからの転倒リスクの高い利用者が多い	63.2	72.0	61.5	73.8	76.9	66.7	60.0	54.5	50.0	100.0
夜間に徘徊する利用者が多い	22.8	35.0	21.5	36.4	23.1	38.1	20.0	18.2	40.0	25.0
認知症の行動・心理症状（幻覚・妄想など）を有する利用者が多い	52.6	57.3	52.3	59.8	57.7	66.7	40.0	27.3	50.0	25.0
夜間にオムツ外しをする利用者が多い	17.5	16.8	16.2	15.9	23.1	28.6	40.0	9.1	10.0	0.0
睡眠不良（昼夜逆転など）の利用者が多い	35.7	32.2	36.9	31.8	34.6	38.1	40.0	36.4	20.0	0.0
夜間に、排泄等のため覚醒する利用者が多い	53.2	46.9	50.0	44.9	53.8	61.9	80.0	45.5	80.0	25.0
その他	1.8	0.7	1.5	0.0	3.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
利用者の状態による課題は特になし	2.3	1.4	2.3	1.9	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×施設の施設構造に関連する課題

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「施設の施設構造に関連する課題」として、「居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる」「スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れている居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる」と回答したのは全体で62.6%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「施設の施設構造に関連する課題」として、「居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる」と回答したのは全体で60.8%、「スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れている居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる」と回答したのは、全体で65.7%であった。
- ・ なお、通常映像型とシルエット型の導入施設を比較したが、いずれの選択肢も有意な差は見られなかった。

図表 85 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 施設の施設構造に関連する課題

単位 (%)

	全体		施設 (特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる	62.6	60.8	62.3	62.6	76.9	71.4	40.0	45.5	40.0	0.0
スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れている居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる	62.6	65.7	60.8	62.6	80.8	76.2	20.0	63.6	60.0	100.0
居室が複数棟に分かれており、各棟の職員間の連携が難しい	17.5	16.1	16.9	17.8	19.2	14.3	0.0	9.1	30.0	0.0
居室が複数階に分かれており、各階の職員間の連携が難しい	28.7	25.9	29.2	26.2	38.5	38.1	20.0	0.0	0.0	25.0
その他	3.5	4.9	2.3	5.6	3.8	4.8	20.0	0.0	10.0	0.0
施設構造の課題は特にない	10.5	9.1	12.3	11.2	0.0	0.0	20.0	9.1	10.0	0.0

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×運用ルール

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「運用ルール」として、「通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている」と回答したのは全体で 62.6%、「特に運用に関するルールは定めていない」と回答したのは全体で 22.2%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「運用ルール」として、「通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている」と回答したのは全体で 39.9%、「利用者の表情等がクリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している(モザイク処理等)」と回答したのは全体で 32.9%であった。
- ・ なお、通常映像型とシルエット型の導入施設を比較すると、「通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている」の項目は通常映像型が有意に高い。また、「利用者の表情等がクリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している(モザイク処理等)」・「家族や外部からの訪問者が訪室する際はカメラをオフにしている」の項目はシルエット型が有意に高い。

図表 86 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 運用ルール

単位 (%)

	全体		施設(特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
利用者の表情等がクリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している(モザイク処理等)	18.1	32.9	17.7	33.6	26.9	28.6	20.0	36.4	0.0	25.0
通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることとし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている	62.0	39.9	60.8	42.1	69.2	52.4	20.0	0.0	80.0	25.0
家族や外部からの訪問者が訪室する際はカメラをオフにしている	4.1	10.5	5.4	6.5	0.0	28.6	0.0	9.1	0.0	25.0
排泄介助を行う際はカメラをオフにしている	8.2	8.4	6.9	8.4	15.4	14.3	0.0	0.0	10.0	0.0
更衣介助を行う際はカメラをオフにしている	7.0	8.4	6.9	8.4	7.7	14.3	0.0	0.0	10.0	0.0
清拭介助を行う際はカメラをオフにしている	7.0	9.1	6.9	8.4	7.7	19.0	0.0	0.0	10.0	0.0
その他	7.6	7.7	10.0	6.5	0.0	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に運用に関するルールは定めていない	22.2	31.5	23.1	32.7	15.4	23.8	60.0	45.5	10.0	0.0
わからない	2.9	3.5	3.1	1.9	3.8	0.0	0.0	9.1	0.0	50.0

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×録画データの取扱いルール

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「録画データの取扱いルール」として、「録画データを一定期間後に破棄している」と回答したのは全体で 45.0%、「録画データの目的外利用を制限している」と回答したのは全体で 36.8%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「録画データの取扱いルール」として、「録画データを一定期間後に破棄している」と回答したのは全体で 30.1%、「特に録画データの取り扱いに関するルールは定めていない」と回答したのは全体で 25.2%であった。
- ・ なお、通常映像型とシルエット型の導入施設を比較すると、「録画データを一定期間後に破棄している」・「録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している」・「録画データの目的外利用を制限している」・「録画データの第三者提供の手続きを明確化している」の項目は通常映像型が有意に高く、「特に録画データの取り扱いに関するルールは定めていない」はシルエット型が有意に高い。

図表 87 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 録画データの取扱いルール

	全体		施設 (特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
録画データを一定期間後に破棄している	45.0	30.1	47.7	31.8	38.5	28.6	80.0	27.3	10.0	0.0
録画データをクラウドに保管している	7.0	10.5	6.9	12.1	3.8	0.0	0.0	9.1	20.0	25.0
録画データを保管している施設内のストレージにウイルス対策をしている	14.0	13.3	16.2	12.1	11.5	19.0	0.0	18.2	0.0	0.0
録画データにパスワードを設定している	8.2	11.9	8.5	11.2	11.5	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0
録画データの施設外への持ち出しに申請・承認が必要としている	6.4	6.3	6.2	5.6	11.5	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
録画データの管理責任者を置いている	21.1	13.3	22.3	14.0	23.1	19.0	20.0	0.0	0.0	0.0
録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している	31.0	16.1	33.1	15.9	30.8	19.0	20.0	9.1	10.0	25.0
録画データの目的外利用を制限している	36.8	22.4	38.5	24.3	38.5	19.0	0.0	18.2	30.0	0.0
録画データの第三者提供の手続きを明確化している	10.5	2.8	11.5	2.8	3.8	4.8	0.0	0.0	20.0	0.0
その他	8.8	7.0	9.2	8.4	3.8	4.8	0.0	0.0	20.0	0.0
特に録画データの取り扱いに関するルールは定めていない	13.5	25.2	13.1	22.4	15.4	42.9	20.0	27.3	10.0	0.0
わからない	6.4	7.0	5.4	5.6	11.5	0.0	0.0	18.2	10.0	50.0

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×導入目的

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「導入目的」として、「転倒・転落事故の防止や早期発見のため」と回答したのは全体で 91.8%、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」と回答したのは全体で 69.6%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「導入目的」として、「転倒・転落事故の防止や早期発見のため」と回答したのは全体で 90.9%、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」と回答したのは全体で 81.8%であった。
- ・ なお、通常映像型とシルエット型の導入施設を比較すると、「夜間の訪室業務の負担を軽減するため」の項目はシルエット型で有意に高く、「利用者に対する虐待(不適切ケア含む)を防止するため」の項目は通常映像型で有意に高い。

図表 88 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 導入目的

	全体		施設(特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
夜間の不必要な訪室を削減することにより、 利用者の睡眠を妨げないようにするため	68.4	67.1	67.7	71.0	73.1	71.4	80.0	45.5	60.0	0.0
夜間の訪室業務の負担を軽減するため	69.6	81.8	72.3	83.2	73.1	81.0	40.0	72.7	40.0	75.0
夜間の人員配置を削減するため	13.5	10.5	13.8	13.1	15.4	0.0	20.0	9.1	0.0	0.0
転倒・転落事故の防止や早期発見のため	91.8	90.9	93.1	90.7	88.5	95.2	100.0	81.8	80.0	100.0
居室で発生した事故の検証を行うため	67.8	67.1	71.5	71.0	53.8	57.1	60.0	54.5	60.0	50.0
録画データ確認によるケア改善に活用するため	32.2	30.1	33.8	30.8	26.9	19.0	40.0	36.4	20.0	50.0
職員間でのケアの教育・指導・振り返りに 活用するため	23.4	17.5	23.8	18.7	26.9	14.3	20.0	9.1	10.0	25.0
利用者に対する虐待(不適切ケア含む)を 防止するため	29.2	16.8	30.8	18.7	26.9	4.8	0.0	18.2	30.0	25.0
職員に対する利用者等からのハラスメントを 防止するため	15.8	11.2	16.2	13.1	19.2	0.0	0.0	18.2	10.0	0.0
その他	1.2	2.1	0.8	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
わからない	1.8	0.7	0.8	0.0	3.8	0.0	0.0	9.1	10.0	0.0

単位 (%)

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×導入の決め手となった事項

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「導入の決め手となった事項」として、「補助金の対象機器であったため」と回答したのは全体で 59.1%、「撮影映像を録画できるため」と回答したのは全体で 48.5%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「導入の決め手となった事項」として、「補助金の対象機器であったため」と回答したのは全体で 74.8%、「撮影映像の画質を調整できる、またはモザイク画像やシルエット画像等にできるため」と回答したのは全体で 62.9%であった。
- ・ なお、シルエット型と比較し、通常映像型では、「施設で導入している他の見守り機器と連携できるため」・「施設で導入している介護記録ソフトと連携できるため」等の項目の割合が有意に高い。

図表 89 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 導入の決め手となった事項

	全体		施設（特養・特定施設・GH等）		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
撮影映像の画質を調整できる、またはモザイク画像やシルエット画像等にできるため	21.1	62.9	22.3	64.5	19.2	66.7	40.0	36.4	0.0	75.0
撮影映像がクリアであるため	35.1	4.2	33.8	3.7	38.5	4.8	20.0	0.0	50.0	25.0
撮影映像を録画できるため	48.5	43.4	49.2	44.9	53.8	42.9	40.0	18.2	30.0	75.0
録画のタイミングが起き上がりや離床、立ち上がり時のみであるため	24.6	30.8	25.4	32.7	19.2	42.9	0.0	0.0	40.0	0.0
録画データがセキュリティに配慮されているため	11.1	14.0	11.5	14.0	15.4	14.3	0.0	18.2	0.0	0.0
他の施設からの評判が高かったため	10.5	7.7	11.5	9.3	11.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
他の施設が導入しているため	14.6	9.8	16.9	9.3	3.8	19.0	20.0	0.0	10.0	0.0
職員からの反応が最も良いため	28.1	36.4	29.2	37.4	34.6	42.9	0.0	9.1	10.0	50.0
操作が簡便で使いやすいため	34.5	34.3	30.0	32.7	50.0	52.4	40.0	18.2	50.0	25.0
施設で導入している他の見守り機器と連携できるため	26.9	4.9	28.5	4.7	19.2	4.8	20.0	9.1	30.0	0.0
施設で導入している介護記録ソフトと連携できるため	22.8	7.7	23.8	8.4	19.2	4.8	60.0	9.1	0.0	0.0
施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できるため	35.7	46.2	36.9	45.8	26.9	42.9	20.0	36.4	50.0	100.0
施設で導入しているナースコールやインカムと連携できるため	17.5	9.1	18.5	7.5	15.4	19.0	40.0	9.1	0.0	0.0
導入費用が安価であるため	14.6	5.6	13.1	5.6	19.2	4.8	0.0	9.1	30.0	0.0
補助金の対象機器であったため	59.1	74.8	60.8	80.4	57.7	66.7	60.0	45.5	40.0	50.0
機器や機器メーカーにブランド力があるため	11.1	2.1	13.8	2.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メーカーによる導入後サポートが充実しているため	18.7	16.8	21.5	17.8	7.7	23.8	0.0	0.0	20.0	0.0
その他	2.9	4.9	3.1	2.8	3.8	9.5	0.0	18.2	0.0	0.0
わからない	2.9	2.1	3.8	0.9	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0

- 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×機器導入により効果が感じられた内容
 - ・ 通常映像型を導入している施設について、「機器導入により効果が感じられた内容」として、「転倒・転落事故の防止や早期発見」と回答したのは全体で 87.1%、「居室で発生した事故の検証」と回答したのは全体で 80.7%であった。
 - ・ シルエット型を導入している施設について、「機器導入により効果が感じられた内容」として、「転倒・転落事故の防止や早期発見」と回答したのは全体で 90.2%、「居室で発生した事故の検証」と回答したのは全体で 83.9%であった。
 - ・ なお、カメラタイプ見守り機器の種類で、機器導入により効果が感じられた内容に有意な差はみられなかった。

図表 90 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 機器導入により効果が感じられた内容

単位 (%)

	全体		施設 (特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
転倒・転落事故の防止や早期発見	87.1	90.2	88.5	90.7	80.8	100.0	80.0	63.6	90.0	100.0
居室で発生した事故の検証	80.7	83.9	81.5	86.0	80.8	81.0	80.0	63.6	70.0	100.0
夜間の訪室業務の負担軽減	76.0	73.4	77.7	78.5	76.9	61.9	60.0	54.5	60.0	50.0
不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善	71.9	72.0	73.8	72.9	65.4	85.7	60.0	45.5	70.0	50.0
夜間の人員配置の削減	14.6	14.0	15.4	15.0	11.5	9.5	20.0	18.2	10.0	0.0
録画データ確認によるケア改善	49.1	48.3	46.9	47.7	46.2	47.6	80.0	45.5	70.0	75.0
職員間でのケアの教育・指導・振り返り	48.0	45.5	48.5	46.7	42.3	38.1	40.0	36.4	60.0	75.0
利用者に対する虐待 (不適切ケア含む) の防止	52.0	43.4	55.4	46.7	38.5	28.6	40.0	36.4	50.0	50.0
利用者から職員に対するハラスメントの防止	36.8	31.5	36.2	34.6	30.8	19.0	40.0	27.3	60.0	25.0

■ 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類×機器導入後に感じた課題

- ・ 通常映像型を導入している施設について、「機器導入後に感じた課題」として、「機器の利活用方法を把握できていない職員がみられる」と回答したのは全体で 48.5%、「運用に当たり、プライバシーへの配慮が困難な場面がみられる」と回答したのは全体で 40.4%であった。
- ・ シルエット型を導入している施設について、「機器導入後に感じた課題」として、「機器の利活用方法を把握できていない職員がみられる」と回答したのは全体で 39.2%、「機器の設定が複雑で使いこなせない」と回答したのは全体で 21.7%であった。
- ・ なお、通常映像型の導入施設の方が、「利用者のプライバシーに対する懸念を示す家族がみられる」・「運用に当たり、プライバシーへの配慮が困難な場面がみられる」に課題を感じている割合が有意に高い。

図表 91 導入しているカメラタイプ見守り機器の種類 × 機器導入後に感じた課題

単位 (%)

	全体		施設(特養・特定施設・GH等)		老健・介護医療院		ショートステイ		その他	
	通常映像型 (n=171)	シルエット型 (n=143)	通常映像型 (n=130)	シルエット型 (n=107)	通常映像型 (n=26)	シルエット型 (n=21)	通常映像型 (n=5)	シルエット型 (n=11)	通常映像型 (n=10)	シルエット型 (n=4)
利用者のプライバシーに対する懸念を示す 利用者がみられる	14.0	8.4	14.6	7.5	7.7	0.0	20.0	36.4	20.0	0.0
利用者のプライバシーに対する懸念を示す家族がみられる	14.6	6.3	13.1	8.4	19.2	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
利用者のプライバシーに対する懸念を示す 職員がみられる	16.4	9.8	16.9	11.2	23.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0
運用に当たり、プライバシーへの配慮が 困難な場面がみられる	40.4	14.7	40.8	15.0	46.2	9.5	40.0	18.2	20.0	25.0
自身の業務が撮影されていることに心理的負担を 感じる職員がみられる	14.0	9.8	15.4	9.3	15.4	14.3	0.0	9.1	0.0	0.0
プライバシーや個人情報に関する権利擁護について、 職員が無関心になっている	13.5	16.1	13.1	15.9	23.1	4.8	0.0	27.3	0.0	50.0
導入前の想定よりも、不必要な訪室の削減による 利用者の睡眠の質改善ができていない	9.4	7.7	10.0	8.4	11.5	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0
導入前の想定よりも、転倒・転落事故の防止や 早期発見ができていない	11.1	9.1	9.2	8.4	26.9	9.5	0.0	18.2	0.0	0.0
導入前の想定よりも、夜間の訪室業務の 負担が軽減していない	23.4	18.9	21.5	19.6	30.8	19.0	20.0	0.0	30.0	50.0
導入前の想定よりも、利用者に対する虐待 (不適切ケア含む)を防止できていない	2.3	2.1	1.5	1.9	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
導入前の想定よりも、職員に対する利用者等からの ハラスメントを防止できていない	4.7	3.5	6.2	2.8	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	25.0
機器の設定が複雑で使いこなせない	13.5	21.7	11.5	21.5	26.9	23.8	0.0	27.3	10.0	0.0
機器の利活用方法を把握できていない職員がみられる	48.5	39.2	48.5	37.4	46.2	57.1	60.0	36.4	50.0	0.0
導入により、職員負担が増えている	3.5	7.0	3.8	6.5	3.8	4.8	0.0	9.1	0.0	25.0
ランニングコストがかかる	14.0	15.4	16.2	16.8	7.7	9.5	0.0	9.1	10.0	25.0
その他	7.6	9.8	8.5	10.3	3.8	4.8	0.0	18.2	10.0	0.0
特に課題はない	9.4	14.0	10.0	12.1	0.0	23.8	0.0	9.1	30.0	25.0
わからない	2.3	2.1	2.3	2.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5. ヒアリング調査結果

5.1. ヒアリング調査設計

カメラタイプの見守り機器を「導入している施設」に対して、効果的な利活用方法や利活用にあたってのポイントなどの整理に向けた好事例を抽出することを目的として、調査を行う。

また、カメラタイプの見守り機器を「導入していない施設」に対して、導入していない理由やどのようにしたら導入意向を持てるかを把握することを目的として、調査を行う。

主なヒアリング項目は、以下のとおり。

図表 92 ヒアリング調査実施概要

<p>調査目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメラタイプの見守り機器を導入している施設に関して、効果的な利活用方法や留意事項などの整理に向けた好事例を抽出するため ・ カメラタイプの見守り機器を導入していない施設に関して、その理由やどのようにしたら導入意向を持てるかを把握するため
<p>調査実施日</p>	<p>2022年11月30日～2023年2月8日</p>
<p>調査方法</p>	<p>Web 会議システムを用いたオンラインでのヒアリング調査</p>
<p>主な調査内容</p>	<p><カメラタイプの見守り機器を導入している場合></p> <p>①導入検討プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入目的と、導入時に期待していたこと ・ 「通常映像型」又は「シルエット型」を選んだ理由 ・ 複数あるカメラタイプ見守り機器のうち、当該機器を選定した理由 ・ 導入にあたり中心となった職員とその役割 <p>②導入実態及び効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的にどのような対象者・場面・方法で活用しているか ・ 導入後の業務変化及び導入効果 <p>③導入・活用にあたり留意していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者本人・職員・外部からの訪問者に対する説明・同意の内容と同意取得のプロセス(誰に対して、誰が、いつ、どのように、どのような資料を使って説明・同意取得しているか) ・ 実際に使用している同意書に記載されている項目(同意書ひな形) ・ 録画データの管理・運用方法・ルール ・ 効果的な利活用に向けて実施又は留意していること <p><カメラタイプの見守り機器を導入していない場合></p> <p>①利用者の見守りにおける課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りにあたっての利用者の状態に関連する課題

	<ul style="list-style-type: none"> 見守りにあたっての施設構造に関連する課題 <p>②導入していない理由、今後の導入意向</p> <ul style="list-style-type: none"> カメラタイプの見守り機器を導入していない理由 施設における今後の導入意向
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ヒアリング調査の対象施設は、アンケート調査において回答が得られた施設のうち、「ヒアリング調査に協力してもよい」又は「詳細を聞いた上で協力できるか判断する」と回答した 331 施設を選定対象とした。アンケート調査結果をもとに、

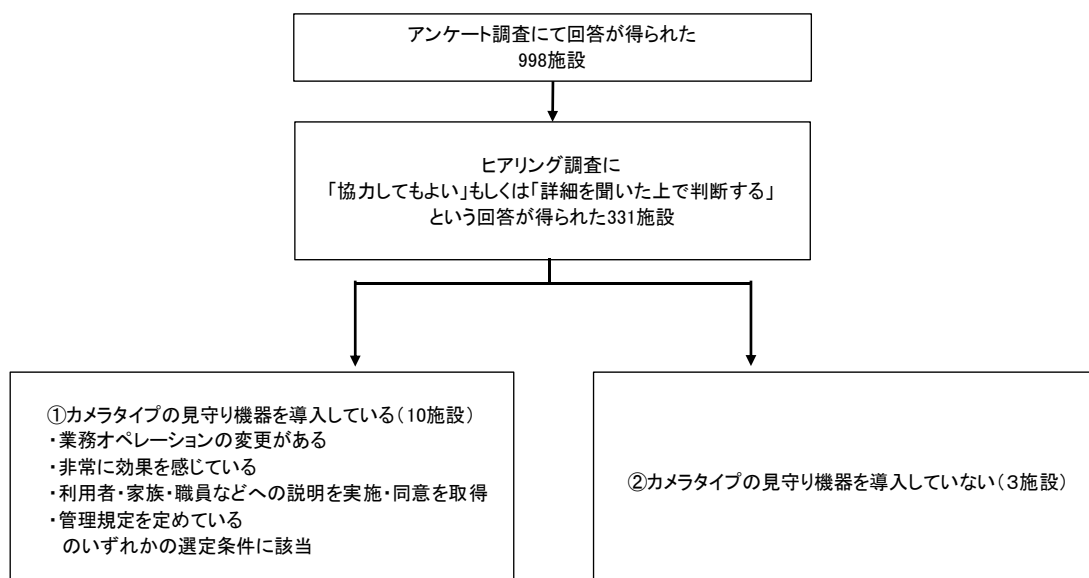
①カメラタイプの見守り機器を導入している

- ・業務オペレーションの変更がある
- ・非常に効果を感じている
- ・利用者・家族・職員などへの説明を実施・同意を取得
- ・管理規定を定めている

②カメラタイプの見守り機器を導入していない

いずれかの選定条件に当てはまる施設に対してヒアリング調査の協力を依頼し、応諾が得られた 13 施設に対してヒアリング調査を行った。

図表 93 ヒアリング調査対象の抽出フロー



5.2. ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査結果概要

ヒアリングを実施した施設（13 施設）の属性は、以下のとおり。

図表 94 ヒアリング先一覧

	カメラタイプ	施設種別	カメラタイプ導入台数	定員
1	シルエット型	特別養護老人ホーム	7台	80名
2	シルエット型	特別養護老人ホーム	5台	60名
3	シルエット型	特別養護老人ホーム	30台	85名
4	シルエット型	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設	特養 30台 老健 20台	特養 30名 老健 70名
5	シルエット型	介護老人保健施設	12台	88名
6	シルエット型 通常映像型	特別養護老人ホーム	シルエット型 7台 通常映像型 10台	70名
7	通常映像型	特別養護老人ホーム	24台	78名
8	通常映像型	特別養護老人ホーム	63台	60名
9	通常映像型	認知症グループホーム	1台	18名
10	通常映像型	特定施設入居者生活介護 (養護老人ホーム)	10台	60名
11	—	介護老人保健施設	—	120名
12	—	介護老人保健施設	—	104名
13	—	特定施設入居者生活介護 (介護付き有料老人ホーム)	—	36名

(2) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査結果では、実感している導入効果、導入効果創出に向けた取組、適切な運用に向けた取組に関して、以下のような結果が得られた。

① 実感している導入効果

カメラタイプの見守り機器を導入している施設等において実感している導入効果は、以下のとおり。

図表 95 実感している導入効果

項目	内容
ケアプランの最適化	<ul style="list-style-type: none"> 寝ていると思っていた時間もテレビを見ている、裁縫をしている等の生活状況が分かり、利用者の困りごとについて、ケアマネや家族を交えて、今後のケアの方針を議論できるようになった(特養・通常映像型)
利用者の睡眠の質改善	<ul style="list-style-type: none"> 居室内の入居者を映像で確認し、優先度や必要度を確認し訪室判断することで、入居者の睡眠を妨げず、最適なケアをタイミングよく提供できるようになった(特養・通常映像型)
転倒・転落事故防止、早期発見	<ul style="list-style-type: none"> アラートが複数居室で同時に発報した際、どの入居者を優先すればよいか把握ができ、早期に適切な対応が行えるようになった(共通) 事故発生時も即座に駆けつけ、早期対応が行えるようになった(共通)
居室で発生した事故の検証	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生報告書を記載するにあたり、録画データを確認し、事故原因を詳細に分析することによって、類似事故の発生数が少なくなった(特養・シルエット型)
職員の負担軽減	<p>【肉体的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不要な訪室の削減により、夜勤時の間接業務が減り、休憩時間が増えた(特養・通常映像型) <p>【精神的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪室する前に居室の状態が分かるため、不安解消につながっている(特養・シルエット型)

② 導入効果創出に向けた取組

カメラタイプの見守り機器を導入している施設等において、導入効果創出に向けて取り組んでいることは、以下のとおり。

図表 96 導入効果創出に向けた取組

項目	内容
推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 多職種がメンバーとして参画している介護ロボット委員会を立ち上げ、カメラタイプの見守り機器の活用に向けた業務ルール策定等を検討している
多職種の視点での設置対象者選定	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション専門職による身体機能や転倒リスクの評価、看護師による医学的評価、介護職員による日常生活状況のアセスメントなどを基に、多職種の視点で、カメラタイプの見守り機器の設置が必要な入居者を選定した(老健施設・シルエット型)
業務オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器の発報後、訪室の優先順位の判断、緊急性の判断を行うよう職員教育を行い、周知徹底した(特養・通常映像型)
継続的なモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> カメラタイプ設置について、ケアプランに位置付けて定期的にモニタリングを行い、設置効果や設置の必要性を多職種で検討している(特養・シルエット型) カメラタイプを設置している入居者について月一回アセスメントを行い、設置効果や設置の必要性を検討している(特養・シルエット型)

③ 適切な運用に向けた取組

カメラタイプの見守り機器を導入している施設等において、カメラタイプの見守り機器を適切に運用するために実施している取組は、以下のとおり。

図表 97 適切な運用に向けた取組

項目	内容
利用者本人への説明と同意	<ul style="list-style-type: none"> • 認知機能低下のため理解が難しい場合であっても、説明を工夫しながら、利用者全員に対して説明を行っている(特養・通常映像型) • 本人から同意が得られてない場合は、その居室については設置を行っていない。ただし、転倒・転落等のリスクが高い、と多職種が判断した場合、家族との十分な相談の上、設置することもある(特養・通常映像型) • 日によって、カメラタイプの設置を嫌がる入居者がいる。その場合は、その日についてはカメラをオフにする対応をとることもある(特養・通常映像型) • カメラタイプ設置についてケアプランに位置付け、ケアプランの説明時にカメラタイプについても言及し、同意を得ている(特養・シルエット型)
職員、外部訪問者等への説明と同意	<ul style="list-style-type: none"> • 職員に対し、導入検討時に全体説明会を開き、導入目的・効果等を説明した(特養・シルエット型) • シルエットの場合、被写体を特定できない映像であるため、職員、外部訪問者等に対しては同意が不要であると認識している(特養・シルエット型) • 入居待機者家族等の施設見学者など居室を回る中で、案内する際に口頭で説明している(養護老人ホーム・通常映像型)
プライバシーに配慮した機器設定・運用	<ul style="list-style-type: none"> • 見守り機器の通知発報時、ナースコール時のみ映像を確認するというルールを設定し、職員間で徹底している。ただし、ルールの明文化はしていない(特養・シルエット型) • 排泄介助時やご家族が訪問している際は、カメラを見ないように、インカム等で職員間の情報共有を行っている。ただし、ルールの明文化はしていない(特養・通常映像型) • 居室の入り口にカメラ ON/OFF 一時停止のボタンを設置し、排泄介助や着替え介助等の際は一旦オフにするようルールを設定している(特養・通常映像型)

録画データの適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> 当施設でのカメラタイプ導入目的は訪室業務削減であるため、リアルタイムでの映像確認が重要。そのため、録画機能自体はあるが、カメラから SD カードを取り外し、敢えて録画機能は使っていない(グループホーム・通常映像型) 毎週行う事故対応委員会において継続して検討が必要な転倒事例の録画データは残し、それ以外の録画データは削除している(老健・シルエット型) 録画データのアクセス制限を設けており、アカウントを持っている役職者のみが閲覧できるようにしている(特養・シルエット型)
業務オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器の発報後、訪室の優先順位の判断、緊急性の判断を行うよう職員教育を行い、周知徹底した(特養・通常映像型)
継続的なモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> カメラタイプ設置についてケアプランに位置付けて、定期的にモニタリングを行い、設置効果や設置の必要性を多職種で検討している(特養・シルエット型) カメラタイプを設置している入居者について月一回アセスメントを行い、設置効果や設置の必要性を検討している(特養・シルエット型)

6. アンケート調査及びヒアリング調査結果を踏まえた示唆

アンケート調査及びヒアリング調査の結果を踏まえ、導入効果やその効果の創出に向けた取組及び適切な運用に向けた取組に関する示唆が得られた。

図表 98 アンケート調査及びヒアリング調査を踏まえた示唆

項目	内容
導入効果	<ul style="list-style-type: none">カメラタイプの見守り機器を用いることで、居室内の映像等によって状態把握を行うことができるそれによって、事故の検証や、転倒・転落事故の防止、職員負担の軽減、利用者の睡眠の質改善など、さまざまな効果が期待できる
効果創出に向けた取組	<ul style="list-style-type: none">導入後の効果創出には、下記のポイントを押さえる必要がある<ul style="list-style-type: none">✓ 機器導入・活用の推進体制の整備✓ 多職種の視点での設置対象者選定✓ 導入後の業務オペレーションの見直し✓ 継続的なモニタリング
適切な運用に向けた取組	<ul style="list-style-type: none">適切に運用していくためには、下記のポイントを押さえる必要がある<ul style="list-style-type: none">✓ 利用者本人への説明と同意✓ プライバシーに配慮した機器設定・運用✓ 録画データの適切な管理

7. 効果創出および適切な運用に向けたポイントの検討

アンケート調査及びヒアリング調査から得られた結果をもとに、導入効果、効果創出に向けた取組、及び適切な運用に向けた取組に関するポイントの検討を行った。

また、整理したポイントに基づき、「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けたポイント集」を作成した。

7.1. 効果的な活用に向けたポイント

アンケート調査及びヒアリング調査をもとに、検討委員会で協議を行い、カメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けたポイントを、下記の7点に整理した。

図表 99 カメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた7つのポイント

効果創出に向けたポイント	①機器導入・活用に向けた推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器導入・活用を推進するプロジェクトチームを整備し、管理者・現場双方が関与しながら効果創出に向けた取組を行う ・ 現場の介護職員に加え、多職種がメンバーとして参画し、施設一丸で導入と活用に取り組む
	②多職種の視点での設置対象者選定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の視点から高齢者のアセスメントを行い、カメラタイプの見守り機器の設置が必要な入居者を選定する ・ 介護職員、看護職員、機能訓練指導員、ケアマネジャー等の視点から幅広くアセスメントし、なぜその人に機器設置が必要なのか、検討する
	③導入後の業務オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器導入後、訪室業務など、関連するオペレーションの見直しを行う ・ 具体的には、業務運用・体制・人員配置の見直し、ルールや基準の変更・追加等が考えられる
	④継続的なモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の設置目的に応じた効果が発揮できているか、継続的にモニタリングを行う ・ 当初の機器設置の必要性は変わり得るため、必要に応じて取り外すことも検討する
適切な運用に向けたポイント	⑤高齢者本人への説明と同意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器設置にあたっては、本人の意思を尊重することが重要となる ・ 高齢者本人に対して、利用目的やデータ管理等について丁寧に説明し、同意を得る ・ 高齢者本人の意思は変わり得るため、説明・同意は1度きりではなく、必要に応じて繰り返し行う ・ 映像に映る可能性のある職員や外部訪問者等への説明や同意取得も行う
	⑥プライバシーに配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のプライバシーに配慮した機器運用の工夫を行う

した機器設定・運用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 撮影映像の画質調整や、不必要なタイミングでは撮影映像を見ない、といった工夫が考えられる
⑦録画データ安全管理義務の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・ 録画データは、個人情報保護法により、安全管理、目的外利用の制限、第三者提供の制限等が義務付けられるため、適切に管理する必要がある ・ データ管理に関する体制・ルールの整備や職員教育などに取り組む

7.2. 効果的な活用に向けた啓発のためのポイント集の作成

カメラタイプの見守り機器を導入したものの、効果が実感できていなかったり、個人情報の保護やプライバシーへの配慮等に悩んだりしている施設等に対して、カメラタイプの見守り機器の効果的な活用を促すことを目的に、「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けたポイント集」を作成した。

ポイント集は、カメラタイプの見守り機器において期待される効果、効果創出に向けたポイント、適切な運用に向けたポイント、そして高齢者本人への説明・同意項目例で構成されている。また、カメラタイプの見守り機器における導入効果や、効果的な活用に向けたポイントが読者に分かりやすく伝わるよう、ヒアリング調査結果等から得られた関連する事例を記載した。

図表 100 ポイント集の骨子と主な記載内容

骨子	主な記載内容
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポイント集作成の背景 ・ 本ポイント集の主な対象者
I. 本ポイント集の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数多くの種類がある見守り機器の中でも、効果が期待されつつも高齢者本人や職員等の個人情報の保護や、プライバシーへの配慮等が必要である「カメラタイプの見守り機器」を対象とすること ・ 本ポイント集の対象であるカメラタイプの見守り機器は、主に居室に設置されるものであり、共用部等に設置されることのある防犯カメラとは異なること
II. カメラタイプの見守り機器において期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメラタイプの見守り機器の効果的な活用により、高齢者の睡眠の質改善、事故の検証や、職員負担の軽減など、さまざまな効果が期待でき、高齢者の自立支援につながること ・ カメラタイプの見守り機器の導入効果に関するアンケート結果 ・ 居室で発生した事故の検証に生かしている事例 ・ 夜間の訪室が削減されたことにより、高齢者の睡眠の質が改善した事例

Ⅲ. 効果創出に向けた4つのポイント	①機器導入・活用に向けた推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会やプロジェクトチームの組成 ・ 現場と管理者双方の関与 ・ 機器の活用方法やルールへの周知 ・ 管理者・現場双方が関与しながら機器の効果創出を目指した事例
	②多職種の視点での設置対象者選定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の視点から高齢者のアセスメント ・ 多職種の視点でのアセスメントを通して機器を設置した事例
	③導入後の業務オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務運用・体制・人員配置の見直し ・ ルール・基準の変更、追加 ・ 導入後の業務オペレーションを見直し、導入効果を創出した事例
	④継続的なモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果検証 ・ 設置の必要性の継続的なモニタリング ・ 設置効果や設置の必要性を、継続的にモニタリングしている事例
Ⅳ.適切な運用に向けた3つのポイント	⑤高齢者本人への説明と同意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器設置にあたっては、高齢者本人の権利擁護(プライバシー権や個人情報保護)を踏まえ、高齢者本人の意思を尊重することが重要となる ・ 高齢者本人に対して、利用目的や録画データ管理等について丁寧に説明し、同意を得る ・ 高齢者本人の意思は変わり得るため、説明・同意は1度きりではなく、必要に応じて繰り返し行う ・ 映像に映る可能性のある職員や外部訪問者等への説明や同意取得も行う
	⑥プライバシーに配慮した機器設定・運用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者本人のプライバシー権を踏まえた機器運用の工夫を行う ・ 撮影映像の画質調整や、不必要なタイミングでは撮影映像を見ない、といった工夫が考えられる
	⑦録画データ安全管理義務の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器設置にあたっては、高齢者本人の権利擁護(プライバシー権や個人情報保護)を踏まえ、高齢者本人の意思を尊重することが重要となる ・ 高齢者本人に対して、利用目的や録画データ管理等について丁寧に説明し、同意を得る ・ 高齢者本人の意思は変わり得るため、説明・同意は1度きりではなく、必要に応じて繰り返し行う ・ 映像に映る可能性のある職員や外部訪問者等への説明や同意取得も行う
参考資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者本人への十分な説明・同意が必要となる項目(例)

8. 本調査のまとめ

8.1. 本調査の結論

本事業では、カメラタイプの見守り機器に関連する先行調査等の整理、カメラタイプの見守り機器メーカーに対するヒアリング、介護事業所向けアンケート調査及びヒアリング調査を行い、その結果を踏まえ、カメラタイプの見守り機器の効果的な利活用に関するポイントについて、検討委員会にて検討した。本事業の結論として、下記の4点が挙げられる。

① カメラタイプの見守り機器の導入実態

アンケート結果より、自治体の補助事業を活用して見守り機器を導入した介護施設等のうち、カメラタイプの見守り機器の導入割合は 3 割であり、うち半数強が「通常映像型」を導入し、半数弱が「シルエット型」を導入していたことが明らかとなった。また、現在カメラタイプの見守り機器を導入していない介護施設等のうち、今後の導入意向がある割合は、通常映像型が 2 割、シルエット型が 1 割であったことが明らかとなった。

調査結果を踏まえると、カメラタイプの見守り機器は、通常映像型、シルエット型問わず、介護施設等においてある程度導入が進んでおり、今後もさらに導入が進むと推察される。

② カメラタイプの見守り機器の導入効果

アンケート結果より、カメラタイプの見守り機器を導入した施設のうち、7 割以上の施設において、転倒・転落事故防止や早期発見、事故検証、夜間訪室の負担軽減、高齢者の睡眠の質改善に対して効果があったことが明らかとなった。また、ヒアリング結果より、機器導入による転倒転落事故数の減少、夜間訪室最適化により入居者の睡眠時間の向上等の効果が創出できている施設があることも分かった。

調査結果を踏まえると、カメラタイプの見守り機器は、事故防止・事故発見のみならず、高齢者本人に対する効果や、職員負担軽減に関する効果が期待できると推察される。

③ 効果創出に向けたポイント

アンケート及びヒアリング結果より、カメラタイプの見守り機器の導入効果を創出している施設の特徴として、施設長及び現場スタッフがメンバーとして参画した委員会を立ち上げている、多職種のアセスメント結果を踏まえてカメラタイプの設置対象者を選定している、活用に向けた業務ルールを策定し業務オペレーションを見直している、導入効果や設置の必要性を定期的に検証・モニタリングしている、という点が挙げられた。

調査結果を踏まえると、効果創出のためには、機器導入・活用に向けた推進体制の整備、多職種の視点での設置対象者選定、導入後の業務オペレーションの見直し、導入効果検証・モニタリングが必要となることが考えられる。

④ カメラタイプの見守り機器の導入実態

アンケート及びヒアリング結果より、カメラタイプの見守り機器の活用にあたり、高齢者本人等の権利擁護に配慮している施設の特徴として、高齢者本人に対して導入目的や効果等を丁寧に説明し同意を得ている、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないというルールを定めている、画質調整を行っている、録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している、という点が挙げられた。

調査結果を踏まえると、機器を適切に運用していくためには、高齢者本人への説明と同意、プライバシーに配慮した機器設定・運用、録画データの安全管理義務の遵守が必要になることが考えられる。

8.2. 今後の課題

本事業の成果を踏まえると、今後の検討課題として、カメラタイプの見守り機器活用における高齢者本人の意思決定支援、介護ロボット等から得られたデータ・情報の安全管理、個人情報保護・プライバシー権への配慮と生産性向上のバランスが取れた機器開発が挙げられる。

① カメラタイプの見守り機器活用における高齢者本人の意思決定支援

本事業において、カメラタイプの見守り機器の活用にあたり、高齢者本人に対して、利用目的や効果、データ管理方法等を説明し、納得してもらい、同意を得た上で機器を使用する必要があることが明らかとなった。また、高齢者本人の意思は変わり得るため、説明・同意は1度きりではなく、必要に応じて繰り返し行う必要があることも示唆された。説明・同意にあたっては、単なる書面上の説明・同意に終始することなく、高齢者本人の意思を反映していく必要がある。他方、アンケートやヒアリングにおいては、高齢者の意思決定が困難であるが、転倒リスク等が極めて大きい場合は、家族等との十分な議論の上、カメラタイプの見守り機器を活用している事業所もみられた。

今後、介護事業所側の負担に配慮しつつも、高齢者本人の意思に基づいてカメラタイプの見守り機器が活用されるよう、意思決定支援の取組を図っていく必要がある。

② 介護ロボット・ICT 等から得られたデータ・情報の安全管理

本事業において、録画データは、入居者の要配慮個人情報もしくは個人情報(個人データ)に該当し、職員、訪問者など映った人の個人情報に該当するため、個人情報保護法にしたがった安全管理措置を講じる必要があることが明らかになった。カメラタイプの見守り機器以外の介護ロボット・ICT から得られたデータ・情報についても、要配慮個人情報もしくは個人情報(個人データ)に該当する可能性がある。介護ロボット・ICT から得られたデータ・情報を蓄積・利活用することによって、ケアの質向上・生産性向上に資するような機器・ソフトウェア等の開発が進んでいる。

今後、介護ロボット・ICT から得られたデータ・情報の安全管理措置の実態調査や、介護現場において講じるべき安全管理措置の検討を行う必要がある。

③ 個人情報保護・プライバシー権への配慮と生産性向上のバランスが取れた見守り機器の開発

本事業において、カメラタイプの見守り機器は、転倒・転落事故防止や居室での事故検証等に対する効果が期待できつつも、高齢者本人等が映った画像を第三者が視聴可能であり、またデータ保存が可能であることから、個人情報の保護や、プライバシー権への配慮等が求められることが明らかになった。通常映像型のカメラタイプの見守り機器では、映像がクリアに見えることから、事故検証時に有用となることが想定されるが、運用にあたっては個人情報の保護や、プライバシー権への配慮等に特に留意する必要がある。シルエット型のカメラタイプの見守り機器については、表情等は見えないことから、プライバシー権等に対して一定程度配慮がなされていると考えられるが、運用にあたっての留意点は通常映像型と同様である。このように、高齢者本人の見守りに関して、プライバシー権への配慮等と生産性向上等のバランスが求められることから、高齢者本人等が映った画像を出力せずとも、ミリ波レー

ダー等により室内状況を把握し、画像ではなくアイコンで知らせるような機能を持つ見守り機器の開発が進んでいる。

今後、ケアの質向上・生産性向上に関する観点と、個人情報保護・プライバシー権への配慮に関する観点の双方のバランスが取れた見守り機器の開発を促進していく必要がある。そのほか、カメラタイプの見守り機器は活用すべきテクノロジーの1つであり、将来的には、その機器から得られる情報と他の介護データを統合すること等も視野に入れつつ、介護現場のケアの質向上を目指した情報集約・AIを含む解析等について、引き続き研究・開発を進めていくことの必要性も指摘された。

9. 参考資料(アンケート調査票・ヒアリング調査票)

① アンケート調査票

令和4年度老健事業 介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業		
この調査票は、貴施設・事業所において見守り機器の導入を中心的に進めた職員の方がご回答ください。 なお、本アンケートにおいて、「撮影映像」とは、カメラタイプの見守り機器で撮影されたリアルタイムの映像、「録画データ」とは、撮影映像が録画されたデータを指します。		
大問	設問番号 枝問番号 設問	回答形式
1	基本情報	
1-1	回答者の役職を回答してください 1. 法人理事長・理事 2. 施設長等の管理者クラス 3. 介護リーダー等のリーダークラス 4. 一般の介護職員 5. 看護職員 6. ITに関する専門職 7. その他専門職（具体的な職種： ） 8. 事務職 9. その他（ ）	SA
1-2	施設・事業所種別を回答してください 1. 介護老人福祉施設 2. 地域密着型介護老人福祉施設 3. 介護老人保健施設 4. 介護医療院 5. 介護療養型医療施設 6. 短期入所生活介護 7. 短期入所療養介護 8. 特定施設入居者生活介護 9. 地域密着型特定施設入居者生活介護 10. 認知症対応型共同生活介護 11. その他（ ）	SA
前問で1～7を選択した場合に回答		
1-2-1	居室タイプを選択してください。 1. 個室 2. 多床室	SA
1-3	利用定員、及び平均介護度（小数点第1位まで）を回答してください（2022年10月1日時点） 定員数 （ ）人 平均介護度 （ ）	NA
1-4	介護職員の職員数（兼務者等を含む）を回答してください（2022年10月1日時点） 【常勤換算】 1. 10人未満 2. 10人以上20人未満 3. 20人以上30人未満 4. 30人以上40人未満 5. 40人以上 【実人数】 1. 10人未満 2. 10人以上20人未満 3. 20人以上30人未満 4. 30人以上40人未満 5. 40人以上	SA
1-5	施設の開設年を回答してください。 ※建て替えを行っていた場合、新たな建物で運営を開始した時期を選択してください 1. 1989年以前 2. 1990～1999年 3. 2000～2009年 4. 2010～2019年 5. 2020年以降	SA
1-6	貴施設・事業所の運営形態を回答してください。 1. 施設単独の運営（1つの法人で1つの施設を運営している場合） 2. 複数事業所のグループ経営（1つの法人で複数事業所を運営している場合、または事業を運営するうえで密接に関連する法人が複数存在する場合） 3. わからない	SA
1-7	利用者の見守りにあたり、貴施設の利用者の状態に関する課題を回答してください。 1. 転倒リスクの高い利用者が多い 2. ベッドからの転落リスクの高い利用者が多い 3. 夜間に徘徊する利用者が多い 4. 認知症の行動・心理症状（幻覚・妄想など）を有する利用者が多い 5. 夜間にオムツ外しをする利用者が多い 6. 睡眠不良（昼夜逆転など）の利用者が多い 7. 夜間に、排泄等のため覚醒する利用者が多い 8. その他（ ） 9. 利用者の状態による課題は特になし	MA

1-8	<p>利用者の見守りにあたり、貴施設の施設構造に関連する課題を回答してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居室のあるフロアが広く、端の居室へ訪室するのに時間がかかる 2. スタッフルーム等、職員の待機している場所から離れた居室があり、その居室へ訪室するのに時間がかかる 3. 居室が複数棟に分かれており、各棟の職員間の連携が難しい 4. 居室が複数階に分かれており、各階の職員間の連携が難しい 5. その他 () 6. 施設構造の課題は特になし 	MA
1-9	<p>貴施設の居室において、カメラタイプの見守り機器※を導入していますか。 (本調査では、以降、居室に機器を設置していることを念頭に置いた設問とします)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入している 2. 導入していない 	SA

※カメラタイプの見守り機器とは、居室等に設置したカメラや赤外線センサーで利用者等の状況を撮影し、PC・スマホ等で撮影映像や録画データを確認できるような機器を指します。
【機器本体イメージ】



前問で1を選択した場合に回答

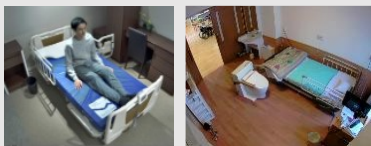
1-9-1	<p>貴施設の共用スペースにおいて、カメラタイプの見守り機器を設置していますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設置している 2. 設置していない 	SA
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

以下、1-9で「1. 導入している」を選択した場合に回答

2 カメラタイプの見守り機器の導入状況

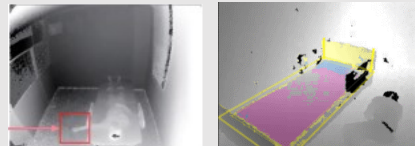
カメラタイプの見守り機器として、(A) 通常映像型の見守り機器と、(B) シルエット型の見守り機器があります。

【(A) 通常映像型の見守り機器の撮影映像イメージ】



- (A) 通常映像型の見守り機器に該当する主な機器
- ・眠りSCAN eye (パラマウントベッド株式会社)
 - ・aams (株式会社パイオシルバー)
 - ・LIFELENS (パナソニックホールディングス株式会社)
 - ・ライブリズムナビ+Dr. (エコナピスタ株式会社)
 - ・ココヘルバVP/Vcam (シーコム株式会社)
 - ・Vi-nurse (アイホン株式会社)
 - ・見守りAIカメラシステム (株式会社ケアコム)

【(B) シルエット型の見守り機器の撮影映像イメージ】



- (B) シルエット型の見守り機器に該当する主な機器
- ・シルエット見守りセンサ (キング通信工業株式会社)
 - ・Neos+Care (ノースプレジジョン株式会社)
 - ・A.I.Viewlife (エイアイビューライフ株式会社)
 - ・HitomeQ (コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社)

2-1	<p>導入しているカメラタイプの見守り機器のタイプと、その台数を回答してください。 ※複数機種活用している場合は、最も活用している機種について回答下さい。(以降の間も同様)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通常映像型のカメラタイプの見守り機器 … () 台 2. シルエット型のカメラタイプの見守り機器 … () 台 3. その他 () … () 台 4. わからない 	MAおよびNA
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------

前問で1～3を選択した場合に回答

2-1-1	<p>導入しているカメラタイプの見守り機器の利用頻度について回答してください。</p>	SA
-------	---------------------------------------------	----

	多くの職員が日常的に活用している	一部の職員が日常的に活用している	ほとんど活用していない	導入していない	わからない
1. 通常映像型のカメラタイプの見守り機器	a	b	c	d	e
2. シルエット型のカメラタイプの見守り機器	a	b	c	d	e
3. その他(2-1で回答したカメラタイプの見守り機器について)	a	b	c	d	e

2-1で2または3を選択した場合に回答

2-1-2	<p>カメラタイプの見守り機器を選定するにあたり、通常映像型のカメラタイプの見守り機器を候補として検討しましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある 2. 導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない 3. 通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない 4. 通常映像型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった 5. その他 () 6. わからない 	SA
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

2-1で1または3を選択した場合に回答

2-1-3	<p>カメラタイプの見守り機器を選定するにあたり、シルエット型のカメラタイプの見守り機器も導入候補として検討しましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある 2. 導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない 3. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない 4. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった 5. その他 () 6. わからない 	SA
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

2-2	カメラタイプの見守り機器の導入検討に関わった職員として、あてはまるものを選択してください。 また、カメラタイプの見守り機器の導入・活用の検討を進める上での主たる責任者及び決定者をそれぞれ1つ番号で回答してください	MA
	1. 法人理事長・理事 2. 施設長等の管理者クラス 3. 介護リーダー等のリーダークラス 4. 一般の介護職員 5. 看護職員 6. ITに関する専門職 7. その他専門職（具体的な職種：) 8. 事務職 9. その他 ()	
	主たる責任者 ()	SA
	※カメラタイプの見守り機器の導入検討に関する実質的な検討内容の取りまとめをされる方を指します。	
	決定者 ()	SA
	※最終決定は理事会・評議会もしくは経営会議等の会議体で諮ることを想定していますが、会議体での審議内容を取りまとめをされる方を指します。	
2-3	カメラタイプの見守り機器導入にあたり、活用した補助金について回答してください。	MA
	1. 介護ロボット導入支援事業（地域医療介護総合確保基金） 2. 都道府県独自の補助事業 3. 市区町村独自の補助事業 4. その他 () 5. 補助金は利用していない 6. わからない	
2-4	カメラタイプの見守り機器以外に導入している見守り機器と、その台数を回答してください。	MAおよびNA
	1. ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー … () 台 2. 床やマットレス等に敷くタイプの離床センサー … () 台 3. 起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド … () 台 4. その他 () … () 台 5. カメラタイプ以外の見守り機器を導入していない 6. わからない	

前問で1～4を選択した場合に回答

2-4-1 カメラタイプの見守り機器以外に導入している見守り機器の利用頻度について回答してください。 SA

	多くの職員が日常的に活用している	一部の職員が日常的に活用している	ほとんど活用していない	わからない
1. ベッドに敷くタイプのシート型見守りセンサー	a	b	c	d
2. 床やマットレス等に敷くタイプの離床センサー	a	b	c	d
3. 起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド	a	b	c	d
4. その他（2-4で回答した見守り機器について）	a	b	c	d

3 機器導入・活用にあつての運用ルールや職員教育体制

3-1	カメラタイプの見守り機器の導入・使用にあたり、利用者本人への説明事項・同意取得事項についてそれぞれ回答してください。	MA																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用者本人への説明事項</th> <th>利用者本人への同意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>2. カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>3. 家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>4. 撮影映像を施設職員が確認すること</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>5. 撮影した映像を録画データとして保存すること</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>6. 録画データの保管方法や保管期間</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>7. 録画データの閲覧可能者の範囲</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>8. 録画データの目的外利用にあつてのルール・手続き</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>9. 録画データの第三者提供にあつてのルール・手続き</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>10. その他① ()</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>11. その他② ()</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>12. その他③ ()</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>		利用者本人への説明事項	利用者本人への同意事項	1. カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2. カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3. 家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4. 撮影映像を施設職員が確認すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5. 撮影した映像を録画データとして保存すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6. 録画データの保管方法や保管期間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	7. 録画データの閲覧可能者の範囲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8. 録画データの目的外利用にあつてのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	9. 録画データの第三者提供にあつてのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	10. その他① ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	11. その他② ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12. その他③ ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	利用者本人への説明事項	利用者本人への同意事項																																							
1. カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
2. カメラタイプの見守り機器により、利用者本人の様子を撮影すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
3. 家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
4. 撮影映像を施設職員が確認すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
5. 撮影した映像を録画データとして保存すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
6. 録画データの保管方法や保管期間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
7. 録画データの閲覧可能者の範囲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
8. 録画データの目的外利用にあつてのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
9. 録画データの第三者提供にあつてのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
10. その他① ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
11. その他② ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
12. その他③ ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																							
3-2	利用者本人への同意取得の方法について回答してください。	MA																																							
	1. 書面で同意取得を行っている 2. 入所時の個人情報取り扱い等への同意書にて代行している 3. 口頭で説明・同意取得している 4. 上記のいずれも当てはまらない 5. その他 () 6. わからない																																								
3-3	利用者本人への同意取得のタイミングについて回答してください。	MA																																							
	1. 入所時に同意を取得している 2. カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している 3. 初回の同意取得後も、定期的に活用継続の同意を取得している 4. 上記のいずれも当てはまらない 5. その他 () 6. わからない																																								
3-4	カメラタイプの見守り機器の導入・使用にあたり、利用者本人から同意を得られない場合、どのような対応を行っていますか。	MA																																							
	1. 家族・成年後見人等が施設を訪問した際に、家族・成年後見人等から同意を取得している 2. 家族・成年後見人等に対し、説明書・同意書を送付（郵送・FAX・メール等）し、同意書を返送してもらっている 3. 家族・成年後見人等に対し、電話等で口頭説明し、同意を取得している 4. 利用者本人から同意を得られない場合は、カメラタイプの見守り機器の設置を行っていない 5. 上記のいずれも当てはまらない 6. その他 () 7. わからない																																								

3-5 カメラタイプの見守り機器の導入・使用にあたり、職員への説明事項・同意取得事項についてそれぞれ回答してください。 MA

	職員への説明事項	職員への同意事項
1. カメラタイプの見守り機器による撮影・録画の目的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 職員本人が撮影映像に映り込む可能性があること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 撮影した映像を施設職員が確認すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 撮影した映像を録画データとして保存すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 録画データの保管方法や保管期間	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 録画データの閲覧可能者の範囲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3-6 職員への同意取得の方法について回答してください。 MA

1. 書面で同意取得を行っている
2. 職員毎に個別説明を行っている
3. 職員に対して全体説明会を実施している
4. 上記のいずれも当てはまらない
5. その他 ()
6. わからない

3-7 職員への同意取得のタイミングについて回答してください。 MA

1. 入職時に同意を取得している
2. カメラタイプの見守り機器の設置時に同意を取得している
3. 初回の同意取得後も、定期的に活用継続の同意を取得している
4. 上記のいずれも当てはまらない
5. その他 ()
6. わからない

3-8 カメラタイプの見守り機器を使用していることに関して、外部からの訪問者（利用者家族、医師や訪問看護師等）に対してどのように周知していますか。 MA

1. 施設・事業所の入口等に、カメラタイプの見守り機器の使用に関する掲示を行っている
2. 施設ウェブサイト、カメラタイプの見守り機器の使用に関する説明を掲載している
3. 訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について説明を行っている
4. 訪問者記録を取る際に、カメラタイプの見守り機器の使用について同意を取得している
5. 上記のいずれも当てはまらない
6. その他 ()
7. わからない

3-9 カメラタイプの見守り機器の運用に関して、どのようなルールを定めていますか。 MA

1. 利用者の表情等がウリアに見えないよう、撮影映像の画質を調整している（モザイク処理等）
2. 通知があったタイミングのみ撮影映像を見ることがし、不必要なタイミングでは撮影映像を見ないようにしている
3. 家族や外部からの訪問者が訪室する際はカメラをオフにしている
4. 排泄介助を行う際はカメラをオフにしている
5. 更衣介助を行う際はカメラをオフにしている
6. 清拭介助を行う際はカメラをオフにしている
7. その他 ()
8. 特に運用に関するルールは定めていない
9. わからない

3-10 カメラタイプの見守り機器の使用にあたり、録画データの取扱いに関してどのようなルールを定めていますか。 MA

1. 録画データを一定期間後に破棄している
2. 録画データをクラウドに保管している
3. 録画データを保管している施設内のストレージにウイルス対策をしている
4. 録画データにパスワードを設定している
5. 録画データの施設外への持ち出しに申請・承認が必要としている
6. 録画データの管理責任者を置いている
7. 録画データを閲覧できる職員の範囲を限定している
8. 録画データの目的外利用を制限している
9. 録画データの第三者提供の手続きを明確化している
10. その他 ()
11. 特に録画データの取扱いに関するルールは定めていない
12. わからない

3-10で「1～10」を選択した場合に回答

3-10-1 録画データの取扱いについて定めているルールは、書面化されていますか。 MA

1. 見守り機器に関する取扱規程を作成、整備している
2. 個人情報取扱い規程の個人情報に、録画データ等を含める旨を規定している
3. 見守り機器に関する機器運用や録画データ等の管理のルールについて、マニュアルを作成している
4. その他 ()
5. ルールを書面化していない

3-10で1を選択した場合に回答

3-10-2 録画データの保管期間について回答してください。 SA

1. 1日～1週間程度
2. 1か月程度
3. 3か月程度
4. 半年程度
5. 1年程度
6. 2年以上
7. わからない

3-11 その他、カメラタイプの見守り機器の導入・活用にあたって配慮した点があれば回答してください。（自由記述） FA

()

3-12	カメラタイプの見守り機器の使用法や効果的な運用に関して、どのような教育・研修体制をとっていますか。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設内研修を開催している 2. メーカー主催の説明会や研修に参加している 3. 使用法や効果的な運用に関して、指針・マニュアル等に明記している 4. 使用法や効果的な運用に関する委員会やプロジェクトチームを立ち上げた 5. 既存の委員会やプロジェクトチームを活用して、使用法や効果的な運用に関して議論している 6. その他 () 7. 特に教育や研修は行っていない 8. わからない 	

前問で1～2を選択した場合に回答

3-12-1	カメラタイプの見守り機器の使用法や効果的な運用に関する研修について、研修内容に含まれるものを回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. カメラタイプの見守り機器の使用法 2. カメラタイプの見守り機器の導入効果やメリット 3. カメラタイプの見守り機器を活用した業務ルール 4. プライバシーや個人情報に関する権利擁護 5. 録画データの取り扱いにあたってのルール 6. その他 () 7. わからない 	

機器選定プロセス

4-1	カメラタイプの見守り機器を導入したきっかけについて回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長等、法人幹部からの提案 2. 施設長・管理者等、管理職からの提案 3. 介護職等、現場職員からの提案 4. 導入に対する自治体等からの助成・補助 5. 機器メーカーからの営業・提案 6. 展示会等での機器メーカーからの説明 7. 他の施設・事業所からの推薦・口コミ 8. 利用者本人からの要望 9. 利用者の家族からの要望 10. その他 () 11. わからない 	
4-2	カメラタイプの見守り機器を導入した目的について回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため 2. 夜間の訪室業務の負担を軽減するため 3. 夜間の人員配置を削減するため 4. 転倒・転落事故の防止や早期発見のため 5. 居室で発生した事故の検証を行うため 6. 録画データ確認によるケア改善に活用するため 7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため 8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）を防止するため 9. 職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため 10. その他 () 11. わからない 	
4-3	カメラタイプの見守り機器の選定にあたり、導入前にデモ機を借りて試用しましたか。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ 	

前問で「1.はい」を選択した場合に回答

4-3-1	借りたカメラタイプの見守り機器のデモ機の台数を回答してください。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1台 2. 2～5台 3. 6～9台 4. 10台以上 5. わからない 	
4-3-2	カメラタイプの見守り機器のデモ機を借りた期間を回答してください。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1日 2. 2～6日間 3. 7日～13日間 4. 2週間以上1カ月未満 5. 1ヶ月以上 6. わからない 	
4-3-3	カメラタイプの見守り機器のデモ機の試用期間中に、確認したポイントを教えてください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 撮影映像の画質の調整具合 2. 撮影映像の画質の鮮明度 3. 撮影のタイミング 4. 録画データの管理 5. 起き上がりや離床の検知精度 6. ネットワーク接続の安定性 7. 施設で導入している他の機器との連携 8. 転倒・転落事故の防止や早期発見の実現具合 9. 夜間業務における職員負担の軽減具合 10. カメラタイプの見守り機器に対する利用者の反応 11. カメラタイプの見守り機器に対する家族の反応 12. カメラタイプの見守り機器に対する職員の反応 13. その他 () 14. 特に確認したポイントはない 15. わからない 	

4-4	最終的に導入したカメラタイプの見守り機器について、導入の決め手となった事項を教えてください。	MA
	<p><撮影映像や録画について></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 撮影映像の画質を調整できる、またはモザイク画像やシルエット画像等にできるため 2. 撮影映像がクリアであるため 3. 撮影映像を録画できるため 4. 録画のタイミングが起き上がりや離床、立ち上がり時のみであるため 5. 録画データがセキュリティに配慮されているため <p><他施設や職員の反応について></p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 他の施設からの評判が高かったため 7. 他の施設が導入しているため 8. 職員からの反応が最も良かったため 9. 操作が簡便で使いやすいため <p><他機器連携について></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 施設で導入している他の見守り機器と連携できるため 11. 施設で導入している介護記録ソフトと連携できるため 12. 施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できるため 13. 施設で導入しているナースコールやインカムと連携できるため <p><メーカーについて></p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 導入費用が安価であるため 15. 補助金の対象機器であったため 16. 機器や機器メーカーにブランド力があるため 17. メーカーによる導入後サポートが充実しているため <p><その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 18. その他 () 19. わからない 	

導入効果や導入後の課題

5-1	カメラタイプの見守り機器導入後、どのような業務変更を行いましたか。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間の定期巡回を廃止した 2. 夜間の定期巡回の回数・頻度を減らした 3. ナースコール・通知が鳴ったあと、すぐ訪室するのではなく、まずは撮影映像を確認することにした 4. 転倒・転落リスクの高い利用者に対しては、必要に応じて撮影映像を確認することにした 5. 録画データを確認し、ケア改善のPDCAを回している 6. 録画データを確認し、職員間でのケアの教育・指導・振り返りを行っている 7. 転倒・転落事故があった場合に、事故状況の確認や検証を目的として、録画データを確認することにした 8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）の申し出があった場合に、録画データを確認することにした 9. 利用者から職員に対するハラスメントの申し出があった場合に、録画データを確認することにした 10. その他 () 11. 特に業務オペレーションは変更していない 12. わからない 	

5-2	カメラタイプの見守り機器導入により効果を感じられた内容について、5段階で回答してください。	SA																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>非常に効果がある</th> <th>やや効果がある</th> <th>どちらでもない</th> <th>あまり効果がない</th> <th>ほとんど効果がない</th> <th>わからない</th> <th>回答の根拠 (自由回答)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 転倒・転落事故の防止や早期発見</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 居室で発生した事故の検証</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 夜間の訪室業務の負担軽減</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 夜間の人員配置の削減</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 録画データ確認によるケア改善</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返り</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）の防止</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 利用者から職員に対するハラスメントの防止</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>e</td> <td>f</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		非常に効果がある	やや効果がある	どちらでもない	あまり効果がない	ほとんど効果がない	わからない	回答の根拠 (自由回答)	1. 転倒・転落事故の防止や早期発見	a	b	c	d	e	f		2. 居室で発生した事故の検証	a	b	c	d	e	f		3. 夜間の訪室業務の負担軽減	a	b	c	d	e	f		4. 不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善	a	b	c	d	e	f		5. 夜間の人員配置の削減	a	b	c	d	e	f		6. 録画データ確認によるケア改善	a	b	c	d	e	f		7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返り	a	b	c	d	e	f		8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）の防止	a	b	c	d	e	f		9. 利用者から職員に対するハラスメントの防止	a	b	c	d	e	f		
	非常に効果がある	やや効果がある	どちらでもない	あまり効果がない	ほとんど効果がない	わからない	回答の根拠 (自由回答)																																																																											
1. 転倒・転落事故の防止や早期発見	a	b	c	d	e	f																																																																												
2. 居室で発生した事故の検証	a	b	c	d	e	f																																																																												
3. 夜間の訪室業務の負担軽減	a	b	c	d	e	f																																																																												
4. 不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善	a	b	c	d	e	f																																																																												
5. 夜間の人員配置の削減	a	b	c	d	e	f																																																																												
6. 録画データ確認によるケア改善	a	b	c	d	e	f																																																																												
7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返り	a	b	c	d	e	f																																																																												
8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）の防止	a	b	c	d	e	f																																																																												
9. 利用者から職員に対するハラスメントの防止	a	b	c	d	e	f																																																																												

5-3	カメラタイプの見守り機器導入後に感じた課題について回答してください。	MA
	<p><プライバシーについて></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のプライバシーに対する懸念を示す利用者がみられる 2. 利用者のプライバシーに対する懸念を示す家族がみられる 3. 利用者のプライバシーに対する懸念を示す職員がみられる 4. 運用に当たり、プライバシーへの配慮が困難な場面がみられる 5. 自身の業務が撮影されていることに心理的負担を感じる職員がみられる 6. プライバシーや個人情報に関する権利擁護について、職員が無関心になっている <p><導入効果について></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 導入前の想定よりも、不必要な訪室の削減による利用者の睡眠の質改善ができていない 8. 導入前の想定よりも、転倒・転落事故の防止や早期発見ができていない 9. 導入前の想定よりも、夜間の訪室業務の負担が軽減していない 10. 導入前の想定よりも、利用者に対する虐待（不適切ケア含む）を防止できていない 11. 導入前の想定よりも、職員に対する利用者等からのハラスメントを防止できていない <p><使い方・その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 機器の設定が複雑で使いこなせない 13. 機器の活用方法を把握できていない職員がみられる 14. 導入により、職員負担が増えている 15. ランニングコストがかかる 16. その他 () 17. 特に課題はない 18. わからない 	

5-4	カメラタイプの見守り機器の使用に関する、利用者本人からの反応について回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 2. unnecessary 入室の削減による利用者の睡眠の質改善という観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 3. 居室で発生した事故の検証の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 4. 録画データを活用したケア改善の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 5. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）防止の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 6. 職員の負担軽減の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な利用者が多い 7. 自身のプライバシーに関して懸念を示す利用者が多い 8. その他（ ） 9. 利用者からの反応は特いない 10. わからない 	
5-5	カメラタイプの見守り機器の使用に関する、家族からの反応について回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 転倒・転落防止・早期発見の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 2. unnecessary 入室の削減による利用者の睡眠の質改善という観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 3. 居室で発生した事故の検証の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 4. 録画データを活用したケア改善の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 5. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）防止の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 6. 職員の負担軽減の観点から、カメラタイプの見守り機器の使用に肯定的な家族が多い 7. 利用者のプライバシーに関して懸念を示す家族が多い 8. その他（ ） 9. 家族からの反応は特いない 10. わからない 	

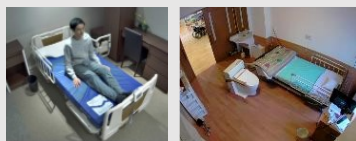
以下、1-9で居室に「導入していない」を選択した場合に回答

カメラタイプの見守り機器を導入しない理由

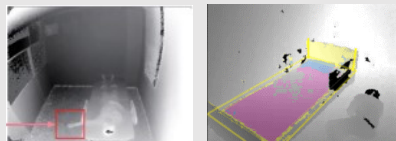
6-1	導入している見守り機器を回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベッドに敷くタイプのシート型見守り機器 2. 床やマットレス等に敷くタイプ等の離床センサー 3. 起き上がりや離床が検知できるセンサーが内蔵されたベッド 4. その他（ ） 5. 導入していない 6. わからない 	

カメラタイプの見守り機器として、(A) 通常映像型の見守り機器と、(B) シルエット型の見守り機器があります。

【(A) 通常映像型の見守り機器の撮影映像イメージ】



【(B) シルエット型の見守り機器の撮影映像イメージ】



6-2	(A) 通常映像型の見守り機器について、導入を検討したことがありますか。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入を検討し、今後、導入予定がある 2. 導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある 3. 導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない 4. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない 5. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった 6. その他（ ） 	

6-2で「1」を回答した場合に回答

6-2-1	(A) 通常映像型の見守り機器の導入目的について回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間の unnecessary 入室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため 2. 夜間の入室業務の負担を軽減するため 3. 夜間の人員配置を削減するため 4. 転倒・転落事故の防止や早期発見のため 5. 居室で発生した事故の検証を行うため 6. 録画データ確認によるケア改善に活用するため 7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため 8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）を防止するため 9. 職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため 10. その他（ ） 11. わからない 	

6-2で2~4、6を選択した場合に回答

6-2-2	(A) 通常映像型の見守り機器を導入しなかった理由について回答してください。	MA
	<p><プライバシー・心理的負担></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のプライバシーの観点で懸念があるため 2. 職員の心理的負担となる可能性があるため <p><利用者本人・家族・職員等の意向></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 利用対象としていた利用者が拒否したため 4. 利用対象としていた利用者の家族が拒否したため 5. 職員が導入を拒否したため 6. 法人・施設の方針としてカメラタイプの見守り機器を導入しない意向であるため <p><導入効果></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. カメラタイプの見守り機器以外の機器で、夜間の入室回数削減効果を得ることができているため 8. カメラタイプの見守り機器以外の機器で、転倒・転落事故の防止や早期発見ができているため 9. 利用者の状況把握を映像に頼った結果、ケアマネジメントが疎かになる可能性があるため <p><機器連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 施設で導入している他の見守り機器と連携できないため 11. 施設で導入している介護記録ソフトと連携できないため 12. 施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できないため 13. 施設で導入しているナースコールと連携できないため 14. 施設で導入しているインカムと連携できないため <p><価格・サポート・その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 導入費用が高価であるため 16. 導入後のサポートが不十分であるため 17. その他（ ） 18. わからない 	

6-2-3	今後、(A) 通常映像型の見守り機器を導入する意向はありますか。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない 3. わからない 	
6-4	(B) シルエット型の見守り機器について、導入を検討したことがありますか。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入を検討し、今後、導入予定がある 2. 導入を検討し、実際にデモ機を借りて試用したことがある 3. 導入を検討したが、実際にデモ機を借りたことはない 4. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知っていたが、導入を検討したことはない 5. シルエット型のカメラタイプの見守り機器について知らなかった 6. その他 () 	
6-4で「1」を選択した場合に回答		
6-4-1	(B) シルエット型の見守り機器の導入目的について回答してください。	MA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間の不必要な訪室を削減することにより、利用者の睡眠を妨げないようにするため 2. 夜間の訪室業務の負担を軽減するため 3. 夜間の人員配置を削減するため 4. 転倒・転落事故の防止や早期発見のため 5. 居室で発生した事故の検証を行うため 6. 録画データ確認によるケア改善に活用するため 7. 職員間でのケアの教育・指導・振り返りに活用するため 8. 利用者に対する虐待（不適切ケア含む）を防止するため 9. 職員に対する利用者等からのハラスメントを防止するため 10. その他 () 11. わからない 	
6-4で2～4、6を選択した場合に回答		
6-4-2	(B) シルエット型の見守り機器を導入しなかった理由について回答してください。	MA
	<p><プライバシー・心理的負担></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のプライバシーの観点で懸念があるため 2. 職員の心理的負担となる可能性があるため <p><利用者本人・家族・職員等の意向></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 利用対象としていた利用者が拒否したため 4. 利用対象としていた利用者の家族が拒否したため 5. 職員が導入を拒否したため 6. 法人・施設の方針としてカメラタイプの見守り機器を導入しない意向であるため <p><導入効果></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. カメラタイプの見守り機器以外の機器で、夜間の訪室回数削減効果を得ることができているため 8. カメラタイプの見守り機器以外の機器で、転倒・転落事故の防止や早期発見ができているため 9. 利用者の状況把握を映像に頼った結果、ケアマネジメントが疎かになる可能性があるため <p><機器連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 施設で導入している他の見守り機器と連携できないため 11. 施設で導入している介護記録ソフトと連携できないため 12. 施設で導入しているスマートフォンやタブレットと連携できないため 13. 施設で導入しているナースコールと連携できないため 14. 施設で導入しているインカムと連携できないため <p><価格・サポート・その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 導入費用が高価であるため 16. 導入後のサポートが不十分であるため 17. その他 () 18. わからない 	
6-4-3	今後、(B) シルエット型の見守り機器を導入する意向はありますか。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない 3. わからない 	
7 ヒアリング調査への協力意向		
7-1	本アンケート調査に関するヒアリング調査に係るご協力のご意向をお聞かせください。ヒアリング調査は、11月～12月ごろに、オンラインで1時間程度を想定しております。	SA
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒアリング調査に協力してもよい 2. 詳細を聞いた上で協力できるか判断する 3. ヒアリング調査には協力しない 	
7-2	ヒアリング調査にご協力いただける場合、施設名と電話番号をご記入ください。	FA
	施設名 () 電話番号 ()	

② メーカー向けプレヒアリング ヒアリング調査票

厚生労働省 令和4年度老人保健健康増進等事業
介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業
ヒアリングシート

株式会社日本総合研究所では、厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業の採択を受け、「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業」を実施しております。

本事業は、介護施設等に導入されているカメラタイプの見守り機器について、活用状況や導入手順のほか、設置・運用の際のプライバシーへの配慮等の実態を把握し、機器の効果的かつ適切な活用方法や導入時の留意事項等を整理することを目的としています。

上記の整理にあたり、カメラタイプの見守り機器を設計・開発しているメーカーの皆様を対象に、機器の仕様や特徴、導入時/導入後のフォローアップ等を教えていただくためのヒアリングを実施させていただきたく存じます。

ご多用のところ恐れ入りますが、何卒ご協力の程宜しくお願い致します。

【ヒアリング項目】

1. 貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）について

(1) 貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）の仕様や特徴について

貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）はどのような特徴をお持ちでしょうか。特にプライバシーへの配慮等に対して、工夫している点等がございましたら、お聞かせください。

- 検知・報知機能について
：撮影タイミング（常時撮影/起き上がり・臥床・転倒起点等）、検知方法 等
- 映像機能について
：映像のタイプ（通常動画/赤外線動画、画質鮮明度合い等）、
撮影可能範囲（居室全体/ベッド上のみ等）、録画機能 等
- 動画データの管理について
：保管期間（手動削除/自動削除等）、保管方法（SD、HD、クラウド等）、
閲覧制限（アカウント制限/外部への提供制限）

(2) 貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）の導入時・導入後の対応について

貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）を介護施設へ導入する場合、導入時に対応している事項や導入後のサポート体制を教えてください。特にプライバシーへの配慮等に対して、工夫している点等がございましたら、お聞かせください。

- 導入時に対応している事項
：入居者/家族に対する同意取得においてサポートしている事項（同意書ひな形の提示等）、
使用方法に関する研修・説明会等の実施 等
- 導入後のサポート体制
：保証期間、保守内容・範囲、保守頻度、保守サポート体制（専門部署設置等） 等

(続き)

(1) 導入効果について

貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）を介護施設へ導入した場合、期待される導入効果（転倒防止、訪室回数
の削減、事故検証、職員の虐待防止 等）を教えてください。

1. 導入済みの施設の特徴について

これまで貴社の製品（カメラタイプの見守り機器）を導入した介護施設は、どのような特徴をお持ちでしょうか。また、特に
プライバシーへの配慮等に対して、施設側の認識・方針や対応状況をお聞かせください。

- 導入している施設の特徴
 - ：施設種別（特養・老健・GH 等）、定員、エリア、主要担当者（理事長、介護主任、ICT 担当等）等
- 施設の抱える課題・導入方針
 - ：施設の抱える課題（夜勤職員不足、職員の業務負担等）、重視した仕様、
導入台数（定員に占める割合） 等
- プライバシーへの配慮等に対する施設側のお考え・対応
 - ：プライバシー配慮に対するお考え（常時撮影型の導入希望有無等）、入居者/家族に対する同意取得状況

2. 今後の課題及び今後取り組みたいことについて

施設向けのサポートや、設計・開発等に関して、課題として考えていらっしゃる等がございましたら、お聞かせください。
その他、他社製品との差別化や今後の課題等のために、今後取り組みたいことがあればお教えてください。

3. その他

その他、お時間があれば、以下の点に関するもお聞かせください。

- 試用貸与サービスの実施有無
- 販促ルート（代理店経由/貴社から直接販売等）
- 費用体系（リース、割引制度、初期費用、本体価格 等）

ヒアリングさせて頂きたい内容は以上でございます。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

③ ヒアリング調査票(カメラタイプの見守り機器を導入している施設等向け)

本日お話を伺いたい事項

① カメラタイプの見守り機器の状況について

- ✓ 導入しているカメラタイプの見守り機器の製品名・台数・導入時期を教えてください。

② カメラタイプの見守り機器の導入後の業務運用の見直し・導入効果について

- ✓ カメラタイプの見守り機器は、具体的にどのような対象者・場面・方法で活用していますか。
例) 新規入所時に1か月間必ず設置し、アセスメントシートへ反映し、ケアプランの計画策定に活用している 等
- ✓ カメラタイプの見守り機器の導入によって、職員側(直接業務・間接業務)・利用者側にどのような効果がありましたか。効果を感じた具体的なケアの場面や、利用者・家族からの声等を差し支えない範囲で教えてください。
例) 体動が多い方に対して設置し、報知前の動き(オムツを触っている等)を確認することで、利用者ニーズの適切な把握に活用している 等
- ✓ カメラタイプの見守り機器の導入後の業務運用の見直しについて、誰が中心となり、どのように行いましたか。
例) 「報知後に映像を確認した上で訪室の優先順位を判断する」という運用にあたり、ICT担当職員がユニットリーダーに対して研修を行い、各ユニットリーダーが朝会や現場対応を通して各介護職員への習慣付けを行った。 等

③ カメラタイプの見守り機器の導入にあたっての説明・同意について

- ✓ 利用者本人に対する説明・同意(同意書)の内容と、同意取得のプロセスを教えてください。
また、利用者本人から同意が取得できない場合、どのように対応されていますか。
例) 入所時の個人情報取得同意に際して、カメラタイプの見守り機器の導入に関して設置する場面や活用方法を説明し、同意を取得している。
- ✓ 職員に対する説明・同意(同意書)の内容と、同意取得のプロセスを教えてください。
例) カメラタイプの見守り機器導入時の研修会において、映像の明度や運用方法を説明し、同意を取得している。
- ✓ 外部訪問者(家族・医師等)に対する説明・同意(同意書)の内容と、同意取得のプロセスを教えてください。
例) 来訪者時に記載する受付シートに「カメラタイプの見守り機器の設置」に関する説明項目を設けており、居室内の撮影等に関する同意を取得している。

④ カメラタイプの見守り機器の運用ルールについて

- ✓ 運用にあたり、具体的にどのようなルールを設けていますか。ルール設定の理由・経緯・周知方法を教えてください。
例) 利用者本人から要望があった場合、朝会で共有し、対象者の排泄介助前に手動でカメラをオフにし、終了後にオンにしている。
- ✓ 取得した録画データの管理・運用にあたり、具体的にどのようなルールを設けていますか。
管理規定を設けている場合、管理規定の名称や他規定との関係性、具体的な内容を教えてください。

⑤ 全体を通して

- ✓ カメラタイプの見守り機器について、効果的な利活用に向けて実施又は留意していることがあれば、教えてください。
例) 職員に向けた定期的な研修の実施、機器の設置位置に関する工夫 等

④ ヒアリング調査票(カメラタイプの見守り機器を導入していない施設等向け)

本日お話を伺いたい事項

① 導入済みの見守り機器について

- ✓ **導入している見守り機器の製品名・台数・導入時期を教えてください。**
- ✓ **導入前には、施設においてどのような課題がありましたか。**
例) 夜間帯の利用者の見守り業務(定期巡回)や介護記録等の職員の業務負担が大きかった。
例) 新人職員比率が高く、出来る限り早急に経験を積むため、先輩職員のケア内容に基づく指導が必要だった。
- ✓ **導入している機器は、具体的にどのような対象者・場面・方法で活用していますか。**
例) 全床にベッドマットタイプの見守りセンサーを導入し、利用者の体動や睡眠状態をモニタリングし、睡眠の質の向上に向けた就寝・起床時間の管理に活用している
- ✓ **導入を検討するにあたり、重視する仕様とその理由を教えてください。**
例) 法人理念として「利用者の尊厳」を重要視していることから、「プライバシーに配慮した映像であること」が判断基準となる。
例) 既設の介護記録システムと連携可能な機器であることが最低条件であり、「機器連携できること」が判断基準となる。

② カメラタイプの見守り機器の導入について

- ✓ **カメラタイプの見守り機器の導入に関するこれまでの検討内容と、導入に至らなかった具体的な理由を教えてください。**
例) 2021年に県補助を活用した導入を検討したが、介護記録システムとの連携ができないことから導入に至らなかった。
- ✓ **どのような機能や環境、制度等があれば、カメラタイプの見守り機器を導入できるかを教えてください。**
例) 居室ごとの個別設定が不要な機器があれば導入を検討する。

※本調査研究は、令和4年度老人保健健康増進等事業として実施したものです。

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の
効果的な活用に向けた実態調査研究事業
報告書

令和5年3月

株式会社日本総合研究所

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング

TEL: 03-6833-6300 FAX:03-6833-9480

令和4年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業

介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の 効果的な活用に向けたポイント集

2023年3月

株式会社日本総合研究所

リサーチ・コンサルティング部門
高齢社会イノベーショングループ

はじめに

介護施設等におけるケアの質向上および生産性向上を目的としたテクノロジーの開発・普及が、国、自治体、関連団体で促進されています。近年、特に、介護施設等への見守り支援機器の導入が進んでいます。

そのなかでも、近年開発・導入が進む**カメラタイプの見守り機器**については、効果的な利活用により、**転倒・転落事故の早期発見や、居室で発生した事故の検証、夜間の訪室業務の負担軽減等の効果が期待**されています。

他方、居室状況等の映像確認や、録画データとしての保存も可能であることから、**高齢者本人や職員等の個人情報の保護や、プライバシーへの配慮等が必要**です。

これらのことを踏まえ、**カメラタイプの見守り機器の効果創出や、適切な運用に向けたポイント**が把握できるよう、「**介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けたポイント集**」を作成しました。

本ポイント集の主な対象者は、カメラタイプの見守り機器を導入したものの、効果が実感できていなかったり、個人情報の保護やプライバシーへの配慮等に悩んだりしている施設等を想定していますが、見守り機器の開発を担うメーカー・ベンダーや、介護ロボットの導入支援を担う自治体職員にも知っていただきたい内容になっています。

本ポイント集が広く活用され、介護施設等におけるケアの質向上、職員の負担軽減に寄与できれば幸いです。

※本ポイント集は、令和4年度老人保健健康増進等事業「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業」の一環として作成したものです。本ポイント集の活用にあたっては、本事業の報告書とあわせてご覧ください。

目次

I. 本ポイント集の位置づけ	P3
II. カメラタイプの見守り機器において期待される効果	P4
III. カメラタイプの見守り機器の活用に向けた7つのポイント	P7
III-1.効果創出に向けた4つのポイント	
①機器導入・活用に向けた推進体制の整備	P8
②多職種の見守り視点での設置対象者選定	P9
③導入後の業務オペレーションの見直し	P10
④継続的なモニタリング	P11
III-1.適切な運用に向けた3つのポイント	
⑤高齢者本人への説明と同意	P12
⑥プライバシーに配慮した機器設定・運用	P13
⑦録画データの安全管理義務の遵守	P14
参考資料 高齢者本人への説明・同意項目（例）	P15

I. 本ポイント集の位置づけ

- ・介護施設等において活用されている見守り機器には、床マットタイプ、ベッドセンサータイプ、カメラタイプ、といったさまざまな種類があります。
- ・その中でも、本ポイント集は、転倒・転落事故防止等への効果が期待されつつも、高齢者本人や職員等の個人情報保護や、プライバシーへの配慮等が必要である「カメラタイプの見守り機器」を対象としています。

介護施設等における見守り機器の概観

本ポイント集の対象

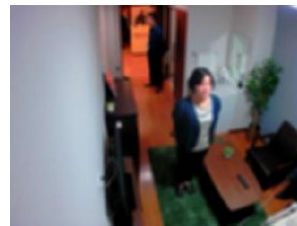
カメラタイプ

- ・カメラ画像や赤外線画像により、訪室しなくても居室等の様子が把握できる見守り機器
- ・ベッドセンサータイプの見守り機器と連動する機器や、スタンドアロンタイプの機器もある

通常映像型 (例)



パラマウントベッド（株）より提供



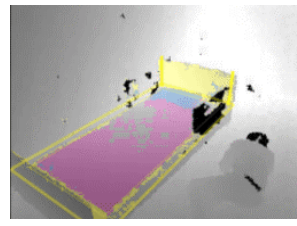
Panasonic（株）より提供



シルエット型 (例)



キング通信（株）より提供



ノーリツプレジジョン（株）より提供



ベッドセンサータイプ

- ・ベッドに敷くタイプの見守り機器。起き上がり、立ち上がりを検知できるため、離床マットよりも早く転倒予兆を検知することができる
- ・睡眠の深度やバイタル等を検知する機能を持つ機能を有するものもある

床マットタイプ

- ・踏むとナースコールに連動する見守り機器
- ・手軽に導入可能だが、発報後に駆け付けても転倒防止できない、踏み越えてしまう、といった課題がある

※本ポイント集の対象であるカメラタイプの見守り機器は、主に居室に設置されるものであり、共用部等に設置されることのある防犯カメラとは異なります。

コラム：カメラ画像に依存しない室内状況把握

最近、天井に設置したミリ波レーダー等により室内状況を把握し、画像や映像ではなくアイコンで居室状況を知らせるような機能を持つ見守り機器も登場しています。

Ⅱ. カメラタイプの見守り機器において期待される効果

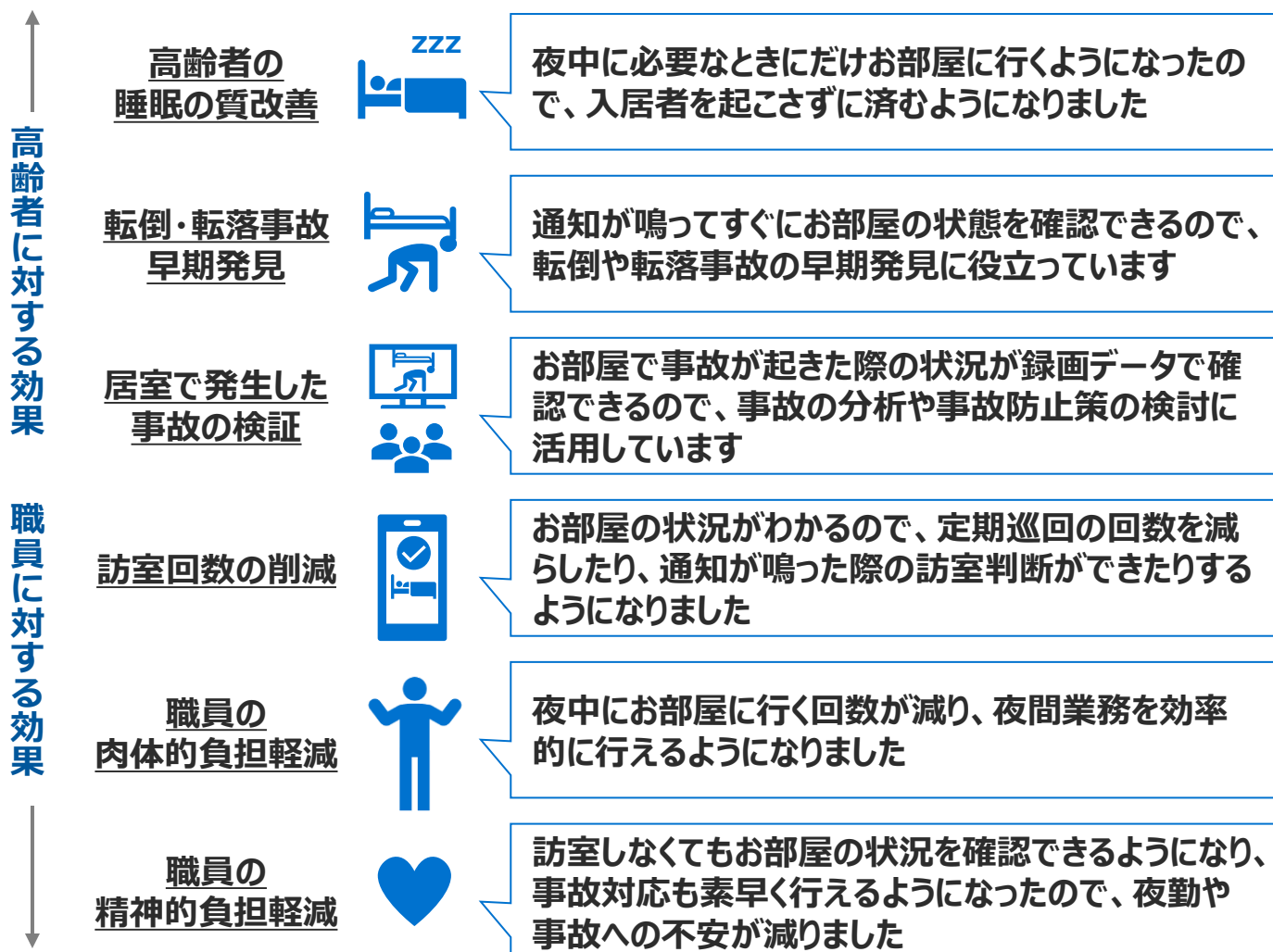
- カメラタイプの見守り機器を用いることで、パソコンやスマホ等を通して、居室内の状況を映像やシルエット画像等で確認できます。
- 効果的な活用により、睡眠の質改善や、事故の検証、職員負担の軽減など、様々な効果が期待でき、高齢者の自立支援につながります。

カメラタイプの見守り機器の機能

居室内の映像等による状態把握

パソコンやスマホ等を通して、居室内の状況を映像やシルエット画像等で確認できる撮影された映像等を、データで保存し、あとから振り返ることができる

カメラタイプの見守り機器によって得られる効果



ケアの質や高齢者のQOLが向上し、高齢者の自立支援につながる

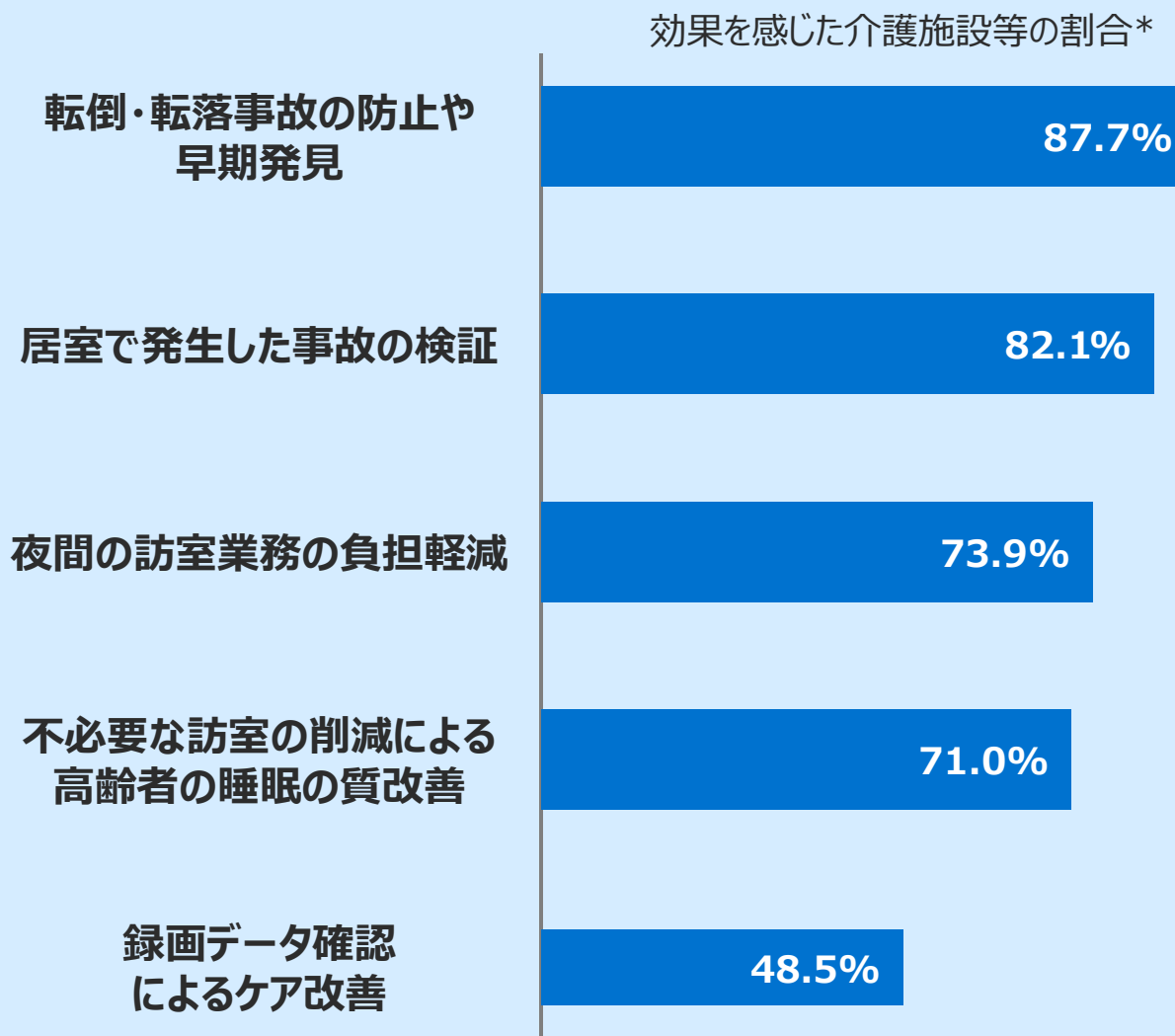
※カメラタイプの見守り機器単体での運用に加え、他のセンサー（ベッドセンサー型見守り機器等）やナースコール等と連携することで、さらに効果が発揮される場合があります。

※製品により機能差があるため、得られる効果は製品により異なる場合があります。

カメラタイプの見守り機器における導入効果

- カメラタイプの見守り機器を導入した介護施設等の70%以上が、転倒・転落事故の早期発見、事故検証、夜間訪室の負担軽減、高齢者の睡眠の質改善といった導入効果を感じています。

カメラタイプの見守り機器により効果を感じられた内容（上位5項目）



*各都道府県で実施した「介護ロボットの導入支援事業」（地域医療介護総合確保基金、令和元年度から令和3年度）を活用して見守り機器を導入した介護施設等に対して、本調査研究事業にて実施したアンケート調査を基に作成。「カメラタイプの見守り機器を導入している」と回答した318件を母数とし、【カメラタイプの見守り機器導入により効果を感じられた内容について、5段階で回答してください】の設問に対して、「非常に効果がある」もしくは「やや効果がある」と回答した割合を算出した。

カメラタイプの見守り機器における導入効果 ～事例～

事例紹介：居室で発生した事故の検証に活かしている事例

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none">居室で発生した事故の前後の状況を録画データで確認し、事故が発生した原因を詳細に検証している録画データ確認による検証結果を踏まえた再発防止策を事故防止委員会で話し合い、施設のリスクマネジメント向上に活かすことができている
事例	<p>特別養護老人ホームA（60床）では、夜間の居室内での転倒転落事故が月5件以上発生し、転倒防止策に悩んでいた。</p> <p>そのため、特に転倒転落リスクの高い入居者10名を選定し、高齢者本人への説明・同意取得を行ったうえで、通常映像型の見守り機器を10台設置した。</p> <p>ある日の夜、入居者aさんが夜間に転倒。翌日、事故防止委員会を開催し、転倒の前後の状況を録画データで確認したところ、トイレに行こうとしたaさんが、居室に置かれているゴミ箱につまづき、転倒していたことが判明した。</p> <p>再発防止策を事故防止委員会で話し合い、aさんの居室ではゴミ箱の設置位置を動線上に置かない、というルールを設定。職員間で周知徹底した。その結果、aさんによる夜間の転倒は起こらなくなった。</p> <p>その後も、居室における事故発生後の動画による検証を行うこと、再発防止策を徹底的に話し合うことを仕組み化した結果、転倒転落事故が月2件程度に減少した。</p>

事例紹介：夜間の訪室が削減されたことにより、高齢者の睡眠の質が改善した事例

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none">カメラタイプの見守り機器の活用により、訪室判断を最適化した夜間訪室による睡眠障害が無くなった結果、入居者の睡眠状況が改善した加えて、夜勤職員の負担が軽減された
事例	<p>特別養護老人ホームB（4人部屋の多床室）で暮らす入居者bさんは、夜間に目が覚めていることがよくあり、日中に傾眠傾向となるなど、昼夜逆転の傾向があった。</p> <p>bさんの夜間の様子を確認したところ、夜間訪室のタイミングで目覚め、その後入眠することができていない、ということがわかった。</p> <p>そのため、高齢者本人への説明・同意取得を行った上で、bさんの部屋の4名にカメラタイプの見守り機器を設置し、居室内の入居者をスマートフォンによる映像で確認し、優先度や必要度を確認し訪室判断する、という業務ルールを策定し、実行に移した。</p> <p>その結果、夜間の訪室回数が減り、bさんを必要以上に夜間起こしてしまうようなことが減った。機器を設置して半年後、bさんの睡眠レポートを確認すると、導入前には4時間だった1日の睡眠時間平均が6時間半に増加していた。また、昼食後の昼寝の時間も少なくなり、日中の離床時間が増加した。併せて、遠隔での見守りを実践したことで、夜勤職員の負担が軽減された。</p>

Ⅲ. カメラタイプの見守り機器の活用に向けた7つのポイント

- カメラタイプの見守り機器の効果創出、適切な運用に向けたポイントは、大まかに7つに分かれます。
- 次のページから、それぞれのポイントと、関連する事例を紹介します。

カメラタイプの見守り機器の活用に向けた7つのポイント

効果創出に向けたポイント

1

機器導入・活用に向けた推進体制の整備

- **機器導入・活用を推進するプロジェクトチームを整備し、管理者・現場双方が関与しながら効果創出に向けた取組**を行いましょ。
- 現場の介護職員に加え、多職種がメンバーとして参画し、施設一丸で導入と活用に取り組むことが重要です。

2

多職種の視点での設置対象者選定

- **多職種の視点から高齢者のアセスメントを行い、カメラタイプの見守り機器の設置が必要な入居者を選定**しましょ。
- 介護職員、看護職員、機能訓練指導員、ケアマネジャー等の視点から幅広くアセスメントし、なぜその人に機器設置が必要なのか、検討することが重要です。

3

導入後の業務オペレーションの見直し

- 機器導入後、訪室業務など、**関連するオペレーションの見直し**を行いましょ。
- **業務運用・体制・人員配置の見直し、ルールや基準の変更・追加等**が考えられます。

4

継続的なモニタリング

- **当初の設置目的に応じた効果が発揮できているか、継続的にモニタリング**を行いましょ。
- 当初の**機器設置の必要性は変わり得ます**。必要に応じて取り外すことも検討しましょ。

5

高齢者本人への説明と同意

- 高齢者本人に、**撮影の目的や効果、撮影の方法、録画データの管理等について説明し、同意を得る**必要があります。
- 利用開始後に高齢者本人の意思が変化することもあり、**説明・同意は、必要に応じて繰り返し行いましょ**。

6

プライバシーに配慮した機器設定・運用

- **高齢者のプライバシー権に配慮した機器運用の工夫**が求められます。
- 例えば、**撮影映像の画質調整や、不必要なタイミングでは撮影映像を見ない**、といった運用が必要です。

7

録画データの安全管理義務の遵守

- 録画データは、個人情報保護法にしたがった適切な管理が必要です。
- **管理ルールの策定、取扱責任者の選任、アクセス権限の限定、定期的な職員研修などの安全管理措置**を講じる必要があります。

適切な運用に向けたポイント

ポイント① 機器導入・活用に向けた推進体制の整備

- 機器導入・活用を推進するプロジェクトチームを整備し、現場職員・管理者双方が関与しながら効果創出に向けた取組を行きましょう。

委員会やプロジェクトチームの組成

- カメラタイプの見守り機器は「導入して終わり」ではなく、**介護業務の手順・オペレーションを見直して、はじめて効果を創出できます。**
- 現場の介護職員に加え、看護職員、機能訓練指導員、ケアマネジャー等が関与した委員会やプロジェクトチームを組成し、**施設一丸で導入と活用に取り組むことが重要です。**



現場と管理者双方の関与

- 機器を使いこなすためには、初期の段階から、**現場職員にプロジェクトに関わってもらい、現場と管理者双方が関わりながら取り組むことが重要です。**

機器の活用方法やルールの周知

- 機器導入後、**機器の活用方法やルールを整備し、それを現場全体に周知することが重要です。**
- 職員向けマニュアルや研修等を行うことも有用です。

事例紹介：管理者・現場双方が関与しながら機器の効果創出を目指した事例

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none">多職種がメンバーとして参画している介護ロボット委員会を立ち上げ、カメラタイプの見守り機器の活用に向けた業務ルール策定等を検討した
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事例	<p>特別養護老人ホームAでは、転倒・転落事故の防止や早期発見、居室で発生した事故の検証を目的として、カメラタイプの見守り機器を導入した。</p> <p>導入にあたり、法人理事長で施設の運営方針を統括する施設長が主導して機器導入を進めていたが、職員のなかで機器導入の意義の理解にバラツキがあり、興味がない職員や必要性を感じていない職員がみられ、機器の活用が進まなかった。</p> <p>そこで、施設長のみならず、介護主任、ユニットリーダー、機能訓練指導員、看護師、生活相談員といった多職種からなる介護ロボット委員会を立ち上げ、機器活用に向けた業務ルール策定等を進めた。特に、前職がデジタル関係のバックグラウンドを持っている機能訓練指導員を「機器導入・活用促し役」として任命し、転倒・転落事故の防止や早期発見、居室で発生した事故の検証に向けた機器活用のルール化を進めていった。</p> <p>介護ロボット委員会を、現場の意見・要望をすり合わせる場として活用した結果、トップダウンではなく、ボトムアップで検討が進み、現場職員の課題認識と合致した機器活用ルールを策定できた。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ポイント② 多職種の視点での設置対象者選定

- 多職種の視点から高齢者のアセスメントを行い、真に必要な高齢者に対して、カメラタイプの見守り機器の設置を検討しましょう。

多職種の視点からのアセスメント

- カメラタイプの見守り機器の導入が**真に必要な入居者に対してのみ、設置を検討する必要があります**。
- 介護職員、看護職員、機能訓練指導員、ケアマネジャー等、**多職種の視点から幅広くアセスメントし、なぜその人に機器設置が必要なのか、検討しましょう**。例えば、リハビリテーション専門職や機能訓練指導員による転倒・転落リスクのアセスメントや、看護職員による医療状況のアセスメント等が有用です。



入居者Aさん
寝たきりで
夜もよく寝ている
→機器設置不要



入居者Bさん
転倒歴があり
徘徊傾向もある
→機器設置必要



多職種の視点でのアセスメント

介護職員、看護職員、ケアマネジャー、機能訓練指導員等

事例紹介：多職種の視点でのアセスメントを通して機器を設置した事例

事例のポイント

- 多職種でのアセスメントにより、カメラタイプの見守り機器導入台数や、カメラタイプでの見守り機器の対象となる入居者を決定した
- 定期的に多職種によるアセスメント、カンファレンスを行い、カメラタイプの見守り機器による見守りの対象者を再検討している

事例

介護老人保健施設D（88床）は、職員が不足している状態にあり、主に夜間業務の人的負担軽減のためシルエット型の見守り機器導入を検討した。導入に際しては、**リハビリテーション専門職を中心に、介護職員や看護職員とも連携し入居者のアセスメントを実施**し、必要台数として12台を導入。シルエット型据え置き居室を6室設定し、残りのシルエット型6台はポールを用いた移動式にした。

シルエット型での**見守り対象とするのは転倒・転落のリスクが高い入居者とし、過去の転倒歴、徘徊や昼夜逆転の傾向、服薬状況などから要件を設定し、真にシルエット型での見守りが必要な入居者を選定**。入居者への説明・同意を得た上で、継続して見守りが必要な入居者はシルエット型据え置き居室とし、新規や状態変化があり、見守りの必要性を検討する入居者は移動式のシルエット型を設置している。

シルエット型設置後は転倒・転落事故が減少し、事故発生時の原因分析にも活用することができている。また、シルエット型での**見守り対象者は3か月ごとにリハビリテーション専門職のアセスメントをもとにカンファレンスで再検討しており、シルエット型の要不要を定期的に判断**している。

ポイント③ 導入後の業務オペレーションの見直し

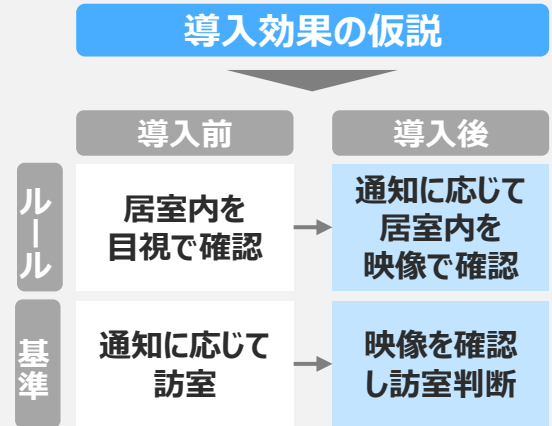
- 導入後、訪室業務など、関連するオペレーションの見直しを行きましょう。

業務運用・体制・人員配置の見直し

- カメラタイプの見守り機器の導入により、不要になる作業や、手順が変わる作業があります。
- 導入前に検討した目的・効果の仮説に合わせて、**業務運用の見直し、シフト調整、人員配置の見直し、配置転換等**を検討しましょう。

ルール・基準の変更、追加

- カメラタイプの見守り機器の導入に伴い、訪室の判断基準や、映像確認ルールなどの変更や追加が必要となるため、**業務のルール・基準の見直し**を行きましょう。



※厚労省老健局「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（施設系サービス）」の「2. 業務の明確化と役割分担」も参照してください。

事例紹介：導入後の業務オペレーションを見直し、導入効果を創出した事例

事例のポイント

- カメラタイプの見守り機器導入後、**定期巡回の回数を減らし、アラート発報時の訪室判断を映像確認により実施**するようオペレーションを変更。
- 職員間の連携体制を整え、確実な休憩時間も確保**し夜間業務における職員負担を軽減した。

事例

特別養護老人ホームE（70床）は、夜間業務における入居者の見守りを省力化するため各種見守り機器を導入。多職種によるアセスメントのもと、入居者への説明・同意を得た上で、転倒・転落リスクの高い入居者はシルエット型（7台）とシート型（70台）を併用し、体動が多い入居者には通常映像型（10台）とシート型、寝たきりの入居者はシート型のみでの見守りを実施。

見守り機器導入前は2時間ごとに定期巡回に加え、転倒・転落リスクの高い入居者には頻回に訪室して状態確認を行っていたが、**カメラタイプの見守り機器導入後は定期巡回を4時間ごとに変更**し、シルエット型もしくは通常映像型とシート型見守りセンサーを併用している入居者からの**アラート発報があった場合はまず映像確認を行い、訪室判断を行うようオペレーションを変更**した。

加えて、夜勤職員が確実に夜勤時に1時間休憩を取れるようにし、**あるエリアの職員が休憩時は別エリア担当の職員が見守り機器のリアルタイムモニターとインカムを用いて連携し、見守りをカバーし合う体制に変更**した。

結果として**夜間の訪室回数が2/3程度に減少し、夜勤における職員負担が軽減**した。

ポイント④ 効果検証・継続的なモニタリング

- 当初の設置目的に応じた効果が発揮できているか、継続的にモニタリングを行いましょ。
- 機器設置の必要性は変わりうるため、必要に応じて取り外しも検討しましょ。

効果検証の実施

- 当初の設置目的に応じた**効果が発揮できているか、導入後に効果検証を行いましょ。**
- 転倒転落事故の早期発見が目的であれば、事故早期発見数の検証、訪室回数の削減が目的であれば、訪室回数の変化の検証が考えられます。

設置の必要性の継続的なモニタリング

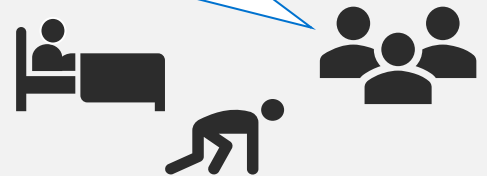
- **当初の機器設置の必要性は変わり得ます。**例えば、機能訓練によって高齢者の身体機能が向上し、転倒リスクが低下する場合があります。
- また、ケアや環境整備の工夫により、機器を使わずとも設置目的が達成できる場合があります。そのような変化によって**カメラタイプの機器設置が不必要になった場合は、機器を取り外したり、スイッチをオフにする必要があります。**

例)シート型見守りセンサー + 「映像確認型」

Aさん	Bさん
やや動きあり	転倒リスク大
起き上がりで通知&映像確認	覚醒で通知&映像確認



カメラタイプの見守り機器の設置必要？ 不必要？



事例紹介：設置効果や設置の必要性を、継続的にモニタリングしている事例

事例のポイント

- カメラタイプ設置について**ケアプランに位置付けて、定期的にモニタリングを行い、設置効果や設置の必要性を多職種で検討**している
- カメラタイプを設置している入居者について**月一回アセスメントを行い、設置効果や設置の必要性を検討**している

事例

特別養護老人ホームF（60床）では、特に転倒転落リスクが高い入居者5名に対し、説明・同意を得た上で、カメラタイプの見守り機器（取り外し可能型）を設置し、運用している。

当施設では、カメラタイプ設置について、高齢者への説明・同意を取得した上で、**ケアプランに位置付けており、月一回アセスメントを行い、設置効果や設置の必要性を検討**している。

入居者fさんは、転倒による入院後、周辺症状が急激に悪化し、夜間の転倒リスクがさらに高くなったため、カメラタイプの見守り機器を設置し、3カ月間運用した。機器設置により、ベッドからの起き上がりや立ち上がりを早急に把握できるようになり、**転倒を未然に防ぐことができた。**

3か月後、服薬調整の結果、fさんの周辺症状が落ち着き、夜間の転倒リスクが低くなった。Fさん自身からも、カメラタイプ見守り機器で見守られていることに対して後ろ向きコメントが聞かれた。これらの情報、および看護師による医学的なアセスメントを踏まえて、多職種で話し合った結果、fさんに対する**機器設置は不必要と判断し、機器を取り外すことにした。**

ポイント⑤ 高齢者本人への説明と同意

- 機器の利用にあたっては、高齢者本人に、撮影の目的や効果、撮影の方法、録画データの管理等について説明し、同意を得る必要があります。
- 利用開始後に高齢者本人の意思が変化することもあり、説明・同意は、必要に応じて繰り返し行いましょう。
- 映像に映る可能性のある職員や外部訪問者等への説明と同意も必要です。

プライバシー権や個人情報保護に関する理解

どのような人にも、部屋で一人で過ごしたい、他人に生活を見られたくない、みだりにカメラで映されたくないという思いがあり、**プライバシー権として保護**されます。また、画像や映像は個人情報・個人データに該当し、**個人情報保護法にしたがった取得や管理が必要**です。プライバシー権や個人情報保護に関して、事業所内で理解を深めましょう。

高齢者本人への説明と同意、継続的な意思確認

機器の利用にあたっては、個人情報保護法により、撮影の目的や効果、撮影の方法、録画データの管理方法、保管期間等について、**高齢者本人にも理解できるよう丁寧に説明し、同意を得る必要**があります。シルエット型の機器や、映像がクリアに見えない運用をしている場合も同様です。

また、**高齢者本人の意思は変わることもあり**、説明・同意は、入居時、設置時だけでなく、**必要に応じて繰り返し行う**必要があります。カメラタイプの見守り機器の使用に否定的な態度・様子がある場合には、同意が得られなくなったものとして、機器を外したり、スイッチをオフにしなければなりません。**高齢者本人の意思を尊重した機器の利用が大切**です。

※認知症の方の意思決定支援に関しては、厚労省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を参照してください。

職員や外部訪問者等への説明と同意

映像には、高齢者本人のみならず、職員や外部訪問者等も映り込む可能性があります。職員や外部訪問者等へのプライバシー権や個人情報保護の観点から、高齢者本人と同様に説明や同意が必要です。

事例紹介：カメラタイプの見守り機器についてケアプランに位置付けている事例

事例のポイント

- **カメラタイプ設置についてケアプランに位置付け、ケアプランの説明時にカメラタイプについても説明し、同意を得ている**

事例

介護付き有料老人ホームGに住む入居者gさんは、軽度認知症を有している。歩行機能はある程度保たれているが、頻尿のため自室のトイレに一人で行こうとする傾向にあり、夜間の転倒リスクが非常に高い。骨粗しょう症も有しており骨折の危険性もあることから、カメラタイプの見守り機器の設置を検討した。

設置にあたっては、高齢者への説明・同意を取得した上で、**ケアプラン上にもカメラタイプの見守り機器を位置付け、ケアプランの説明時に本人にも説明を行った**。説明に当たっては、**機器映像のイメージが掲載された説明資料をなるべく平易な言葉**を使った。

その結果、機器設置の目的や、設置により転倒を早期に発見できる可能性がある、という意義を理解していただくことができ、スムーズに設置することができた。

ポイント⑥ プライバシーに配慮した機器選定・設定・運用

- 高齢者のプライバシー権に配慮した機器運用の工夫が求められます。
- 例えば、撮影映像の画質調整や不必要なタイミングでは撮影映像を見ないとした運用が必要です。

映像確認のタイミングの配慮

- どのような人にも、私生活の様子をみだりに他人に見られない権利（プライバシー権）があります。
- 高齢者のプライバシー権に配慮し、**通知があったタイミングのみ撮影映像を見る**こととし、**不必要なタイミングでは映像を見ない**、といった運用が必要です。

例) 転倒・転落やバイタルの異常検知などの通知があったタイミングのみ映像を確認

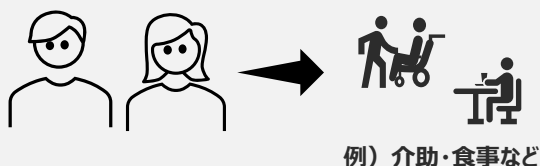


映像の画質調整

- **見守りの範囲を超える情報**（高齢者の表情など）が**クリアに見えないよう**、撮影映像の画質を調整しましょう。
- シルエットタイプの見守り機器を活用することも一案です。

表情までクリアに確認できる

外見は不明瞭だが状況は確認できる



事例紹介：ケアの内容に応じて、見守り機器の映像をオフにしている事例

事例のポイント

- 職員が**排泄介助**や**着衣・脱衣介助**をする際には、**居室の入口のボタンで撮影をオフにしてから、入室し、介助するようにルールを設定している。**
- **運用ルールを书面化し、全職員ミーティングでの確認や掲示をするほか、定期的に見直し**を行っている。

事例

特別養護老人ホームH（85床）では、居室内での事故発生率の低減を目的として、居室内の状況を把握できるシルエット型の見守り機器を高齢者の同意を得た上で30台導入。職員に対して、シルエットタイプの見守り機器の導入に関する説明会を行った際に、「自分だったら、脱衣している姿は見られたくない」といった声を受けたため、事故対策委員会において、運用ルールを検討。

法人の理念として「プライバシーを最大限配慮すること」を掲げていることから、「**脱衣**」が**発生する①排泄介助、②着衣・脱衣介助時は撮影を停止する**というルールを設定。ルールは**书面化した上で、掲示板に掲示していつでも職員が確認できるようにするほか、全職員ミーティングでの説明も実施**。職員からの聞き取りに基づき、居室内に入室する前に切り替えができるよう、居室入口にボタンを設置。

運用後、撮影停止後に「開始」ボタンを押し忘れることや、撮影停止中にヒヤリハットが生じたため、**事故対策委員会で定期的な見直し**を行っている。

結果として、事故発生率が低減するほか、職員から「ヒヤリハット・事故の原因が明確であり、ケアの改善ポイントがわかりやすい」といった声が挙がっている。

ポイント⑦ 録画データの安全管理義務の遵守

- 録画データは、個人情報保護法にしたがった適切な管理が必要です。

録画データの適切な管理

- 録画データは、入居者の要配慮個人情報もしくは個人情報に該当します。また、職員や訪問者など映り込んだ人の個人情報に該当する場合があります。
- そのため、**個人情報保護法にしたがった適切な管理が必要**であり、管理ルールの策定、取扱責任者の選任、アクセス権限の限定、定期的な職員研修などの**安全管理措置を講じなければなりません**（下例参照）。目的外利用や第三者提供も制限されます。

録画データの安全管理措置（例）

体制・ルールの整備	<ul style="list-style-type: none">録画データの取扱いに関するルールの策定録画データ取り扱いの責任者の任命録画データ取り扱い状況の把握および安全管理措置の見直し
データの管理	<ul style="list-style-type: none">録画データを取り扱う区域の管理録画データの定期的な削除録画データへのアクセス権限の限定アクセス者の識別と認証（録画データへのパスワードの付与等）外部からの不正アクセスの防止（セキュリティ対策ソフトの導入等）
職員教育	<ul style="list-style-type: none">データ管理等に関する定期的な職員研修

※録画データ含む個人情報の安全管理措置は、個人情報保護法により公表が義務付けられています。

事例紹介：録画データの管理に配慮した事例

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none">録画データにアクセス制限を設け、特定のアカウントのみ閲覧可というルールを設定録画データの外部持ち出しやダウンロードを禁止高齢者に対しては、録画データの運用ルールも含めて説明し、同意を取得
事例	<p>特別養護老人ホームIでは、夜間の転倒事故の分析や訪室の優先順位の判断を目的として、起き上がりや転倒等の通知前後を録画することができ、録画データは10日間保存された後に自動削除されるシルエット型の見守り機器を導入。</p> <p>高齢者・家族への説明会において「録画データの取扱いはどのようなか」と質問を受けたことをきっかけに、録画データの閲覧・外部持ち出しに関する規定を策定。まず、録画データにはアクセス制限を設定し、施設長又事故検証を行う事故対策委員会の担当職員のアカウントのみ閲覧可とし、それ以外の職員の閲覧を制限。次に、基本的に外部持ち出しやダウンロード、第三者への提示は不可とし、委員会で検証する場合にも特定職員の端末を利用するほか、家族からの要望があった場合も開示請求等手続きにより合理的な理由があると判断した場合のみ提示。さらに、見守り機器を設置する場合、高齢者・家族に対して設置目的だけではなく、録画データの取扱いを含めた運用規定まで説明し、同意を取得。</p> <p>その結果、高齢者・家族からの理解を得つつ、録画データを用いた夜間の転倒事故の分析を行うことができ、さらなるケアの質向上につながった。</p>

参考資料 高齢者本人への説明・同意項目（例）

- 介護サービスの提供にあたっては、高齢者本人に対してサービス内容を丁寧に説明し、納得いただく等、**高齢者本人の意思を尊重した対応が欠かせません。**
- カメラタイプの見守り機器の設置、利用についても、対象となる方のプライバシー権や個人情報の保護を踏まえ、**撮影の目的や得られる効果を十分に説明し、理解、納得を得て行う必要があります。**
- 具体的には、下記のような項目について、分かりやすい言葉で丁寧に説明し、同意を得て行います。

高齢者本人への十分な説明・同意が必要となる項目（例）

設置目的	<ul style="list-style-type: none">カメラタイプの見守り機器による撮影の目的録画の目的（録画データを保存する場合）機器設置により期待している効果
機器の概要	<ul style="list-style-type: none">機器本体の写真撮影映像のイメージ
機器の使用 方法	<ul style="list-style-type: none">機器の設置場所（居室、共用部等）撮影時間（常時撮影、転倒等前後のみ等）撮影映像の閲覧可能者撮影映像の確認方法（パソコン、スマートフォン等）
録画データの 管理	<ul style="list-style-type: none">録画データの保管場所録画データの保管期間録画データの閲覧可能者の範囲
録画データの 目的外利用や 第三者提供	<ul style="list-style-type: none">録画データの目的外利用にあたってのルール・手続き録画データの第三者提供にあたってのルール・手続き
その他留意点	<ul style="list-style-type: none">設置の同意はいつでも撤回可能であること家族や来訪者も撮影映像に映り込む可能性があること
責任者と 苦情申し出先	<ul style="list-style-type: none">カメラタイプの見守り機器の設置・使用・データ管理の責任者と苦情の申し出先

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業

介護施設等におけるカメラタイプ^oの見守り機器の 効果的な活用に向けたポイント集

2023年3月

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
高齢社会イノベーショングループ

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング
TEL : 03-6833-6300 FAX : 03-6833-9480

本ポイント集は、令和4年度老人保健健康増進等事業「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業」の一環として作成したものです。